



清俗紀聞

第三

卷之三	射帙
卷之四	冠服
卷之五	飲食
	間學

五
冊

3522
3



門ノ7
號3522
卷3



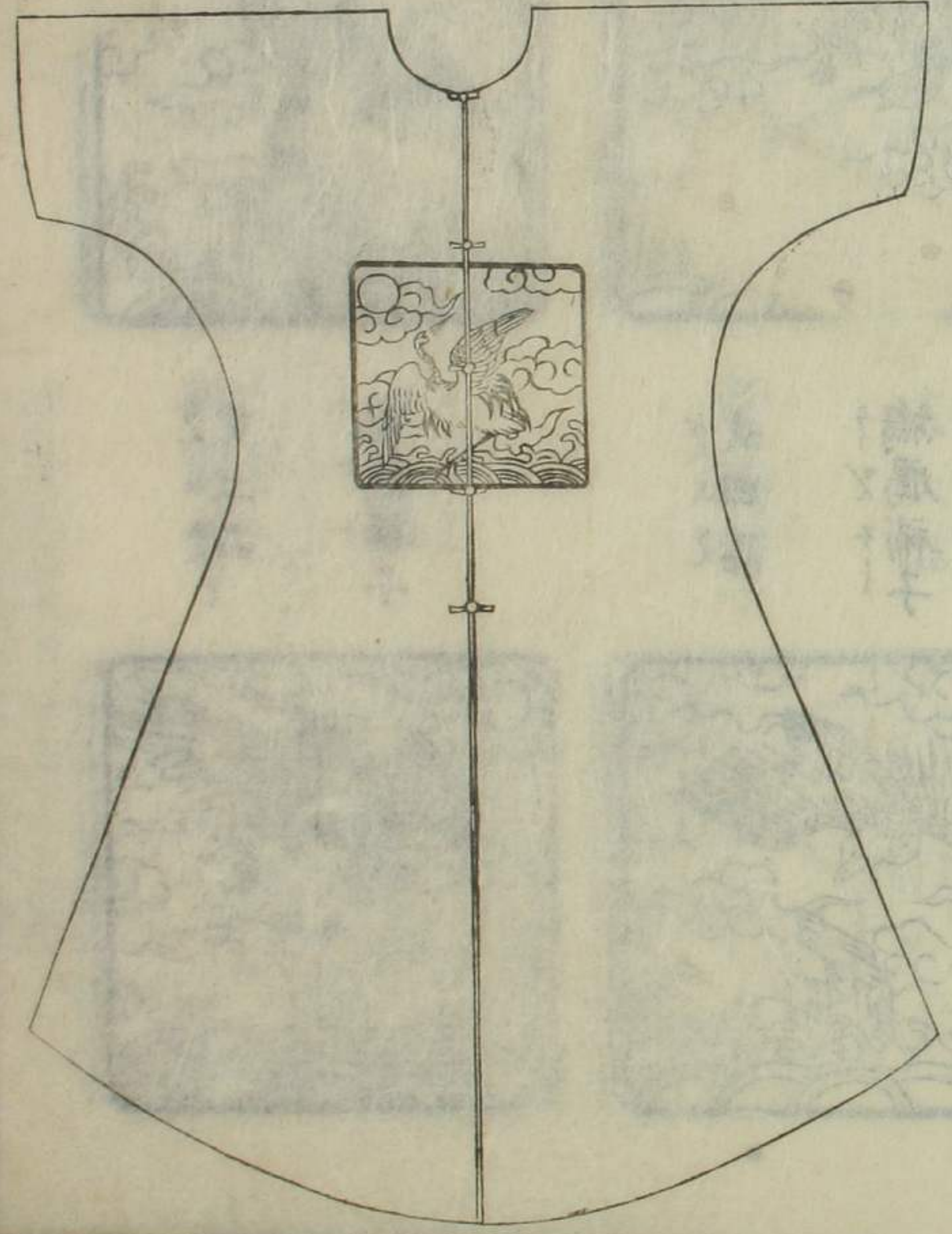
清俗紀聞卷之三

冠服

文武各官黼
服俱天青色

蟒衣

職之大小看前
後心補子分也



冠服

昭和41年12月20日寄
原安三郎氏贈

鷺子

文一品

仙鶴補子



文二品

錦鷄補子



文三品

孔雀補子



文四品

鴻鴈補子



文五品

白鷗補子



文六品

鷺鷥補子



文七品

鴻鴈補子



文八品

鷓鴣補子



冠服

<p>武七品 彪補子</p>	<p>武六品</p>	<p>武四品 豹補子</p>	<p>武三品</p>
		<p>武五品 熊補子</p>	

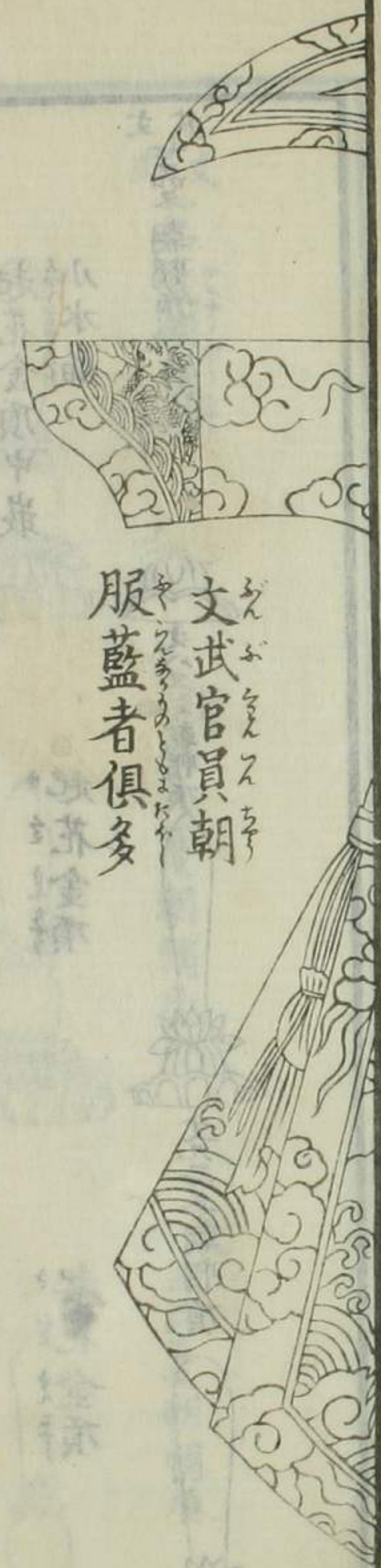
<p>武一品 麒麟補子</p>	<p>武一品</p>	<p>文九品 黃鸞補子</p>	<p>文九品</p>
		<p>獨角獬豸補子</p>	
<p>武二品 獅子補子</p>	<p>武二品</p>	<p>都察院及外省風憲各官補子</p>	

藍雲緞披肩
文武各官司



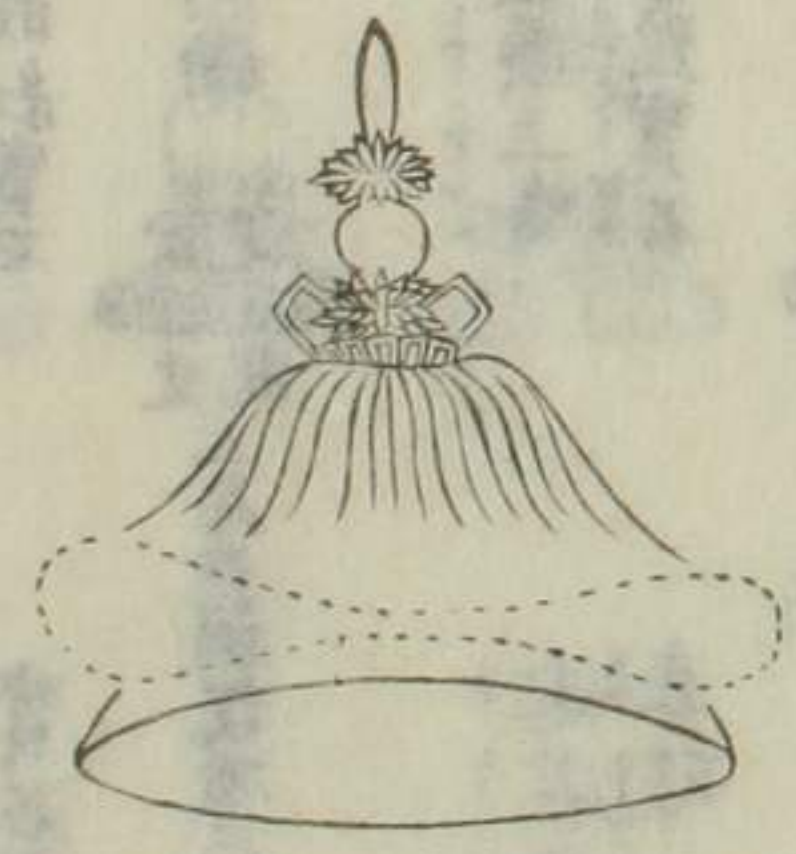
蟒袍

文武官員朝服
藍者俱多



文武冬朝帽

文武夏朝帽

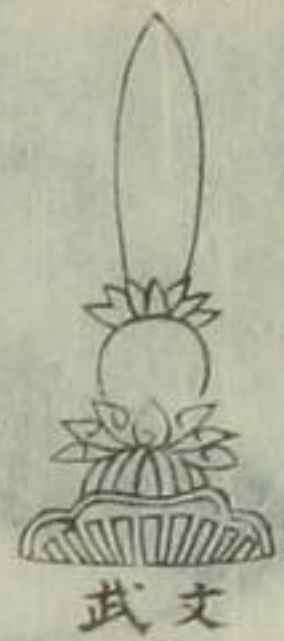


冠服

四

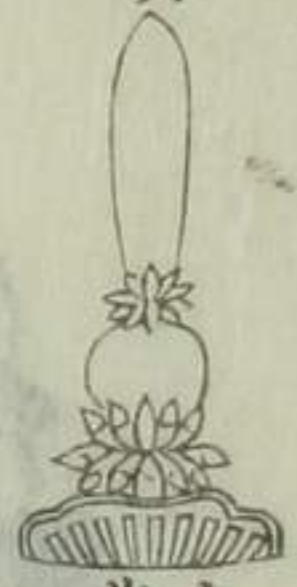
帽頂

起花金盤頂上啣
紅寶石中嵌真珠



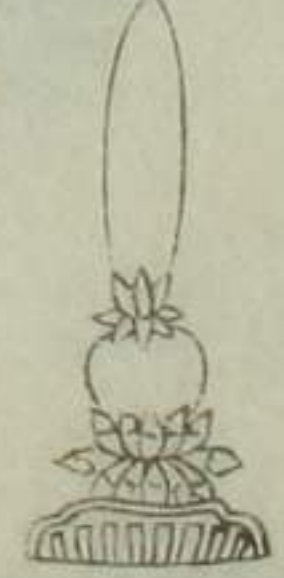
武文

起花金盤頂上啣起
花珊瑚中嵌紅寶石



武文

起花金盤頂上啣藍
寶石中嵌紅寶石



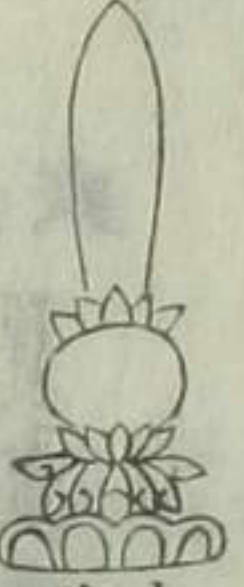
武文

起花金盤頂上啣青
金石中嵌藍寶石



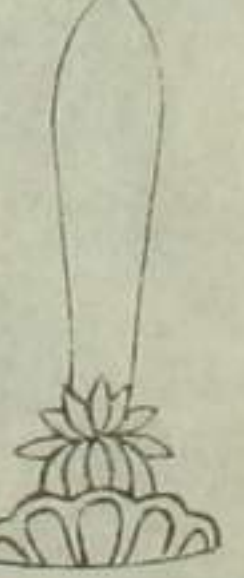
武文

起花金盤頂上啣
水晶中嵌藍寶石



武文

起花金盤頂上啣
車磔



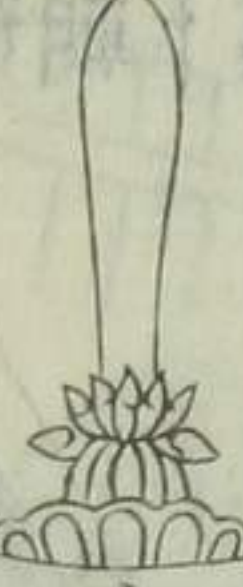
武文

起花金頂中嵌
小水晶



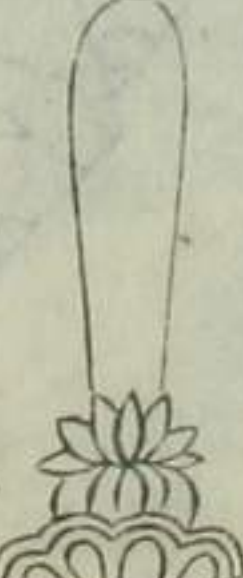
武文

起花金頂



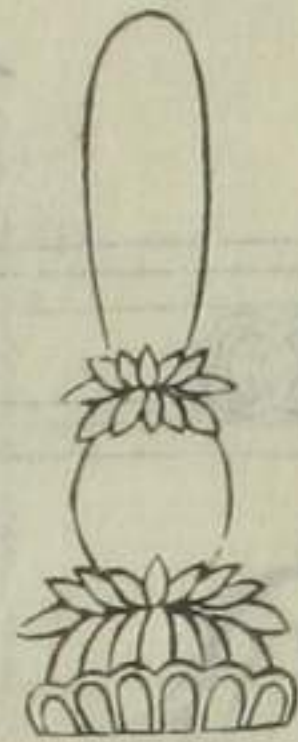
武文

起花金頂

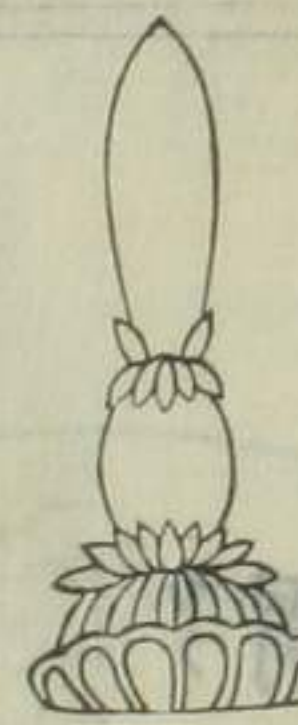


武文

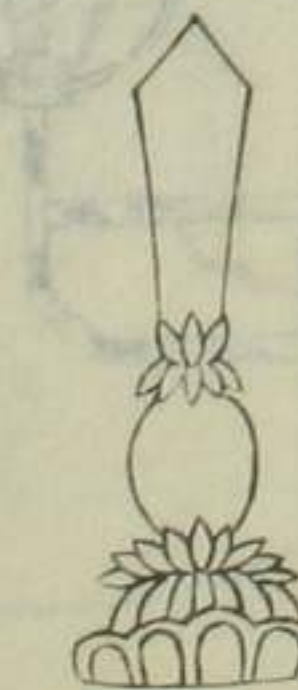
武文
一品夏朝帽頂



武文
二品夏朝帽頂



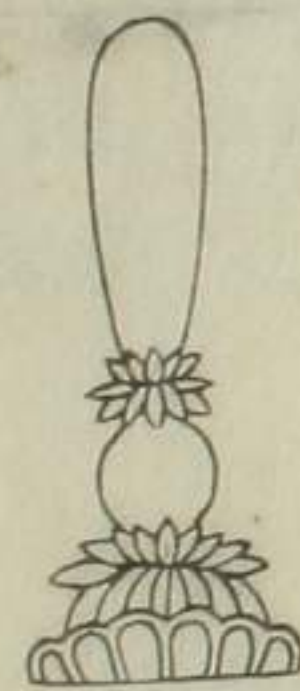
武文
三品夏朝帽頂



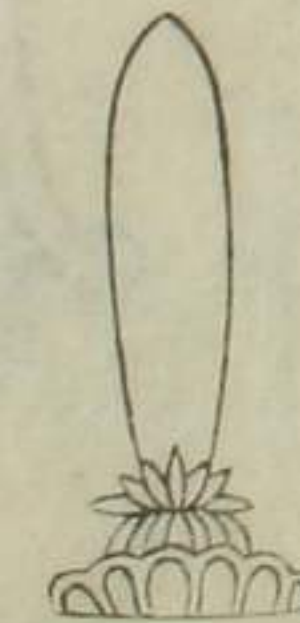
武文
四品夏朝帽頂



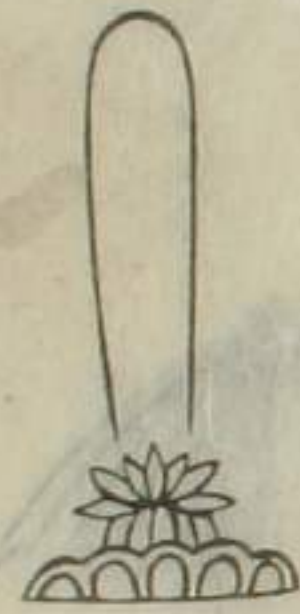
武文
五品夏朝帽頂



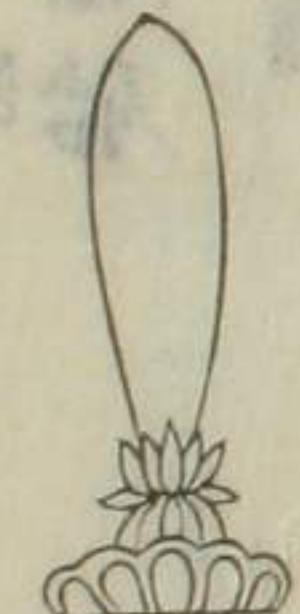
武文
六品夏朝帽頂



武文
七品夏朝帽頂

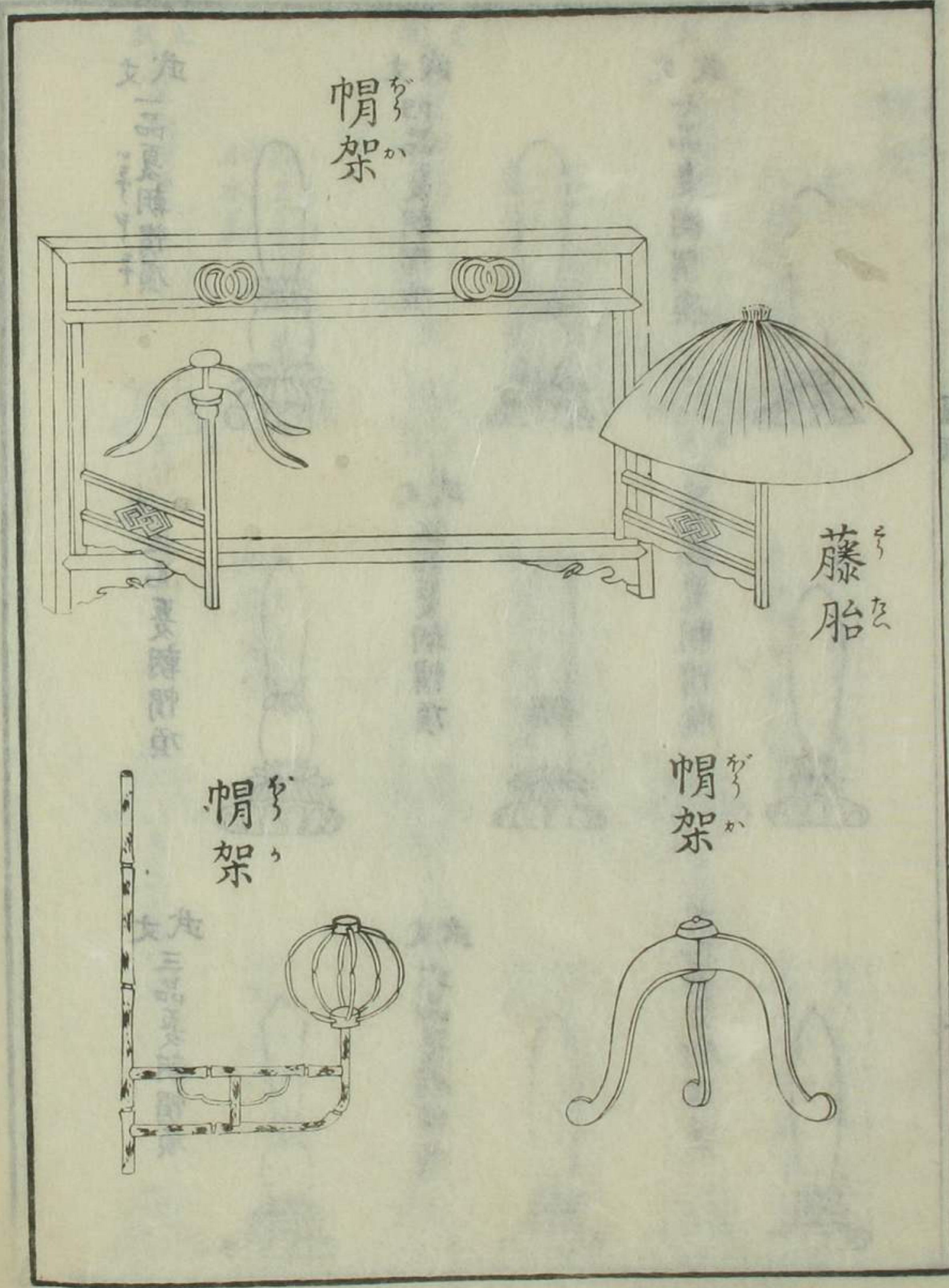
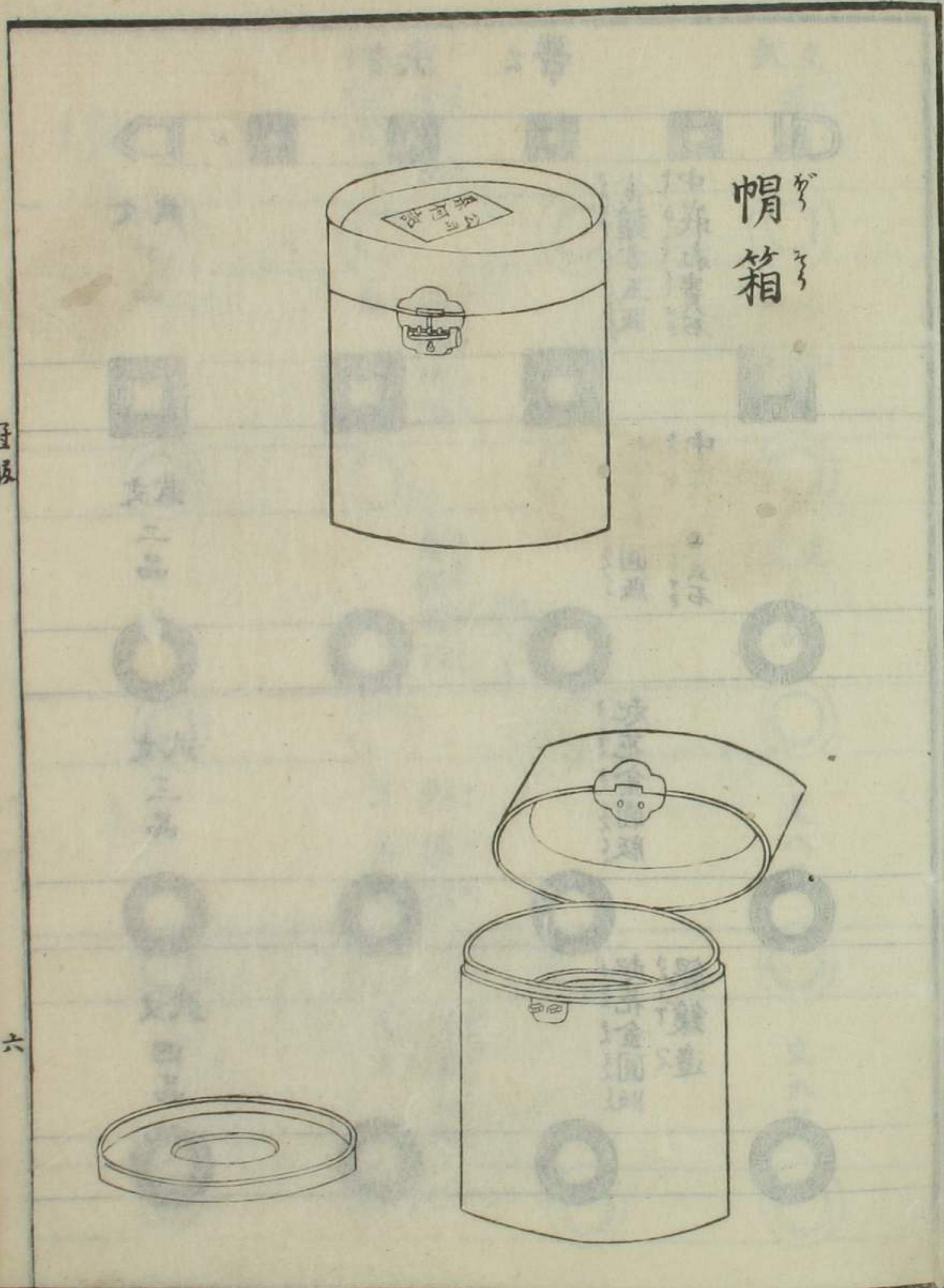


武文
八品夏朝帽頂



武文
九品夏朝帽頂





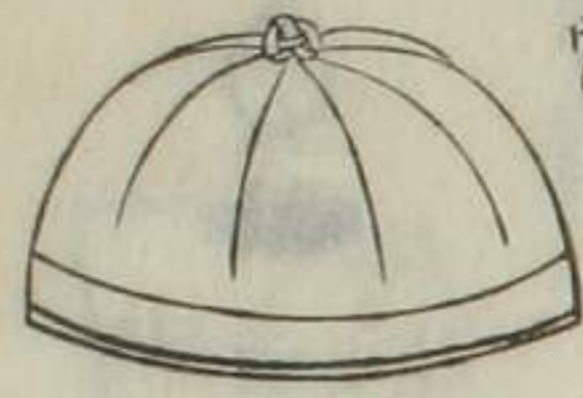
冠服

武文五品	素金圓版 銀鑲邊	
武文六品	銀鑲玳瑁版	
武文七品	素銀圓版	
文八品	銀鑲明 羊角版	
文九品	銀鑲烏角 圓版	

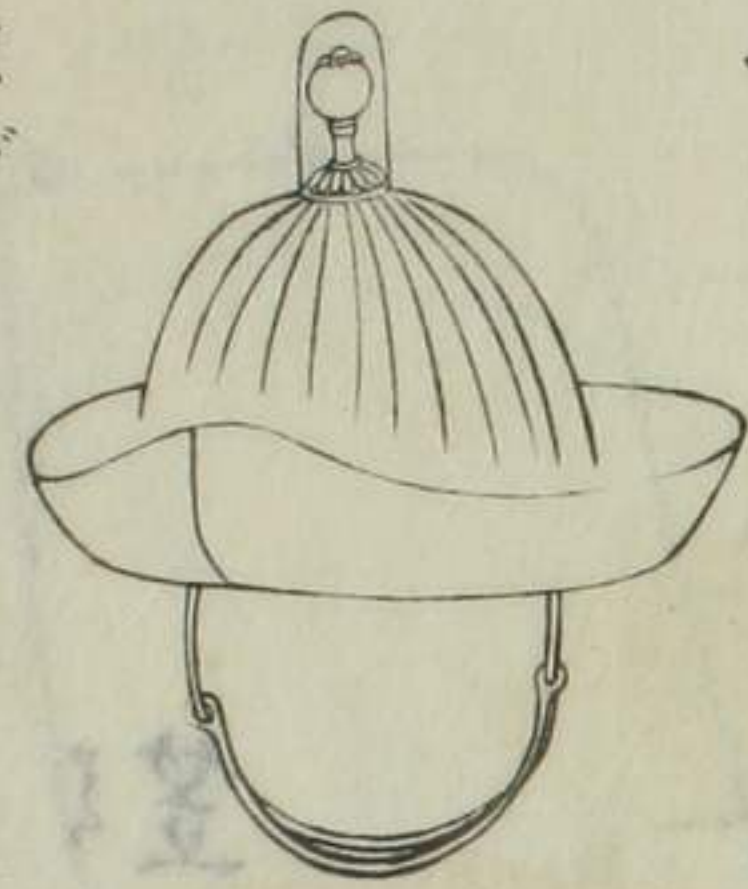
七

大帶

武文一品	金鑲方玉版 中嵌紅寶石	
武文二品	起花金圓版 中嵌紅寶石	
武文三品	起花金圓版	
武文四品	起花金圓版 銀鑲邊	



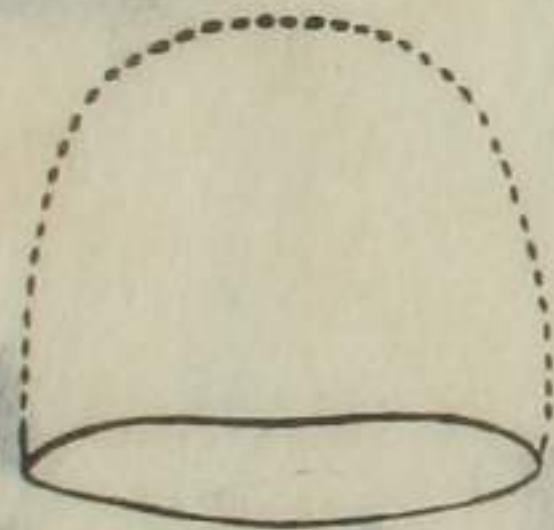
睡帽
一名小帽



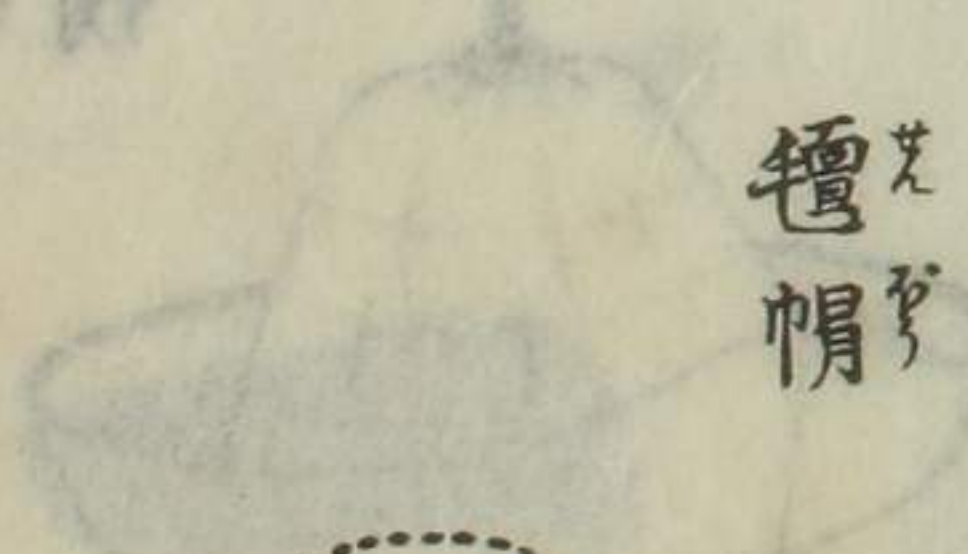
暖帽



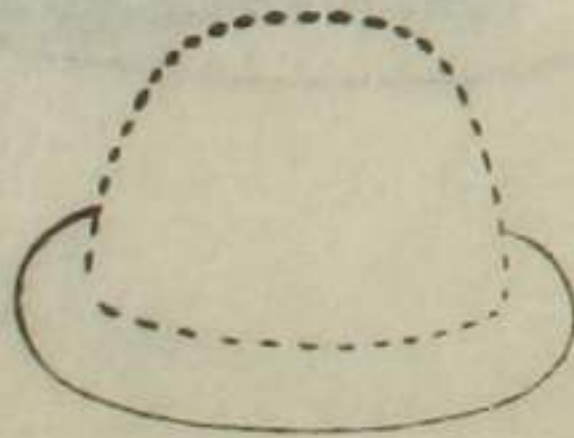
簪帽



凉帽



簪帽



笠兒
一名草帽

支丸
正品



護膝



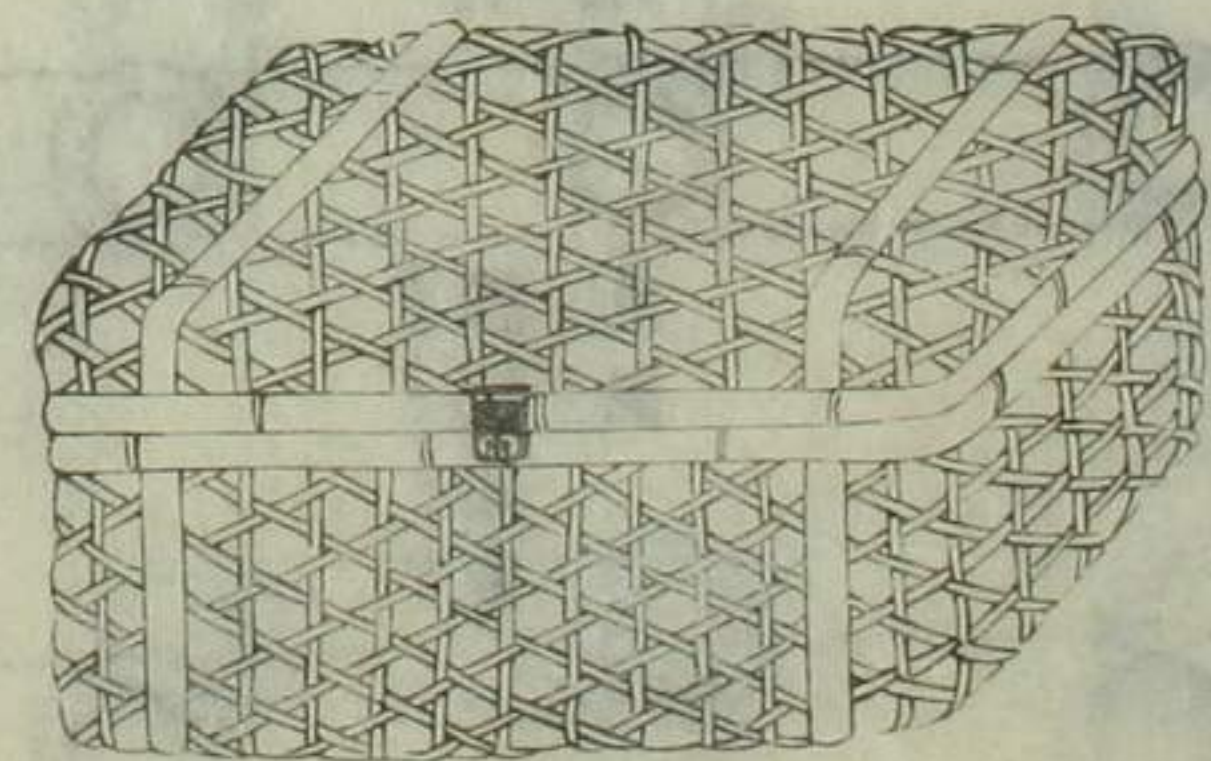
靴子

支丸
正品



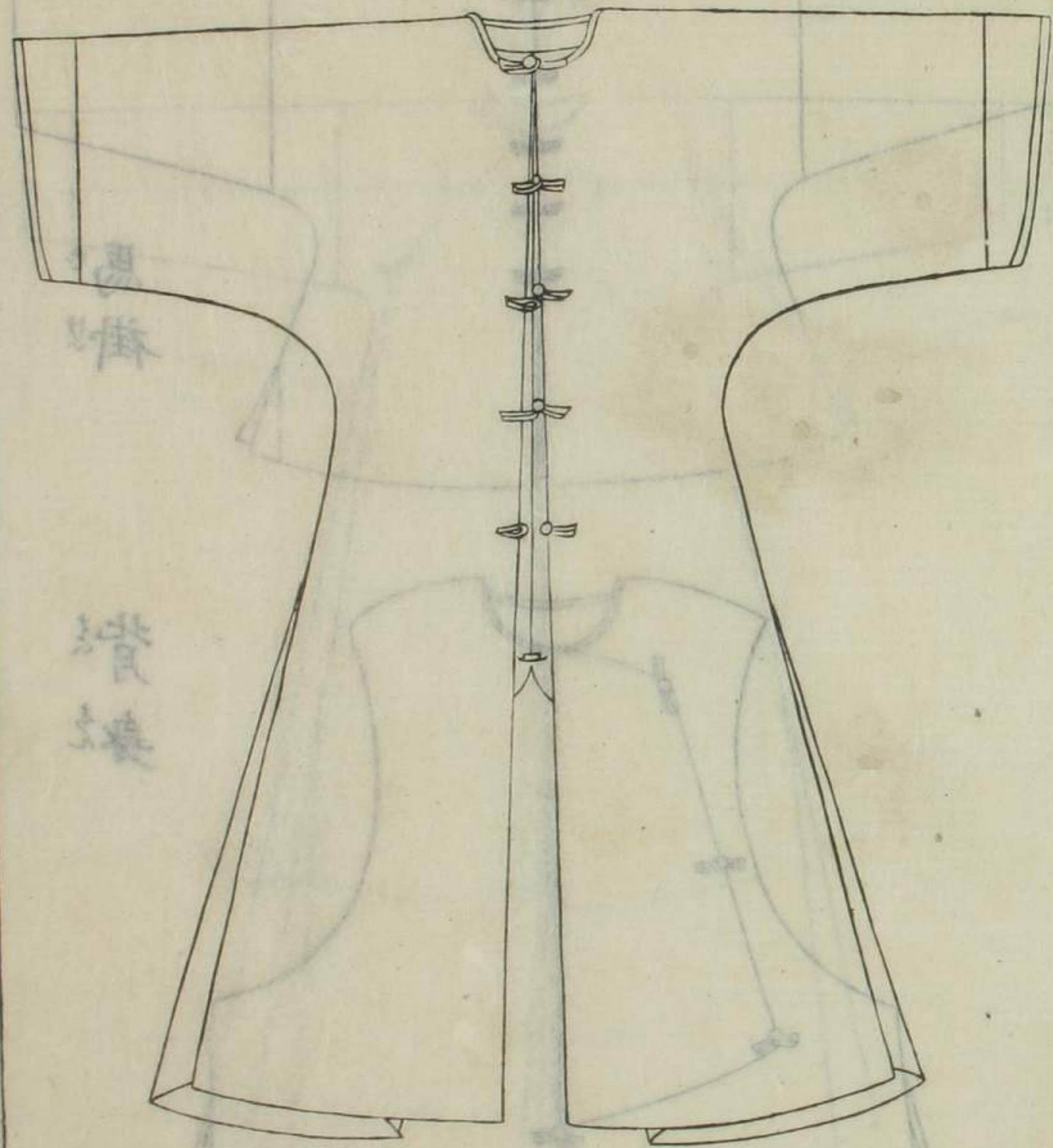
鞋子

履篋





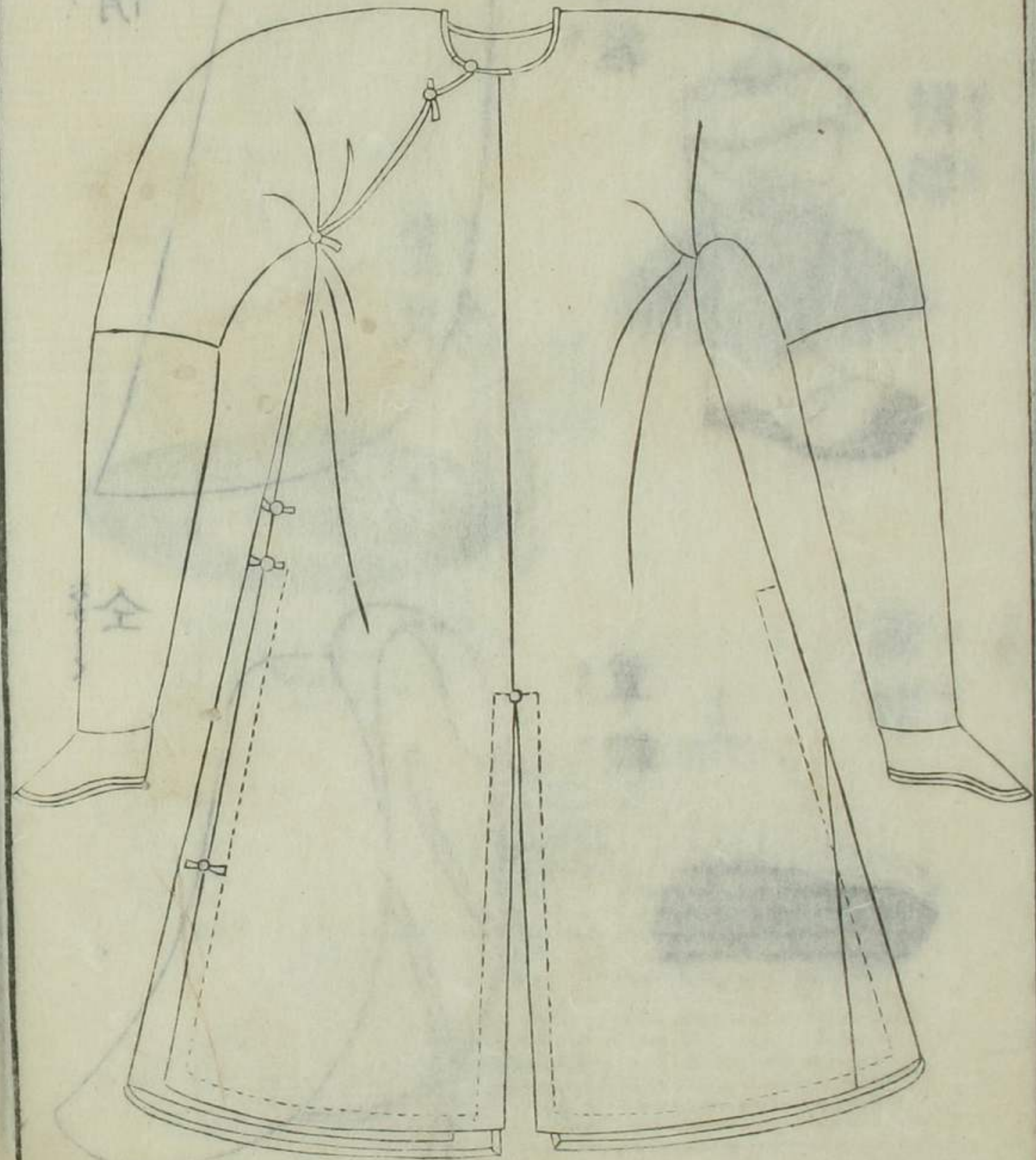
外 套



冠服

十

袍 子

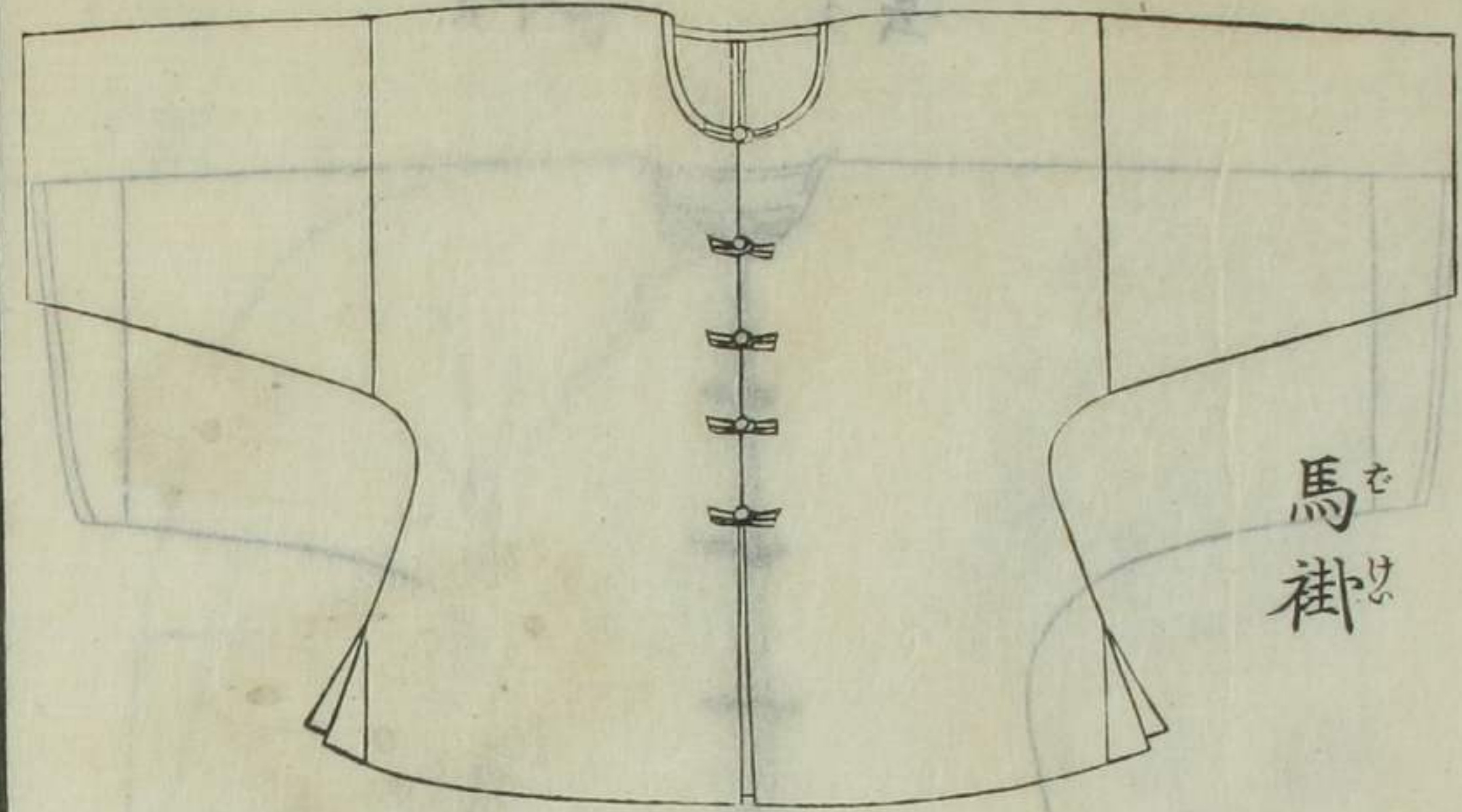


大衫

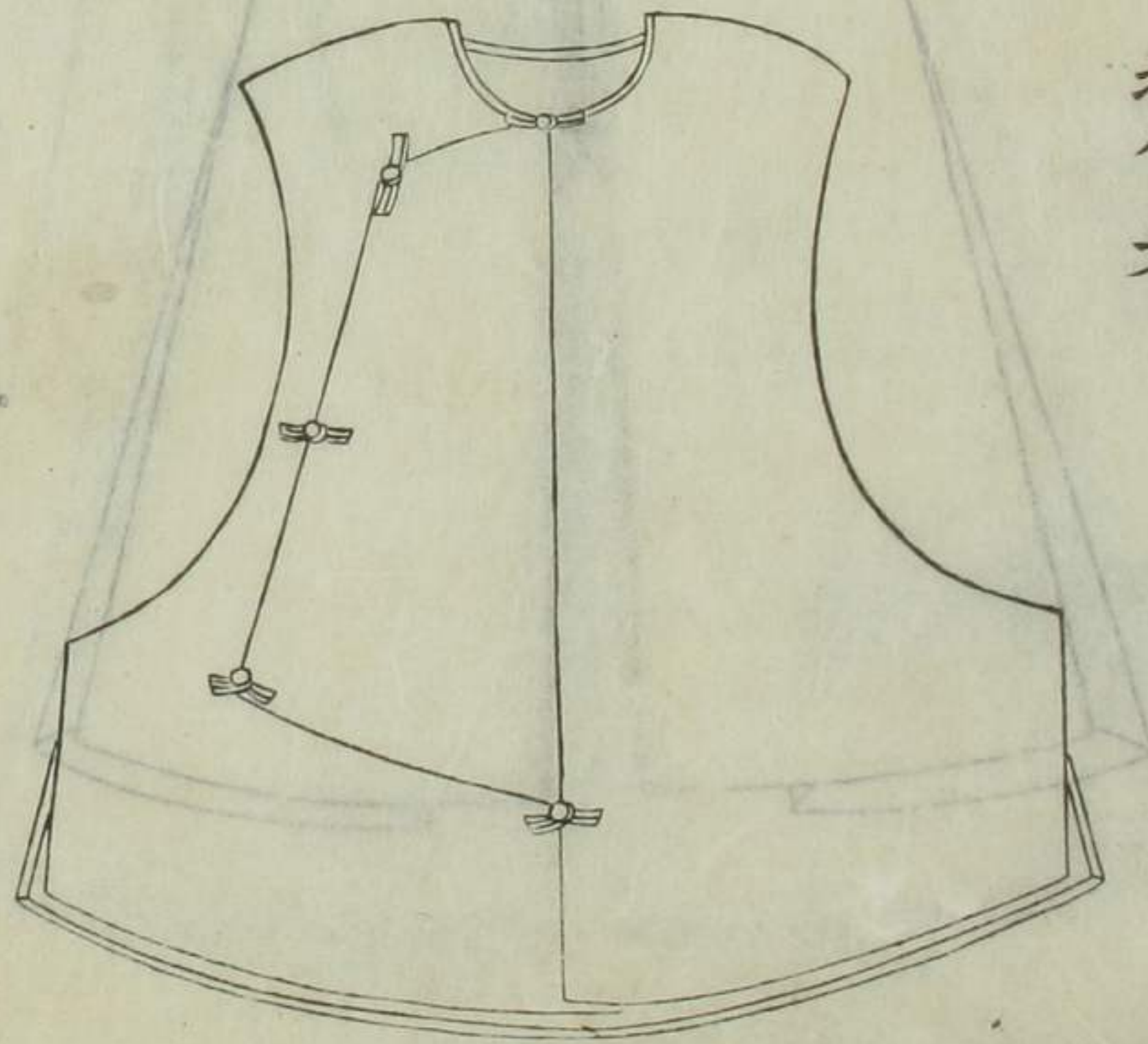


冠服

十一

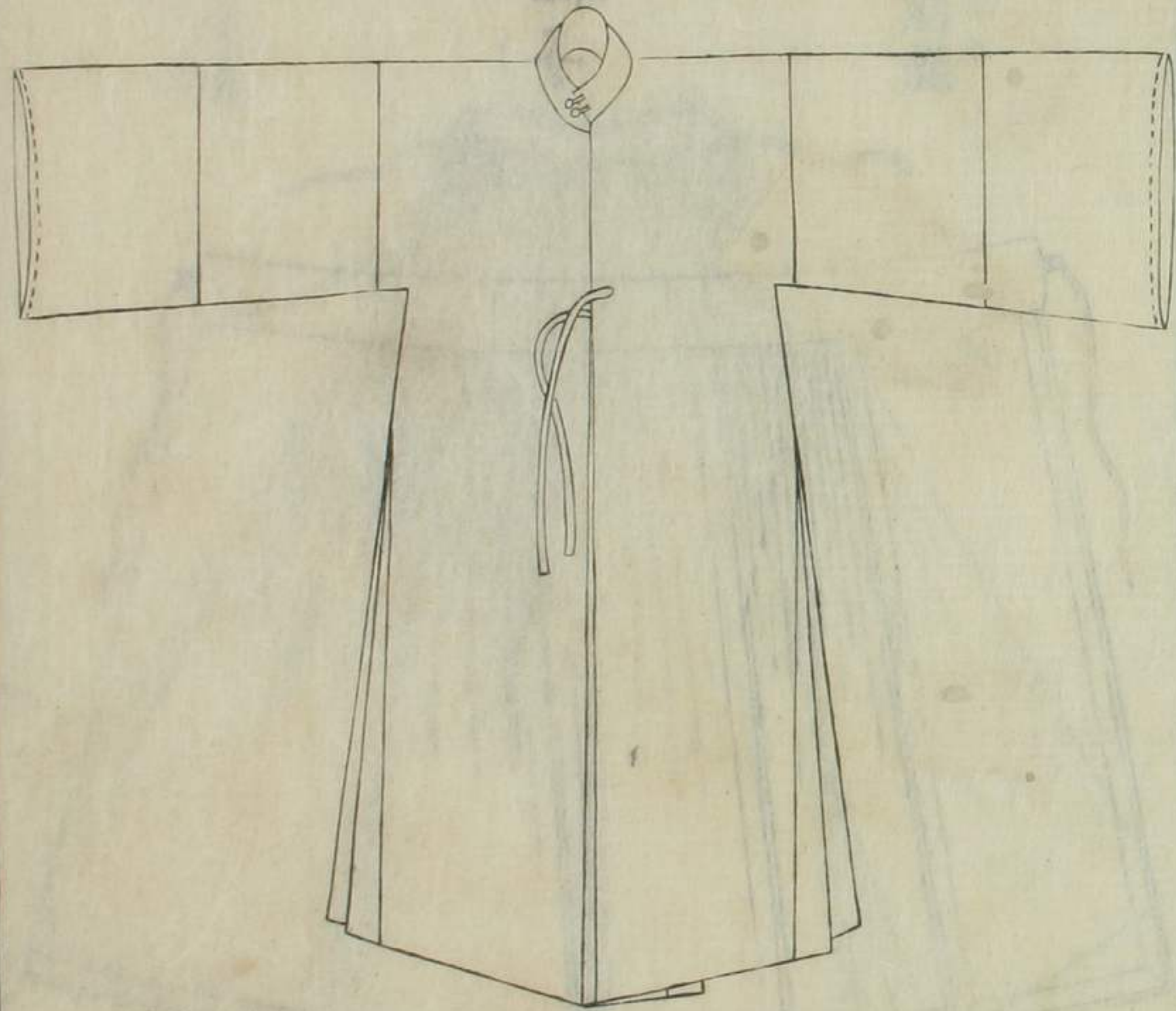


馬褂



背心

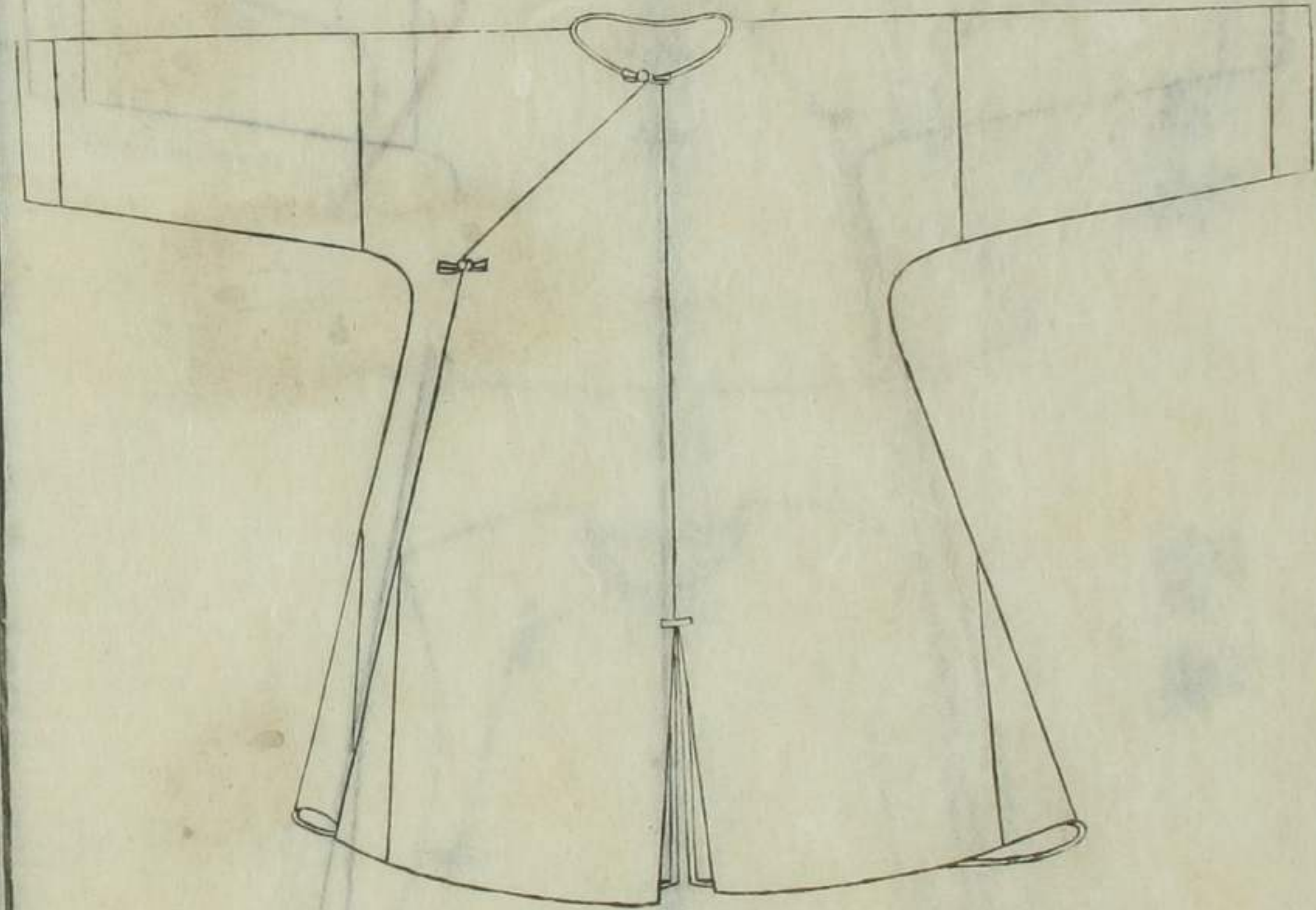
披風^{ひふう}



冠服

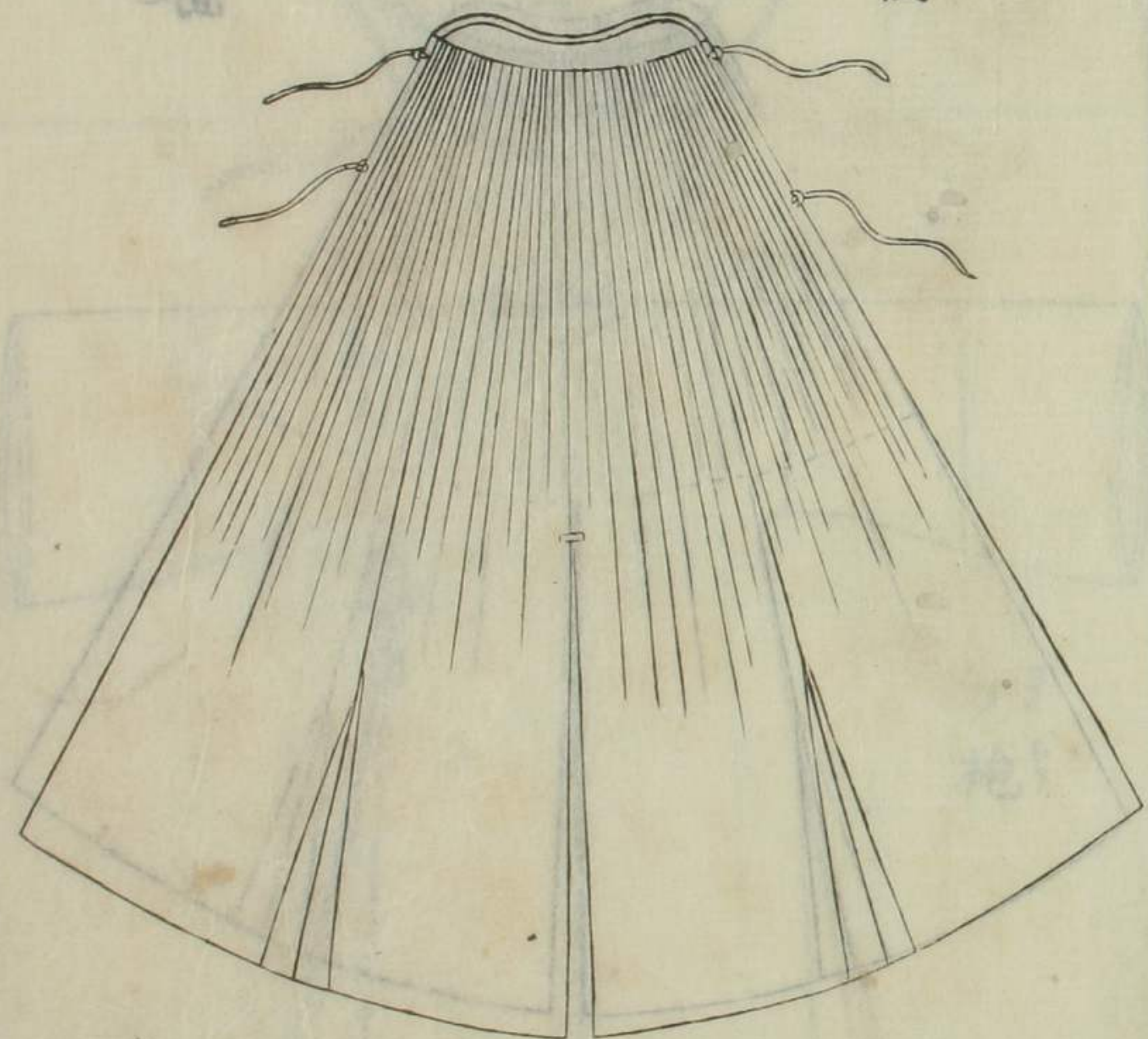
十二

短衫^{たんざん}



蘇子
前
面

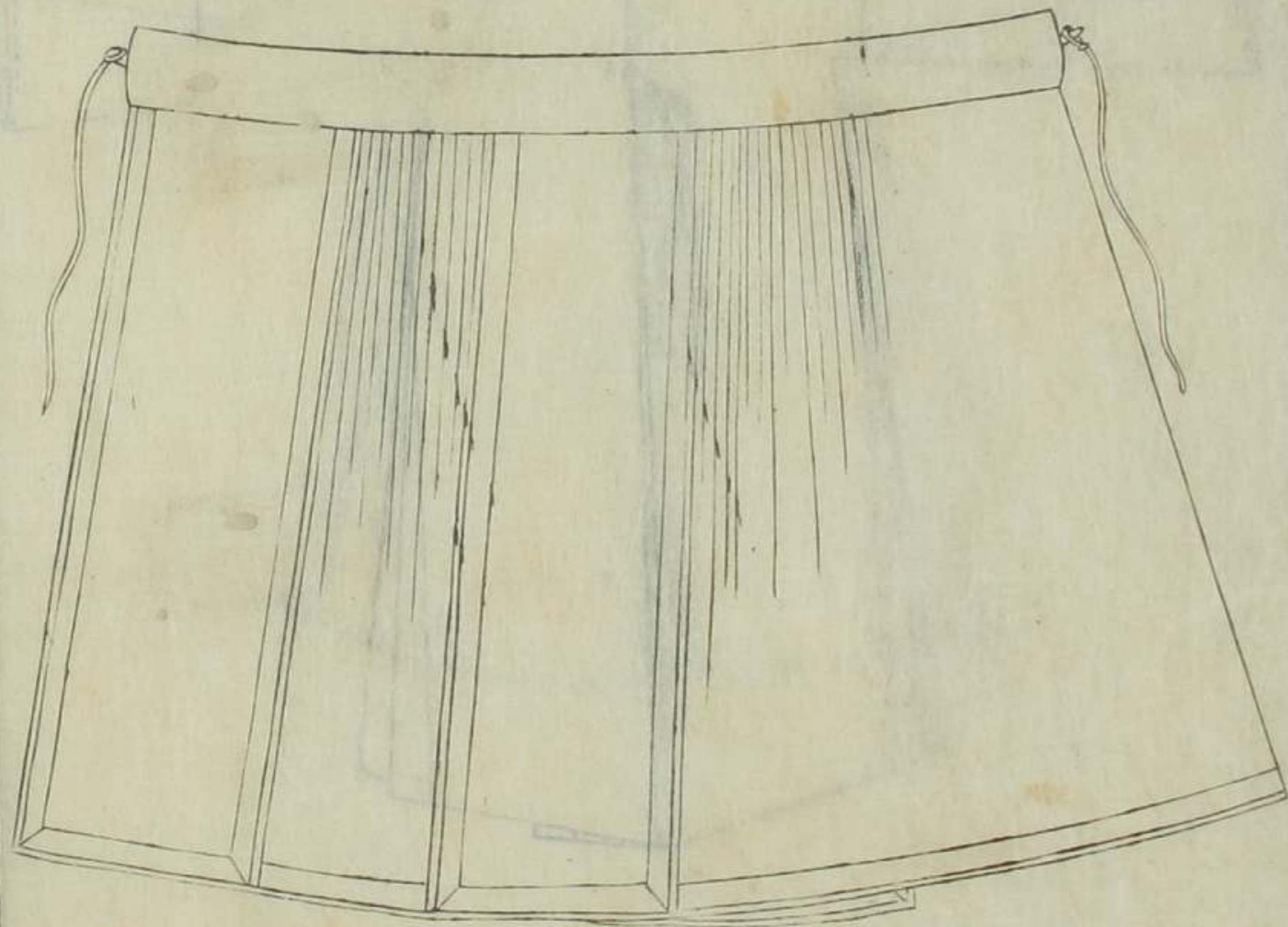
之
一
裙
子
前
面



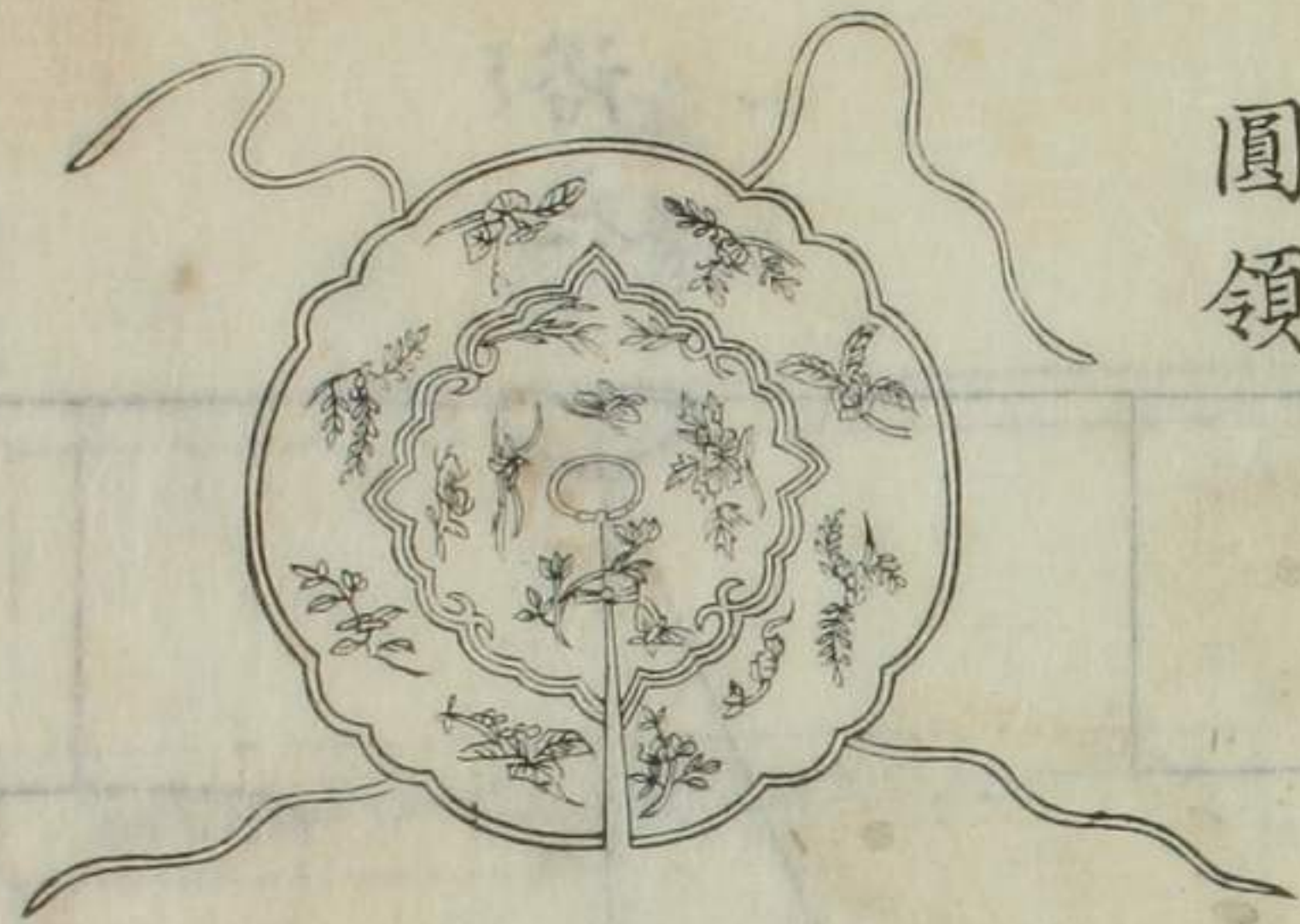
冠
服

十三

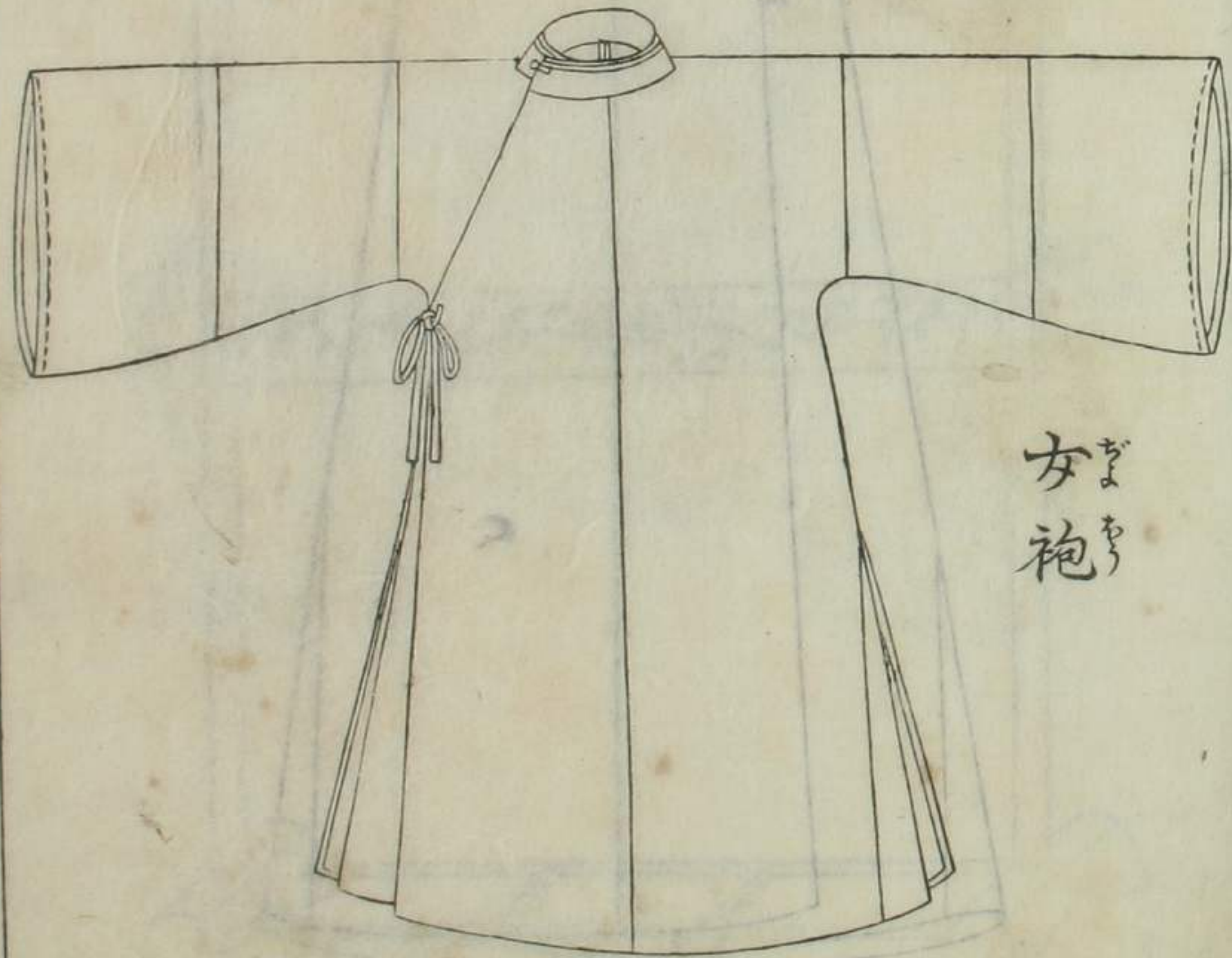
之
一
裙
子



圓領



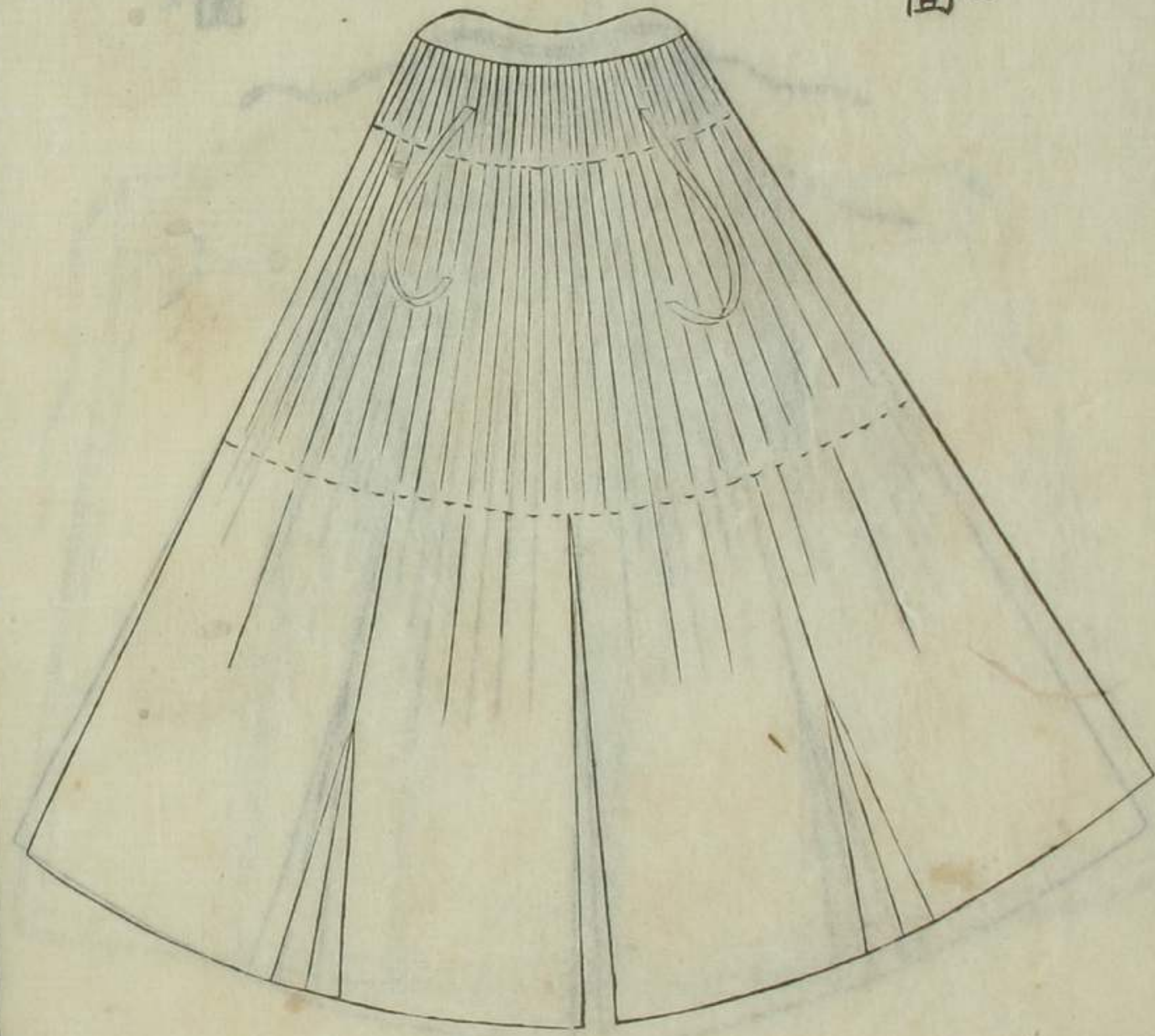
冠服



女袍

十四

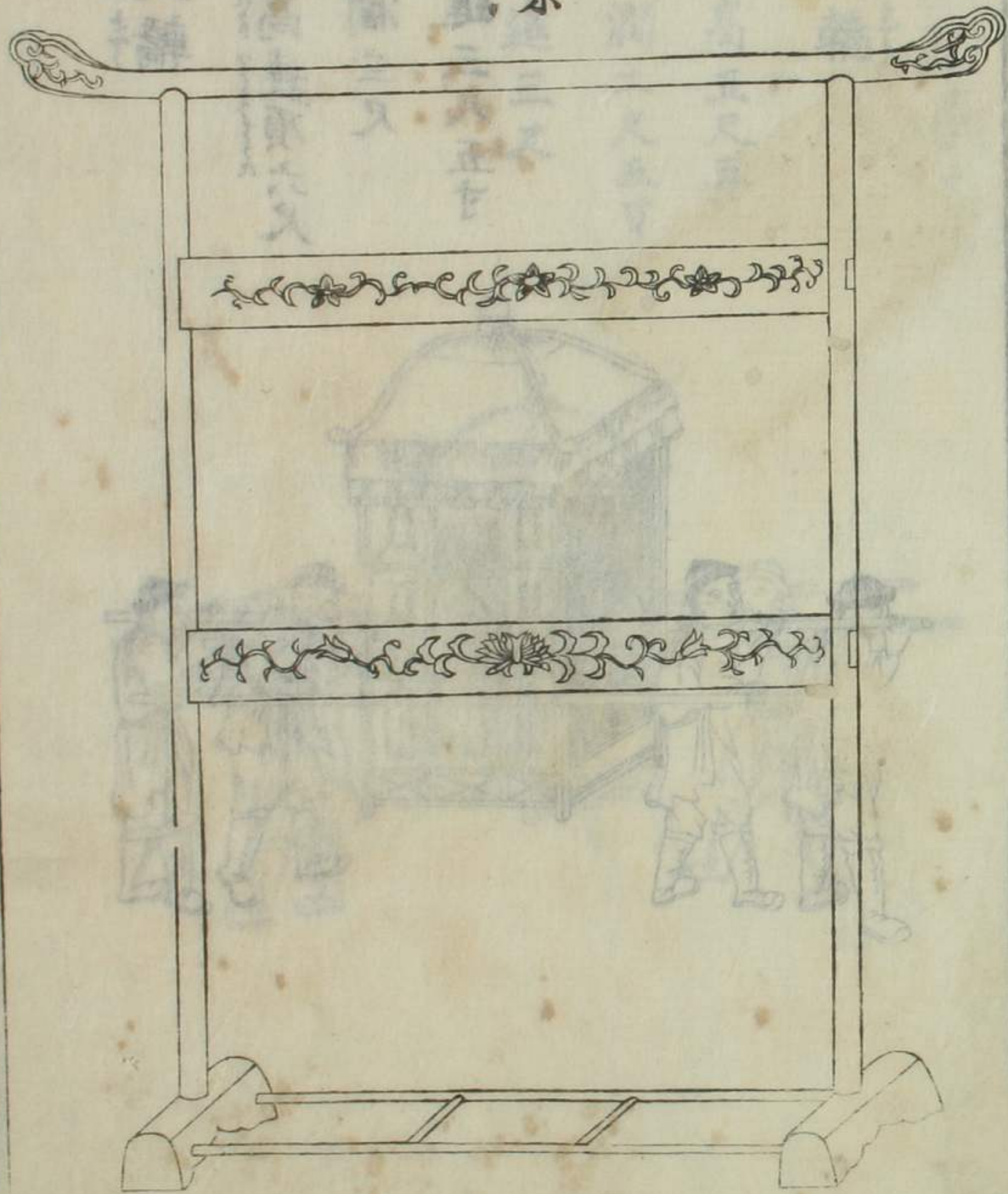
裙子後面



十三

十三

衣架



冠服

十五

浴衣



圓形

襦袢

青谷路開卷之三

小轎サウキョウ

高五尺五寸

濶二尺五寸

進三尺



冠服

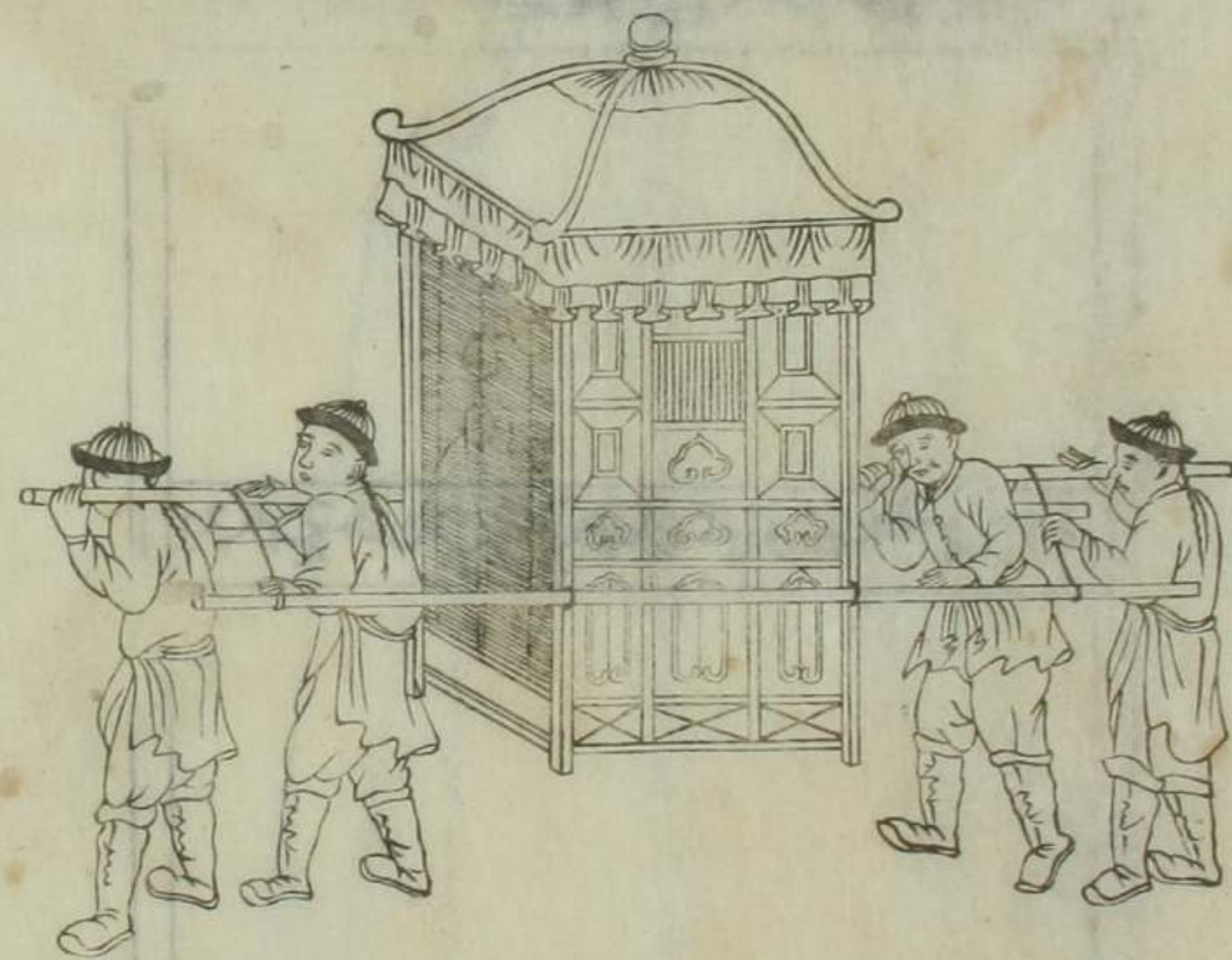
十六

大轎オウキョウ

高連頂六尺

濶三尺

進三尺五寸



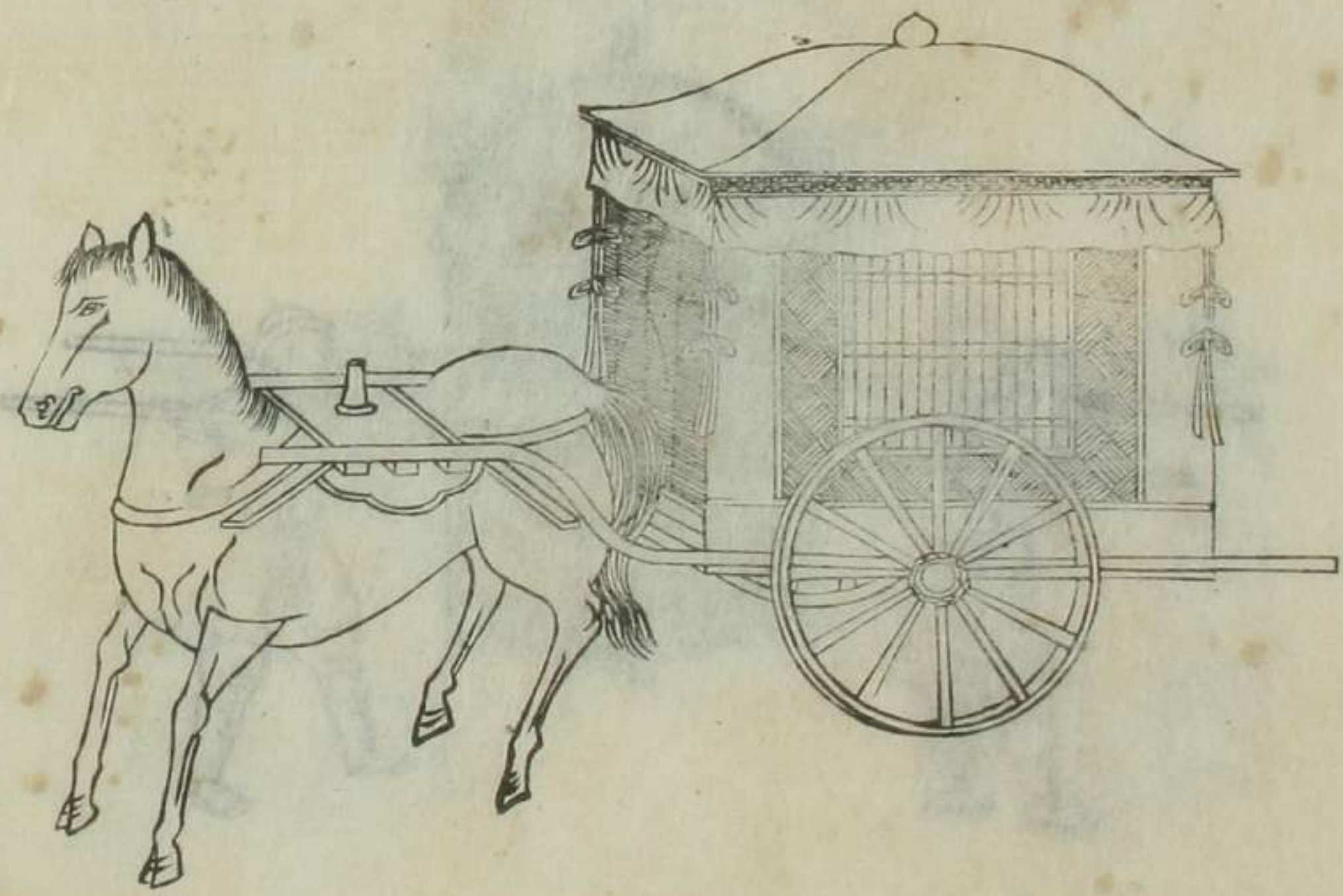
清俗紀聞卷之三

車

高五尺

潤三尺五寸

進四尺



清俗紀聞卷之四

飲食製

○飯 桶水を入茶淘淨て水一同不鉄鍋に九茶より茶碗一つの高

ふけを焙柴火みく炊くよみ此乾ふ付柴を退け暫く悶蒸し用

茶 三月穀雨節み葉を摘取鉄鍋みく炒す移しをのりて揉絞

其後穀遍細みく炒上茶ら大約廿遍わらも炒り

○茶名大畧 珠蘭茶 武夷茶 松羅茶 旗戯茶 紅梅茶 雀舌

龍井茶 壽眉茶 龍井茶 武夷茶 龍井茶 武夷茶 龍井茶 武夷茶

雨前 穀雨茶に此みくをふ一ぬ青茶と云ふ版

總じて茶ら大畧を篋み入て賣買に旅移すへ進物名也八三十日五十日

飲食

請客各品

桂圓湯 竜眼の皮を去り肉はともみ熱湯に浸し重肉の太く白く成る

附砂糖湯めく煮る肉汁ともみ進み砂糖湯の鍋に白湯を煮水砂

種見積りめく入止残らず鎔化ゆる時味ひを試み随分甜くして餅子を

びく器物に篩入塵を成糖を煮る元の鍋に竜眼を入煮る煮る

扁豆湯 茶に用ふる扁豆を湯めく糖煮る初めかめ煮る時皮はは

水砂糖湯めて煮る肉汁ともみ進み砂糖湯右めね

杏酪 茶に用ふる杏仁を熱湯に浸し煮る煮る煮る煮る煮る煮る

鶏豆湯 一爪芡實とて 芡實と池水を生かすとのほく煮れやうねり

葉めく根母丸き四五寸ぐらゐれ根あま此中以糖の中りみ余斗あ物

此方の鬼薺の製法は...

雪粉糕 一名雪粉團 糯米粉米等分みして水を少しぬりて袋に米篩めく

蒸籠の皮ぬりひき丸粉の厚さ二三分みして煮る煮る煮る煮る煮る

瓜子 西瓜の 糖子 糖子の青皮肉めく皮を剥く 等をすこ

餃子 麦粉を水めくかき搗棒めく煮るの皮は三寸径はみ丸く煮る

肉み猪肉を糸作りして椎茸葱を細く切す右のほめ包み蒸籠に蒸用也

紅粉糕 糯米三分 稷七分 白めく搗粉して湯めく生糸子を解き汁を

茶の粉を搗き蒸籠めく煮る餡餅を煮る煮る煮る煮る煮る煮る

餡を入圖のまじり包み四寸盛る四寸とみ又煮る煮る煮る煮る煮る

飲食

の粉人をとり白砂糖を入猪油を加よく練合を用也小豆一升のせん

砂糖三升の配法あり

蕨衣餅 一名大史餅 麦粉を粟の油と水等分あして搗あせ白砂糖を少

く捧みくつ又丸くかきえて餅のまよくしてゆよく少く押しあみして

油めく黄色みゆるをあげ白砂糖をぬりて用也

○藕粉糕 一名蕨粉糕 蕨の藕粉を水めくゆき砂糖を入火よくけく煉外も藕

粉を細末あして右粉をたき入能搗拌小豆餡を入用也小豆餡製方前同

○肉饅頭 此方饅頭の製法のまよくあして肉も猪肉葱心をさす切白砂

糖よく加餡りて用也

水晶糕 糯米七分粳米三分粉あして冷水めく搗拌白砂糖猪油あ

くよく蒸してえさか附長角み切用也

糖糕 糯米粳米等分粉あして水めく搗蒸籠めも蒸白砂糖を入

又よく搗き粉をゆくのま一丁四五分あみきると油あきよく用也丸米粉

一升み白砂糖半斤程の配法時宜ふもそ加減等とら

○扁豆糕 白扁豆を煮ゆくと去水成入摺けぬ祖布の袋み入後せん

をとりよくあきをゆり去麦粉少く砂糖成を入拌あせ蒸して

成待く一丁四五分角み切二ッげあせ其向み砂糖を入用也

右の外點心種々ありとて是詳形を大宛右の製法に載れ

菜類上等十六碗

熊掌 熊掌花右二つと毛をぬり湯めく煮其汁を去酒樽も油め

くゆれ煮熱く小蝦を炙り今等ゆり酒二分持も油三分の配法あり

人の醃み底して加減をすかす

酒樽油を二塊塩梅一魚圓魚のたま推茸葱を入者酒樽油の配法魚翅

湯みねね

○羊羔 羊の肉を二塊二斤程宛みして水みく能者熟し汁を去肉残より
あしひ大根生姜葱をくし酒樽油酒みく能者逆骨を去く冷する時湯を
切用也酒七分樽油三分の配法を煮くし時酒をくし入る者もくし樽
油と肉煮くし上みかぬね

○猪蹄 猪の股付肉を五寸角をくし切湯みく能者酒樽油
白砂糖茴香をくし加は付の肉色あくねまで煮出木耳山薬葱を
入る酒樽油配法羊羔の制法みねね

○野鶏 雉子の皮を去く腹付の肉斗屠く切鍋み油をくし炒和け酒樽油酒葛
粉をくし加汁氣れをくし炒く用也酒八分樽油二分配法

○鮓魚 魚の酒娘をくし蒸塩加ふ

○鹿筋湯 鹿の筋を水浸し三寸程み切火腿七煮汁みくし煮熟

酒樽油みくし塩梅はくし肉圓魚のたま推茸乾筆葱を入者みねね

酒樽油配法魚翅湯みねね

○炒鶏 鶏を骨もくし寸ほど切鍋みあがし我引炒又をを

み入半煮みくし酒樽油猪油少しを入栗山素蒜をくし

煮熟し汁をくし煮くし酒樽油東坡肉の配法みねね

○全鴨 あひの羽片取らして皮汁損せぬやみくし毛を去後をあしひ

糯米蓮肉を後み詰藁みくし巻湯み七分煮熟し煮汁をくし火

腿の煮汁酒樽油を加塩梅し又能者煮熟し甘藷を去全種の山形止

ぬみくし木耳金針菜葱をくし煮くし煮汁酒樽油をくし十分樽油を用ふ

飲食

○鷲 鷲の肉は骨とも切湯あぐ能煮和ら香酒猪油あぐ煮熱す也

○解去美 蟹を煮る殼を去肉成鶏の煮汁酒猪油を入葛粉を加葱生

姜を細くきり入煮熱し煮汁酒等分めて八分猪油二分の配法葛粉

○鯉乾 鯉を水に浸し石をとり能洗ひ猪肉を厚く切鍋に入煮し其油も

あ炒猪肉もに炒熱し酒猪油を加塩梅して葛粉細くきり入煮る酒

八分猪油二分の配法

○魚肚 魚の卵を水に浸し湯中煮和らけ鮮肉火腿の煮汁酒

猪油を加煮熱し推茸乾筆木耳等入酒猪油配法蟹美同

都て煮物ハ酒猪油少あて何豆の豆も洗塩梅ありしも小皿猪油

を盛置んし洗鹹のこもふるも鹹をさのむ者ハ猪油を付く吃はすのま

らから用ひ其配法も一定は分量多し多く洗成よりとせ

中等十碗或八碗

八碗の時ハ羊魚翅湯を減す

○燕窩湯 燕人す煮方茶に茶か 榆肉乾筆鶏の皮を入るり

○全鴨 煮かすま同し腹に詰との粉 蓮肉木耳葱を上をすすふり

或は猪油水砂糖を加煮ふとあり

○魚翅湯 煮る茶に茶同 魚圓鮮肉火腿葱等成加ふ

○猪蹄 煮る茶に茶同 蝦米海粉葱成をふ

○鹿筋湯 煮る茶に茶同 肉圓葱をふ

○海參湯 煮る茶に茶同 蝦魚圓葱香菰を加ふ

○羊肉 茶の羊羔のぶと煮込山藥をふ

○鯉魚 ぶとを煮煮かして推茸肉圓菰をふ猪油を添ふ又油あけ小

あぐ酒猪油あぐ煮るむとあり

飲食

○鮑魚 干鮑 浅水に浸し 薄く切 鍋に油を引 炒り 厚く切 鮮肉を薄く切

加 酒 湯 湯油に 考 考 考 考

○炒鶏 鶏 茶 油に 考 考 考 考

○醒酒湯 鶏を 考 考 考 考

きりきり入り

回干 昂撒美盤

荔枝 龙眼 榛子 蓮子 橘餅 胡桃

菓子 杏仁 雲片糕 落花生 瓜子 梔子

柿餅 明姜 太史餅 芝麻扁 連環 冰糖 火腿

鴨 眉公餅 冬瓜糖 枇杷根 夾砂糕 桂花糕 佛手柑

玫瑰糖 風雨梅 山查糕 造花五六種 大根 考 考

右の外時新の菓物 桃李花 紅香圓 橙子 等 此品 時 時 用也

精容各系 排出の 次 次

茶 挂圓湯 熊掌 鹿尾 煎豆腐 魚翅湯

○卓子 海參湯 羊羔美 猪蹄 野鷄 鮓魚 鹿筋湯

四點心 雪粉糕 餃子 紅粉糕 簾衣餅

醒酒湯 菜碗 炒鶏 全鴨 鶻 蟹羹

煙乾 魚肚 肉饅頭 糖糕 扁豆糕

四點心 藕粉糕 小餅 肉饅頭 糖糕 扁豆糕

○茶 ○飯 右 卓子 を 引 回干 を 出 也 八 碗 菜

十碗 菜の 時 時 考 考 考 考

十碗 菜の 時 時 考 考 考 考

飲食

九

朝暮平食の茶教ハ餅肉鶏奠於付くる各の冊子未考とて二回
 碗行ぐ大碗母成點心等ハ餅一を朝ハ粥み干茶將西瓜干蘿蔔等食
 魚肉菜類ハ皆食晩食むら以用也 ○丸村落の小食飯母志粉く
 中勞わも食はふ未考を麦飯くハ小麦粉を飯母志くハ水汁かたあり
 けふうらに稠ハ止海せ志げくハ同煮して食分分量不同わり麦を丸母志
 中勞粉半ハ其外大豆小豆黒豆粟黍等皆食無ハせ炊く吃すを
 市中のもれらハハハ下餅ありハ食すハ未考ハ力作人ハ之を粉母志
 茶飯を食ハ

月餅製法

○第一餡 熟麵一斤五合 菜油半斤 白砂糖二斤
麦の粉を熟母布を 胡麻油
 右三只拌わらせ橙丁紅子瓜子核桃茴香五味見合是ハ餅製法ハ餅製法

打出の型み入て打出さかつたの量目十之程是を以て造る也

第二酥 生麵一斤二合五勺 菜油半斤 右二只ハ搗き粉也

○第三皮 生麵一斤八合七勺五勺 菜油三合 白砂糖半斤 温湯
生麵の粉と油の加減を以て合せしるの合せ 右二の酥を以て考るハの合せ中ハ以て棒み

長手に棒のことくうら之を敷八十にちなり平ハハ壓き其ハ二の酥を
 つ完くハ生麵を以て一揃ハ是をの止ハ右の粉を以て棒みすハ以て
 その棒を積とれハ右の粉ハ解れ奉るハこくハ粉ハ是を以て棒みすハ
 よるハ之の止ハ此二の酥と第三の皮と兼重ハハ考るハ是を丸くハ之を
 其内ハ第一の餡を以てよく揉合を慢鼓の形にこくハ上ハ生團子ハ
 煮付けハ印を押又極度以て平ハハ以て以て壓下ハハこくハ角ハ切ハ

唐紙をぬ菓子鍋入上下に火を垂焼する

雪片糕製法

糯米二百目

大臼みちるげ水ユカー二三日も経てよくあひ水を之
ゆら一日に乾くまでと炒るまうあつた磨り粉とほ

熟麴百二十目 白砂

糖百二十目

油ちちんみまてい粉水を各
つとつた粉のかんを

右三員分合せよくこねし錫此型にい

上るを圖のおとく揃へる物めく様ねる上り厚紙を雪片糕の肉入
煮る其粉も湯気の通るた成度よくあつた也を型を鍋入るか型火の
内れ粉の高うみ鍋の内れ湯もかえらる半才一也粉の言さう湯をこれ其
其湯より上り出さる粉蒸熟せよ又粉より湯の方多かれ型の内み湯入る
粉爛れ也火のかん炭火めくそんく焼たうねやうに火く焚は
湯玉あつたて型の内み湯入粉爛れ也鍋蓋の蒸氣よく揃へる其粉
甲家み用か鍋蓋のごとく右の粉蒸熟したる此型の内みくをうく三版小切

傾け出し麦粉の内み押し至冷を待て取出し薄く片み切用ゆ

連環製法

生糯米粉一升

麦粉八升

白砂糖二十目

膠銘七

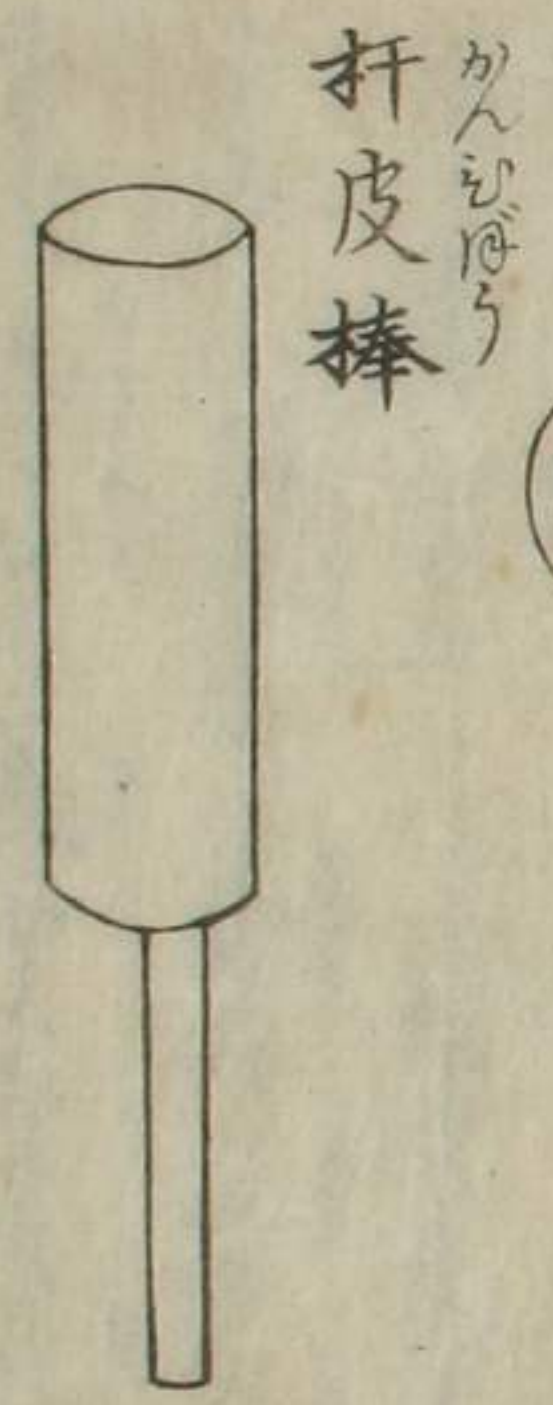
水五升

是みく右の粉砂糖を餅みある位み加減を右より粉あつたを徑二寸に五升程
の餅とね湯煮を別み生糯米粉五升麦粉に十目白砂糖百目摺り作ら
るみ一盃入一揃み揃せ右あつた湯蒸熟小二五の程あつたにねかかん
あねす生糯米粉をうら粉みしてむろくの紐のおとく切丸を延して圖
のおとくうら油あつた揚冷を待たすら砂糖成めらかき用ゆ

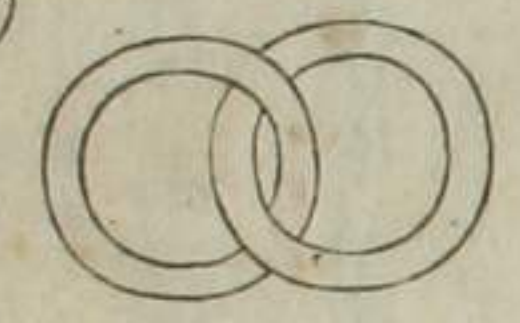
火腿製法

一名臘乾 臘月を中に
製する臘乾とす

寒中み猪の股を足付ねる一腿は切さうあつたひ毛をぬきう乾く
うら乾し九肉一升に塩二十目程のほりも成ぬくうす入日に乾し

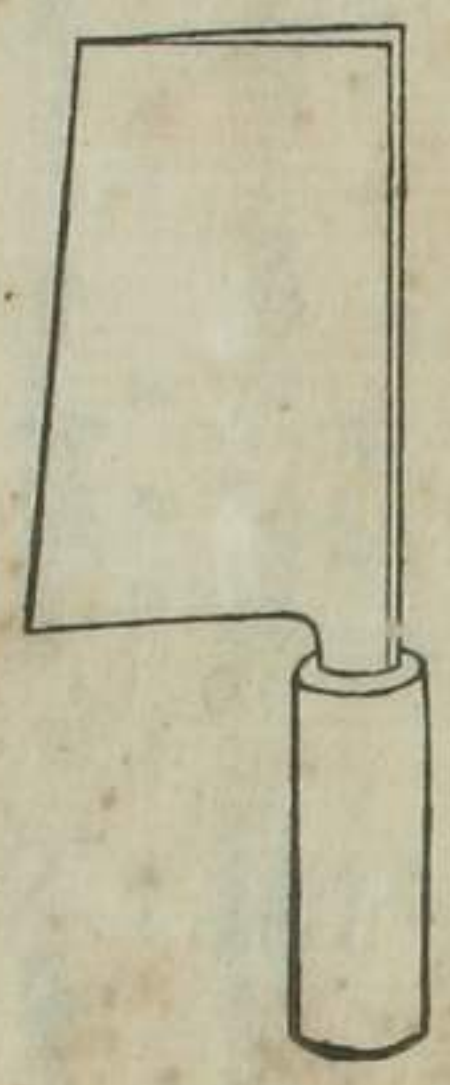


杆皮棒 かんじぼう

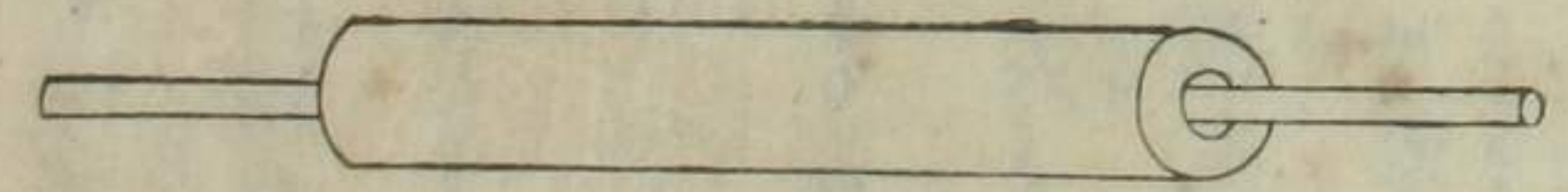


連環 レンワ

壓子 おし

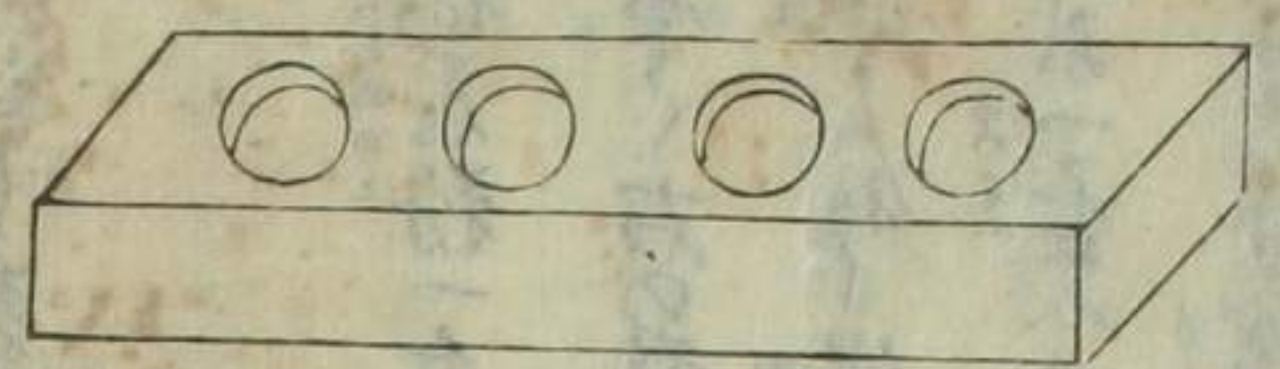


切片刀 せつせんとう

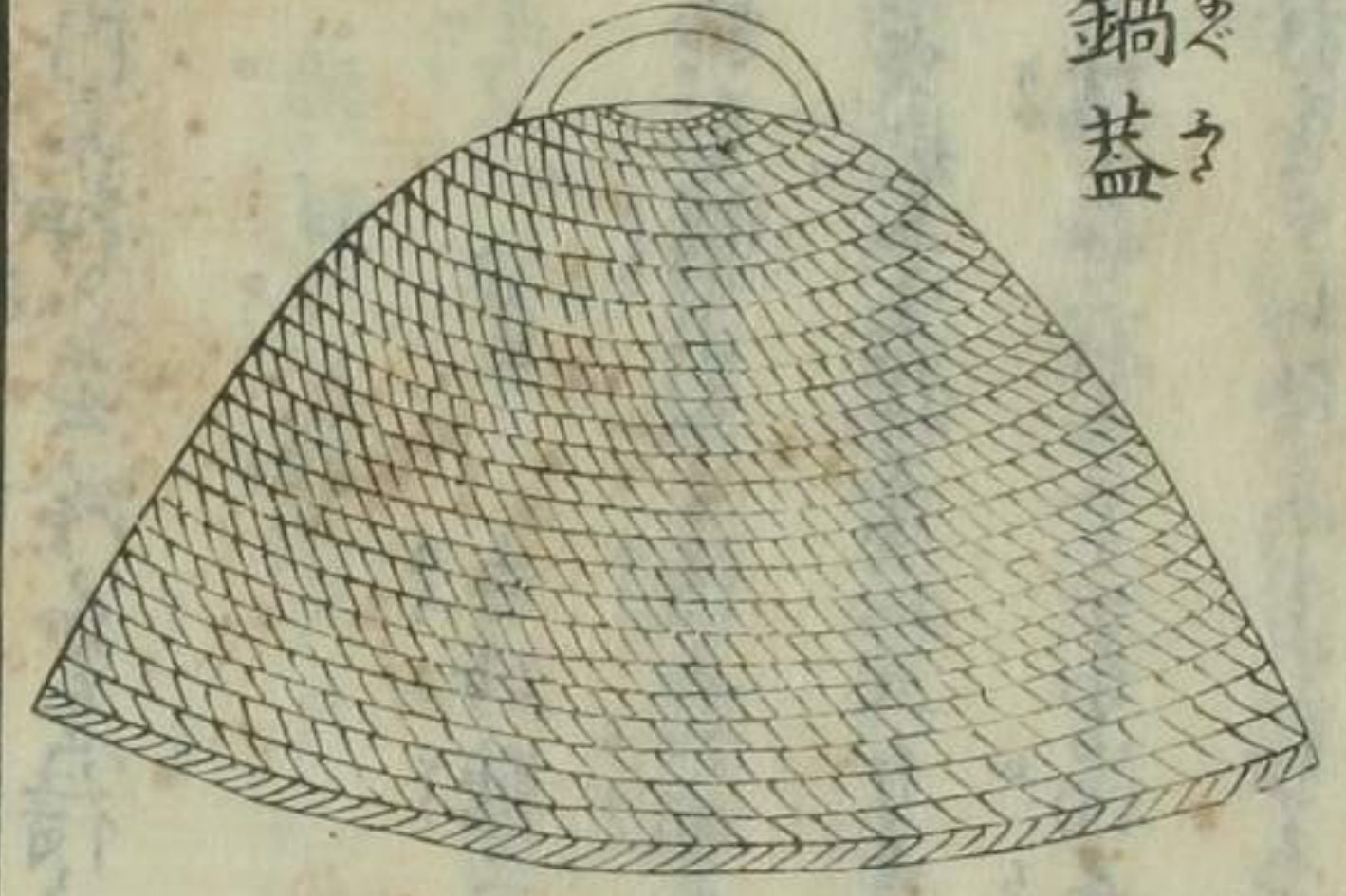


杆棒 かんぼう

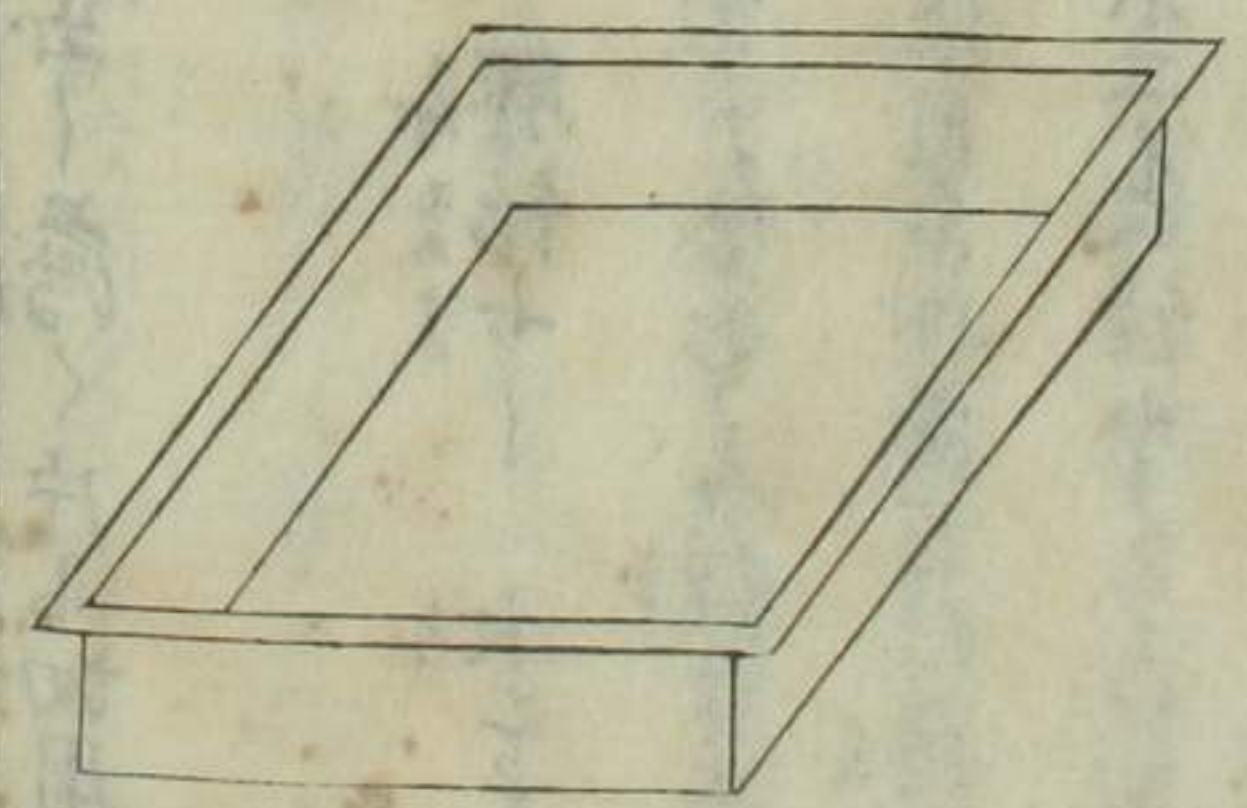
器 餡 木 做



鍋蓋 なべがし

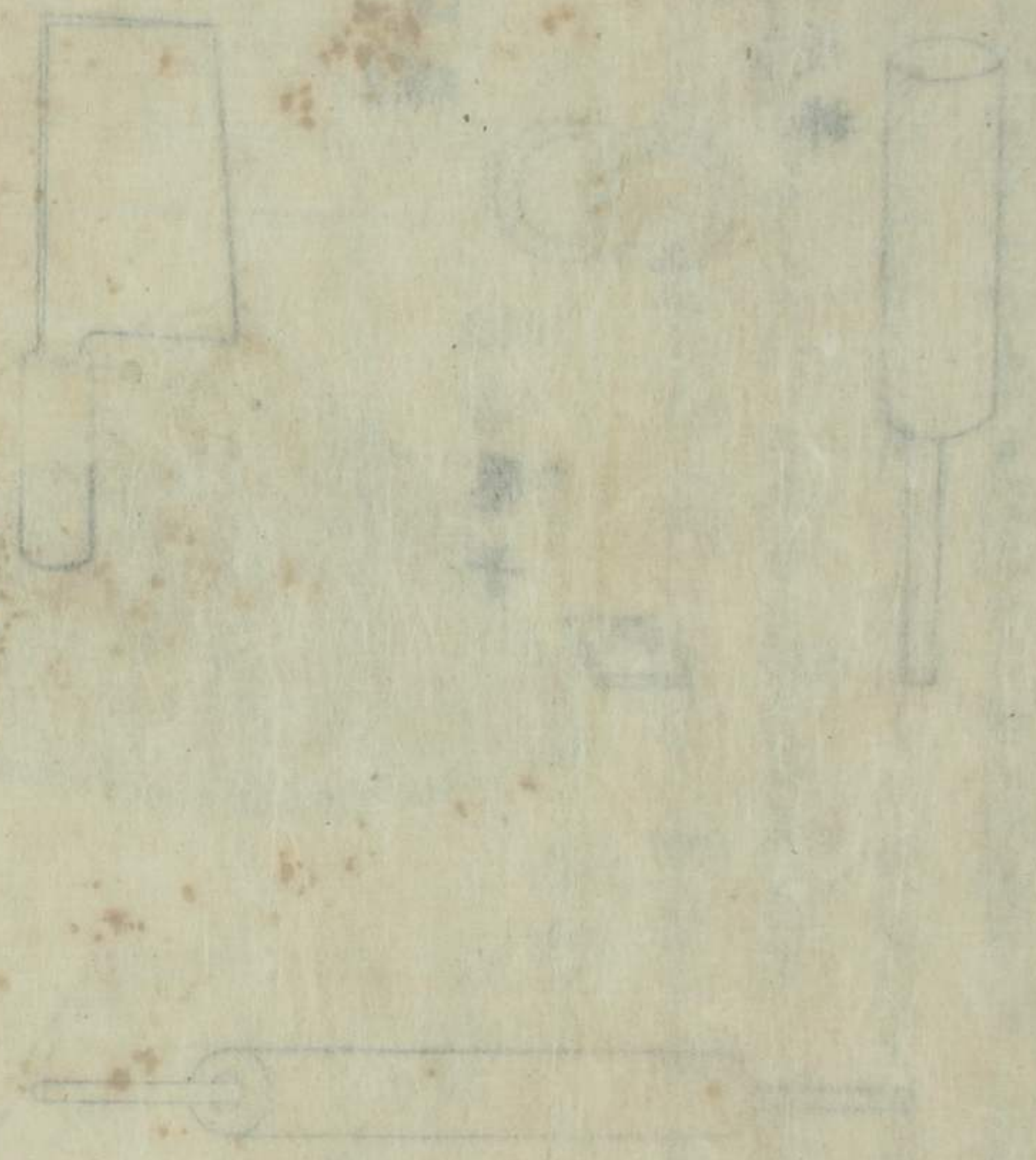


錫匣 すずびら



空風のあつた所十日経たさし又塩湯を冷しその肉小浸し日
 干し事に出す所にて乾しさらさらかきし煎のまじりては家へ送る
 肉類を多く煮和らぶ所から鍋の内肉豆冠を二三つ入煮れは
 和らぐ水ぬす也志し肉は味よければ細火で燻ぐと煮和らぐは

清俗紀聞卷之四



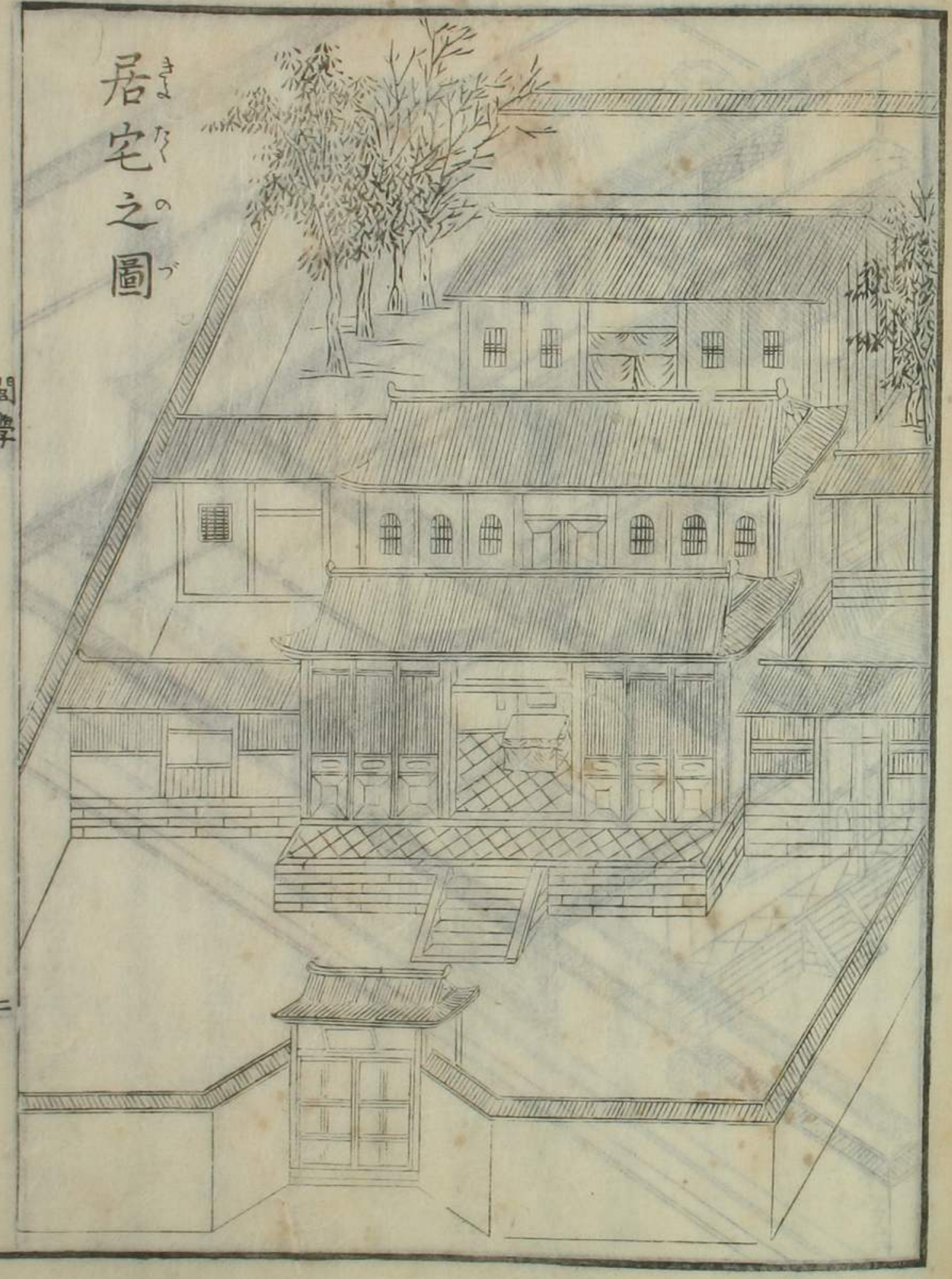
清俗紀聞卷之五

閭學

○リイヤ閭學ワカとは一郷の中ウラに館ミヤを設けシて師ウチ黨ウチに子弟ウチを教授ウチする所トコロ也ナリ先ウチ生ウチを元ウチとしシテ位ウチを官ウチに人ウチありシテ家ウチ家ウチ又ウチハ居ウチ宅ウチをウチ換ウチき侍ウチ宅ウチ借ウチ成ウチして書ウチ生ウチをウチ集ウチめテ教ウチ導ウチしテ此ウチ所ウチをウチ學ウチ館ウチとウチしテ制ウチ造ウチもウチ式ウチとウチしテ是ウチ事ウチハ庭ウチ廡ウチ門ウチ牆ウチ等ウチの制ウチもウチ又ウチ春ウチ秋ウチ祭ウチ祀ウチの禮ウチもウチ學ウチ官ウチ小ウチ之ウチ執ウチ行ウチふ事ウチありシテ且ウチもウチ文ウチ事ウチに志ウチありシテ者ウチハ毎ウチ年ウチ十ウチ月ウチ四ウチ日ウチハ孔ウチ夫ウチ子ウチ聖ウチ誕ウチめテをウチ奠ウチ茶ウチ日ウチ礼ウチ拜ウチ此ウチ祭ウチもウチ事ウチ小ウチへウチりシテ儀ウチをウチ神ウチ廟ウチのウチ祠ウチ堂ウチ或ウチハ寺ウチ院ウチにウチ菴ウチ室ウチをウチ借ウチりシテ聖ウチ道ウチをウチ講ウチずル事ウチ何ウチのウチ世ウチ小ウチ何ウチれウチ祠ウチ堂ウチ菴ウチ室ウチをウチ借ウチりシテ也ナリ明朝ウチの時ウチもウチ借ウチりシテ用ウチひシ事ウチ小ウチしテ博ウチ學ウチありシテ先生ウチ代ウチ請ウチふル其ウチ地ウチのウチ初ウチ學ウチ幼ウチ童ウチをウチ教ウチ育ウチすル事ウチ今ウチにウチ盛ウチありシテ凡ウチ男子ウチ五ウチ六ウチ歳ウチ也ナリ其ウチ天ウチ質ウチをウチ見ウチてウチ聰ウチ明ウチありシテ子ウチハ五ウチ歳ウチ六ウチ歳ウチ

閭學

又ハ生質ひまんとみらるハ歳とあもも學が館かんみ入い呈けい讀てきを授まふ事ことあり皆みな人ひとこれ生せい
 付つみりりり友とも八はち歳さい入い學がくすこと不ふ事じありことのゆりり教おし始はじみや詳しやう
 あり其その父ちち兄あに先生せんせいの許もとハ孩わが兒こ當あた年とし毎ごと来きほつてま何なにの教おしもならず
 間ま先生せんせいの清せい教きやう授じゆを受うけり頼たの入いとり可よ學がくみれ儀ぎをり拜はい帖てつをし出で其その
 時とき先生せんせいともくく作つ揖おひ何なに時ときもも亦またりり御ご育よく古こくくとも父ちち兄あにもも揖おひをし不ふ
 然しからも高たか月つき又また来き月つき何なに日ひ去さ日ひ也なり入い學がくみの成なり成なりのよをり孩わが兒こをり連つれりてり
 とも亦また入い門かどの前まへ吉きち日ひ代しろ選せんとも何なに月つき何なに日ひ寡くわ酒しゆをり飲のみること某なつか宅たく
 法はふ入い来き下くださりとも約やく束たふすこともも其その時ときハ先生せんせいもも礼らいをり拜はい望ぼう謝しゃ々々但た不ふ必ひつ
 費ひ心しんとも接せつ投ていすこと父ちち兄あにもも一ひと礼らいをり告か別べつとも知し入い門かどの茶ちや先生せんせい代しろ招まね請うすこと
 定じやう式しきから富ふ家け豪ごう家けの孩わが兒こをり學がく館かんにり遣つかすこと前まへ先生せんせい代しろ招まね請うすことハ孩わが兒このせん
 を厚こうく頼たのむこと意いありこと此この時とき讀よ初はつとも孩わが兒こみし書しよをり教おしることもも亦また教おしぬこともも亦また是こゝハ先生せんせいにり隨したがふこと

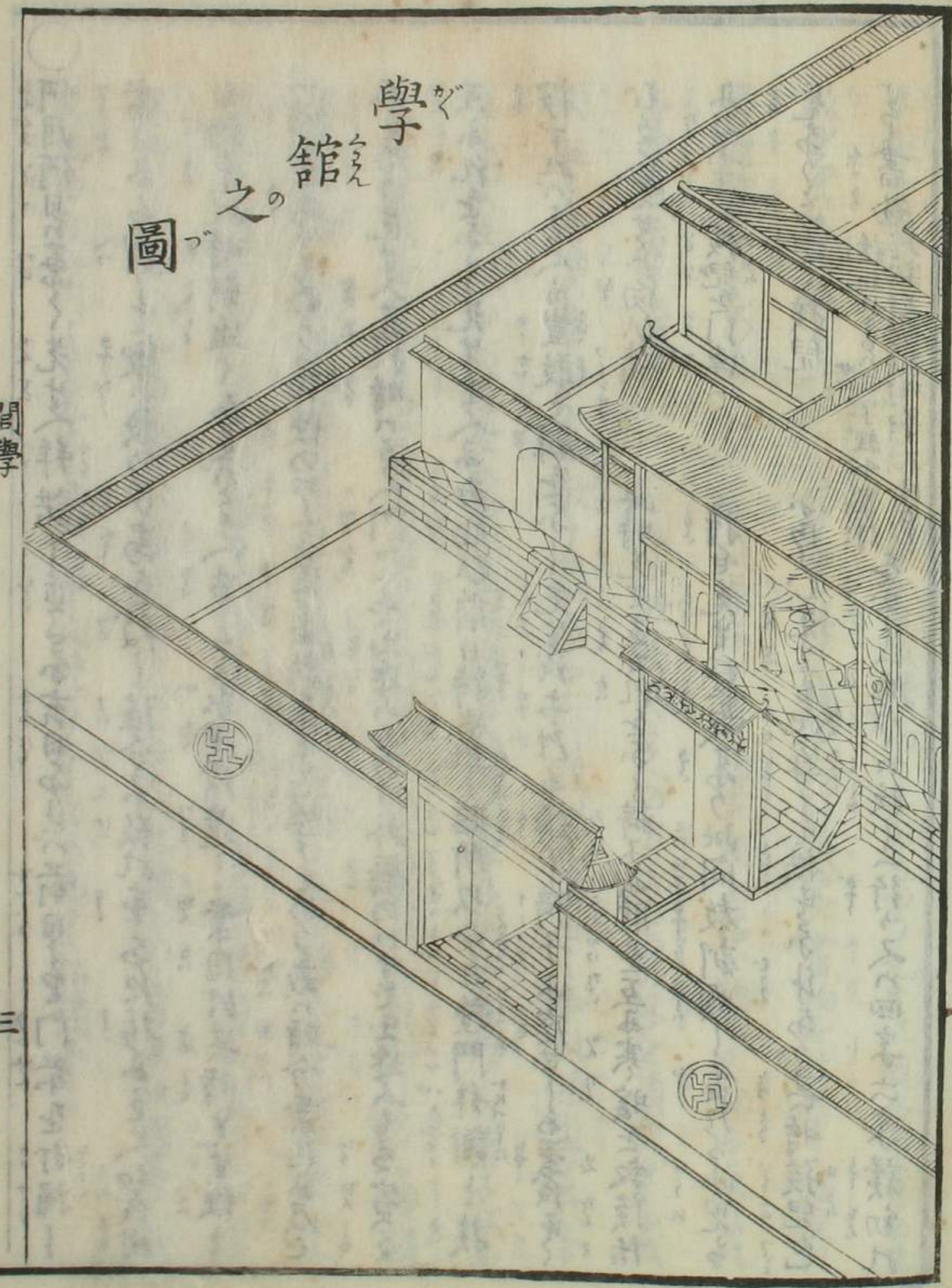


居宅之圖

問學

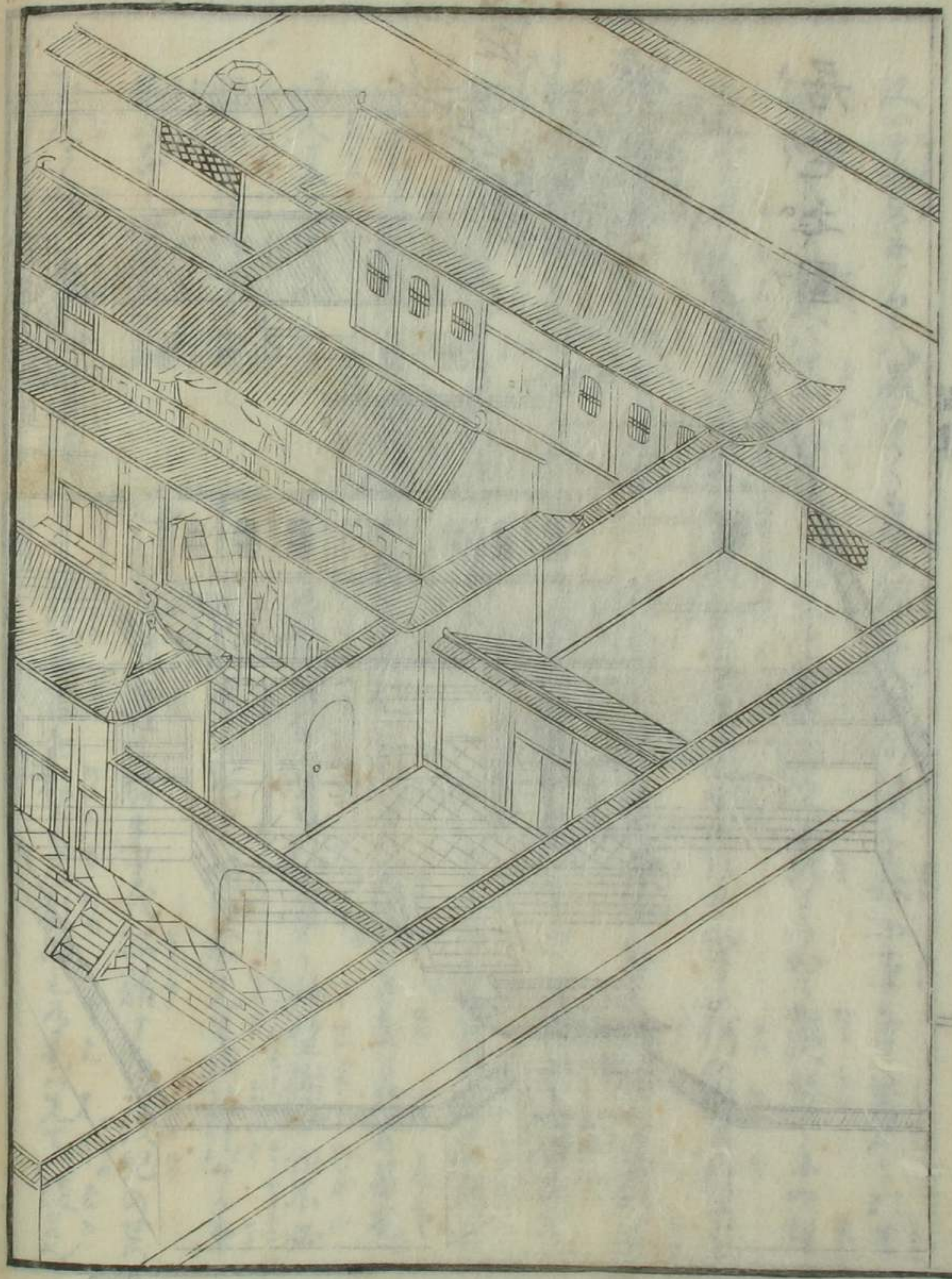
二

學子館之圖



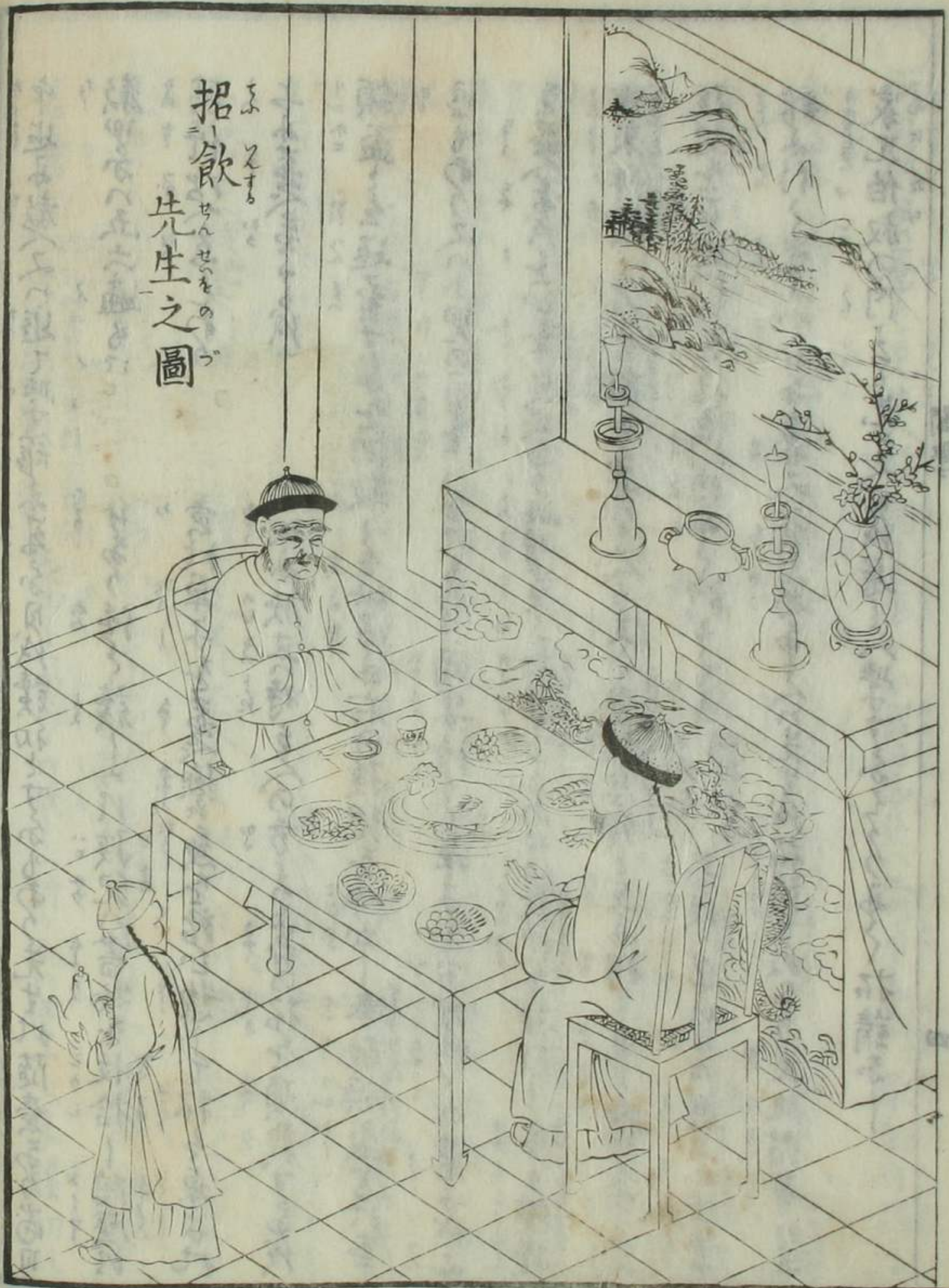
學子館

三



○何月何日、先生に拜諾し、是より吉日を選び、前日、門前を打掃し、當日、別して饗宴の儀を設け、随分不敬な事なれども、人代用由、約束は時刻近く、あはれ、人方、家僕、遣し、案内は、其時、先生、使と一同、お参りあり、又、使の口を、再、直、就、来、とて、返す、とあり、或、時、分、案内、及、おぬ、とあり、先生、入、来、れ、時、は、人、門、口、に、ま、出、立、の、外、廳、の、口、に、ま、出、立、の、も、有、賓、と、互、お礼、を、お、し、先生、と、人、お、向、ひ、前、日、特、蒙、下、臨、所、以、今、日、踵、門、拜、謝、と、挨拶、す、れ、ば、人、も、豈、敢、と、揖、を、お、し、先生、代、上、座、お、請、い、椅子、お、座、せ、し、お、儀、成、す、む、と、人、先生、お、向、ひ、請、茶、と、云、此、時、先生、立、て、れ、を、お、し、椅子、お、腰、を、互、お、寒、暖、を、叙、談、話、お、及、主人、孩、兒、を、引、連、し、書、物、を、持、せ、先生、に、お、交、り、此、間、教、訓、願、し、並、た、ら、小、児、は、是、あり、と、い、く、孩、兒、お、揖、を、お、し、先生、も、起、身、し、て、拱、手、お、し、あり、其、時、孩、兒、包、し、る、書、物、續初此書凡三字經千家詩十字文百家姓等不同あり を、出、し、一、句、づ、口、授、し、一、行、づ、又、い、回、字、六、字、讀、初、れ

中、近、お、教、へ、又、い、進、て、學、子、館、お、参、り、日、代、讀、初、と、す、お、も、あり、先生、に、隨、意、あり、尚、日、教、ゆ、お、い、五、六、遍、も、口、授、せ、し、お、し、あり、讀、し、わ、け、孩、兒、の、書、物、を、收、拾、し、陪、座、し、其、後、次、へ、と、あり、其、時、用、意、し、卓、子、を、置、き、饗、宴、の、儀、を、始、し、物、を、お、し、卓、子、に、上、お、お、置、き、各、一、同、お、飲、其、時、主人、の、方、も、客、の、杯、を、頂、戴、す、る、儀、リンボロ 領、盃、と、云、返、す、る、を、回、敬、と、云、此、右、の、孩、兒、を、呼、出、し、奉、敬、領、盃、を、し、奉、ある 返、も、あり、又、い、小、児、の、名、を、お、い、ち、あり、酒、宴、終、り、て、卓、子、を、方、舟、行、の、菓、子、糕、品、を、並、置、き、代、を、お、事、定、式、あり、此、時、賓、と、打、話、し、て、尚、日、の、款、待、を、挨拶、し、多、く、攪、擾、重、來、拜、謝、と、い、告、辭、を、お、せ、ば、人、も、さ、う、豈、敢、怠、慢、と、互、お、揖、し、先生、代、上、座、お、い、人、孩、兒、を、引、連、し、門、口、に、ま、送、り、門、内、お、し、り、り、も、有、其、後、入、學、の、日、代、選、し、小、児、學、館、お、行、く、學、小、身、お、者、又、い、貧、窮、お、り、人、の、先生、代、拓、請、せ、ぬ、あり、且、孤、獨、等、の、其、家、兄、伯、叔、の、内、より、先生、に、日、代、選、し、入、學、す、る、お、り、り、お、し、拓、請、お、し、

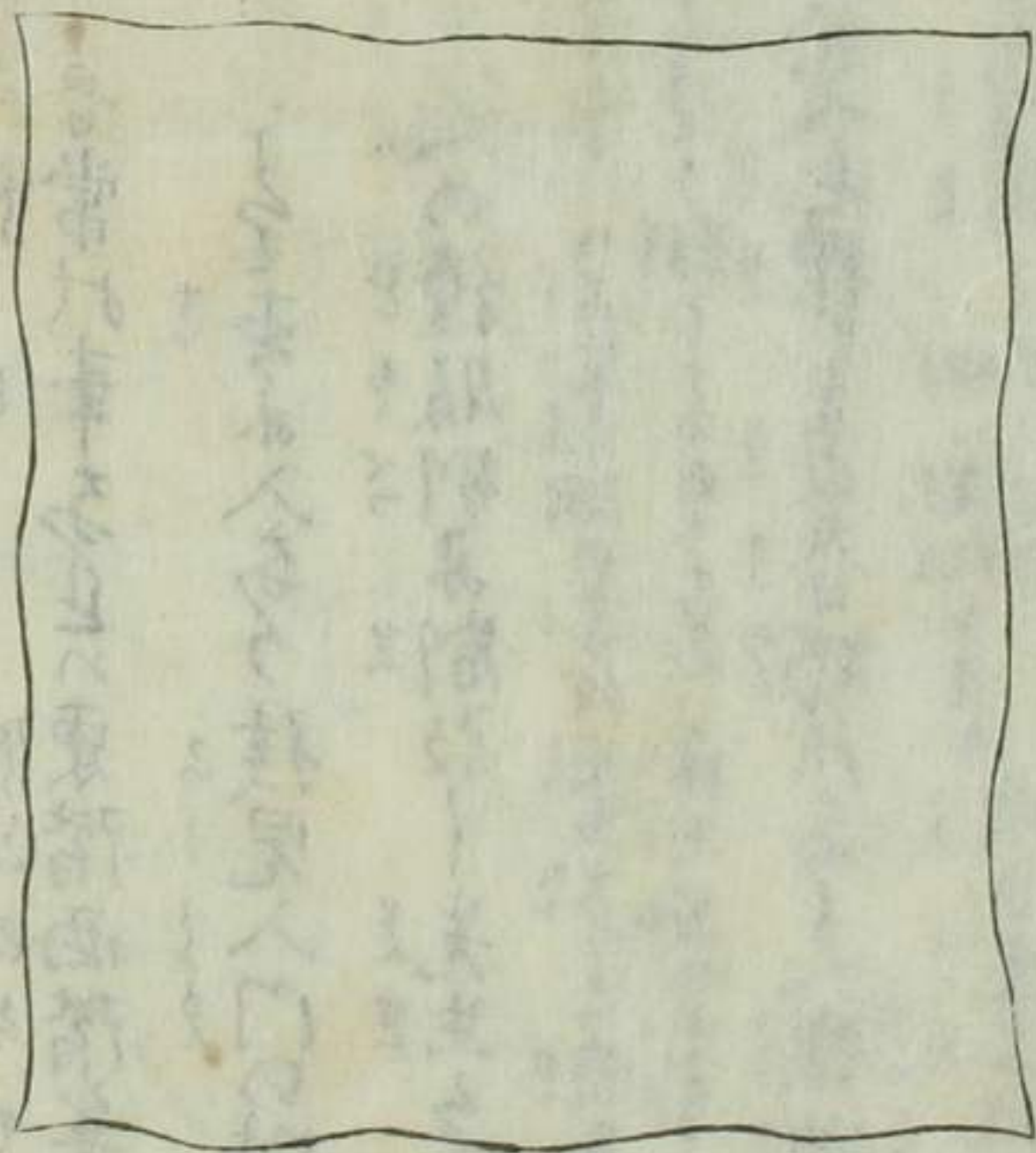


招飲先生之圖

○

孩兒ハイルウをハイルウ免て入門ニイテンのニイテンとニイテンれたニイテン其父兄ニイテンとニイテン同ニイテンみニイテン給ニイテンくニイテンのニイテン帖ニイテン持ニイテン系ニイテンしニイテン學館ニイテンへニイテン入ニイテンるニイテンとニイテン學館ニイテンのニイテン造ニイテン化ニイテン尋ニイテン常ニイテンれニイテン事ニイテンあニイテン止ニイテンのニイテン東階ニイテン西階ニイテン等ニイテンのニイテン事ニイテンあニイテンしニイテン門ニイテンをニイテン入ニイテン外廳ニイテンとニイテンらニイテンふニイテン座ニイテンれニイテン所ニイテンのニイテン出ニイテン入ニイテン口ニイテンとニイテンらニイテンふニイテン入ニイテンるニイテン孩兒ニイテン入門ニイテンのニイテン時ニイテン着ニイテンすニイテンるニイテン服ニイテンをニイテン實ニイテン客ニイテン付ニイテン來ニイテンのニイテン服ニイテンとニイテン制ニイテン同ニイテンしニイテン庶人ニイテンのニイテン禮ニイテン服ニイテン別ニイテンみニイテン制ニイテンれニイテンしニイテン先生ニイテンとニイテン書童ニイテン管ニイテン童ニイテンもニイテン小ニイテン側ニイテンみニイテン云ニイテン付ニイテン聖ニイテン儀ニイテン國ニイテンのニイテン字ニイテン籍ニイテンみニイテン供ニイテン奉ニイテンすニイテン事ニイテンらニイテン他ニイテン國ニイテンもニイテンもニイテン賣ニイテン出ニイテンはニイテン前ニイテンあニイテンりニイテンとニイテンらニイテン備ニイテンへニイテン畢ニイテン止ニイテンのニイテン孩兒ニイテン聖ニイテン儀ニイテンみニイテン禮ニイテン拜ニイテン身ニイテン分ニイテン相ニイテン懸ニイテンみニイテン銀ニイテン七ニイテン八ニイテンとニイテンらニイテンあニイテンりニイテン拾ニイテン々ニイテン錢ニイテン封ニイテン筒ニイテンみニイテン封ニイテンしニイテン其ニイテン上ニイテンみニイテン封ニイテンとニイテンらニイテン紙ニイテンをニイテン小ニイテンくニイテン切ニイテン張ニイテン付ニイテン其ニイテン紙ニイテンみニイテン執ニイテン儀ニイテンとニイテン書ニイテン先ニイテン生ニイテンとニイテン捧ニイテン奉ニイテン初ニイテン見ニイテンのニイテン禮ニイテンあニイテンり此ニイテン時ニイテン先生ニイテン同ニイテン門ニイテンのニイテン書ニイテン生ニイテン成ニイテン集ニイテン先ニイテン和ニイテン氣ニイテン湯ニイテン何ニイテン國ニイテンのニイテン學ニイテン館ニイテンみニイテンくニイテンもニイテン用ニイテンゆニイテンるニイテン事ニイテンめニイテンりあニイテンり江ニイテン南ニイテンのニイテン地ニイテン方ニイテンめニイテンくニイテンれニイテン事ニイテンあニイテンり人ニイテンみニイテンくニイテン

書包 藍布



他国めくも用ゆふ事ありと是より毎日功課のさく稽古あり早辰中書館小
 あり先座の聖像に向ひて揖し次み先生に案前み奉り他揖し自己を
 請持の椅子みかき書物を案しみ並体息はゆる先生書生みひり久
 来々讀書とらふ其時先輩の者より先み種有古其相如席の避速みとら
 次牙をさふもあり到着懐函都て書生に書物成先生の案しみ並包を披
 き書物成先出し前日授てさふ所を三四遍讀みれば先生右の書成とりて
 背誦をあらむ此時書生は先生に背成前日習ひ得る所成誦を毎日
 固執りて其背誦の時一字みくも讀遠ふ時ハ元の坐み返り其次第の
 書生成吟出し句讀を授かり句讀の授けやうハ先一句宛先生成口う
 けし其讀三四遍も一回成讀くもの書生一人讀あり其間成其成以て句讀
 ありし其點圖を加ふ句う行の右み圖し讀く行の真中み一點成加ふこと

小園代加の事もある若一字両音義理異なる字は其四音を以て
 平上去入を分け小園代懸は凡の門生十人にて三四十人近代教育を以て
 法あり又十人已下此書生を以て初學の時塊頭字
 を以て一日一字二字三字と次第に見知らしむる代認字とあるは初
 日小認三字二日同之總三字前日此三字代も亦ほせし見知らしむるは生
 且付の才氣厚兒者ありひの幼稚の者且ら門生をすし初見時其法を以て
 己字を教養する法あり元認字三百字も過其法を以て初見時其法を以て
 進の四書五經代讀む且毎朝讀書の時空代懸之志代定めて句讀あり
 分付字々分曉し其書中か化けを見ふ事如く化物代懸ふ事如く遍
 敷を細か記し其遍敷満く北背誦し其時北背誦あり近敷遍敷
 遍敷満く北背誦あり其遍敷の満く手を讀む是すを以て以得る也



書生 禮拜之圖

問學



拜



跪

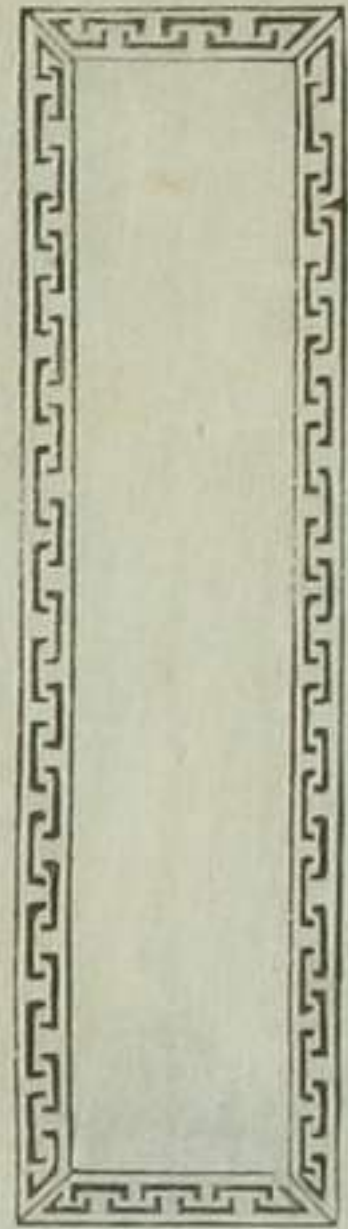
拱手



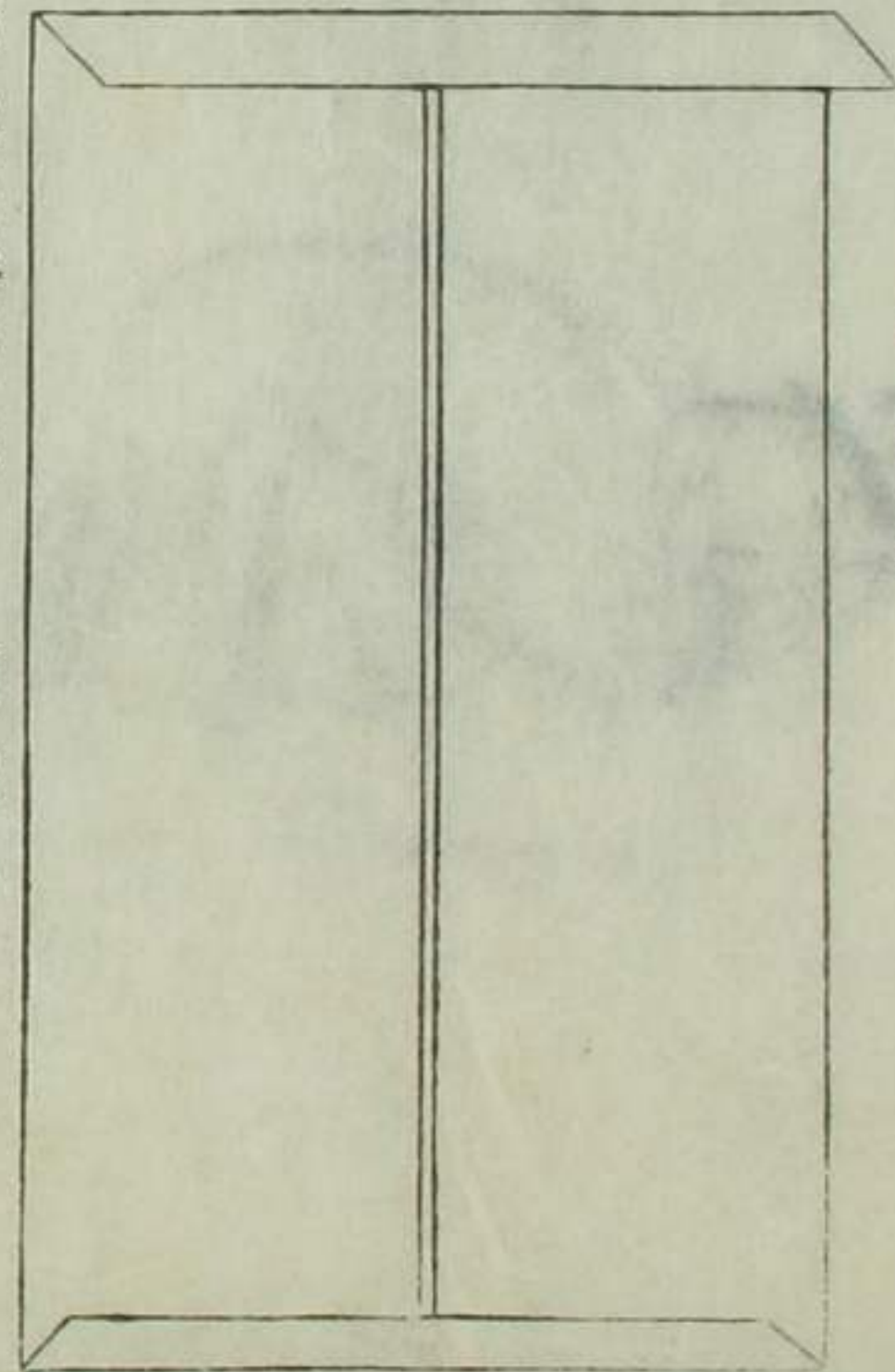
興



封筒大小不同用白綿連制衣造 正面式



背面式



封筒釘封面式 面用大紅或梅紅箋貼固上下轉至後面糊貼牢固

背面式

某姓某 號 老長翁台展

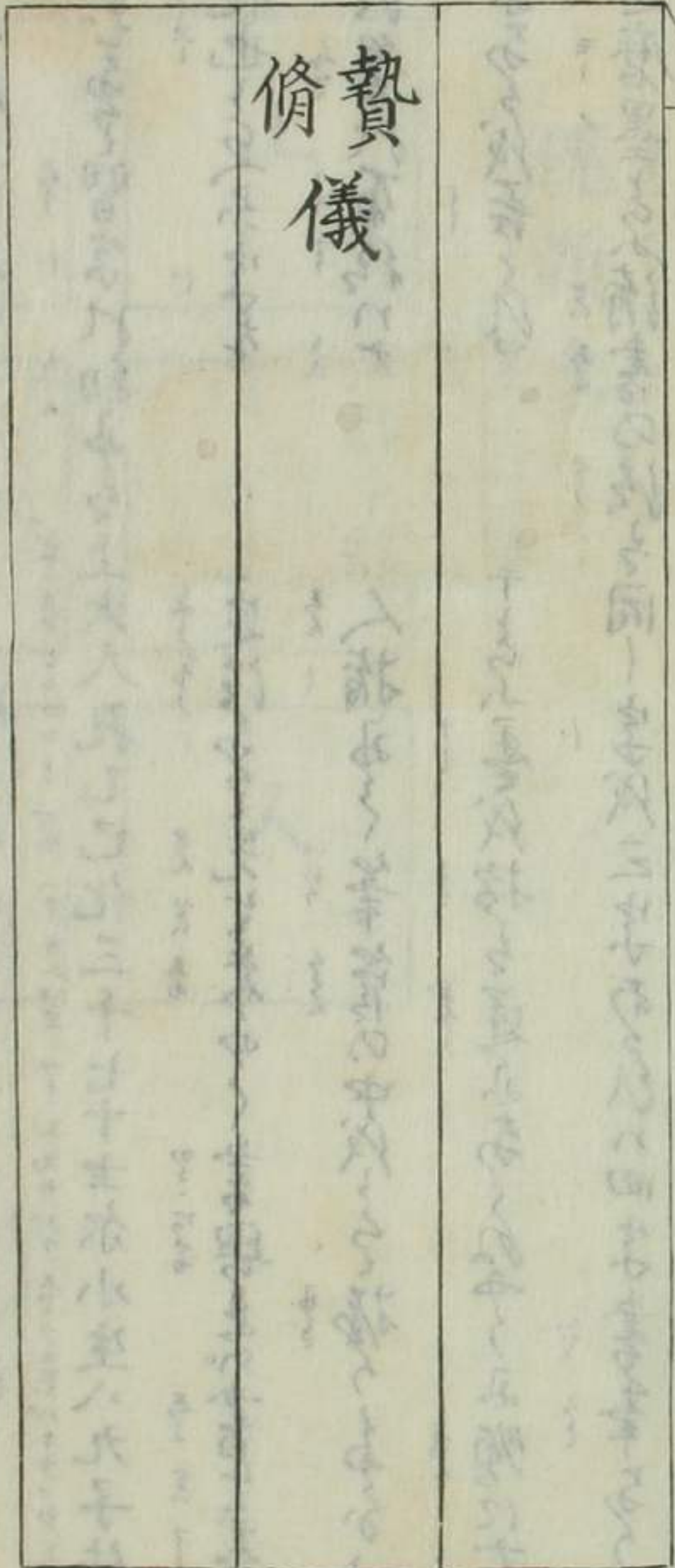
某姓某名具押

封

某用某日錄

封

贄儀



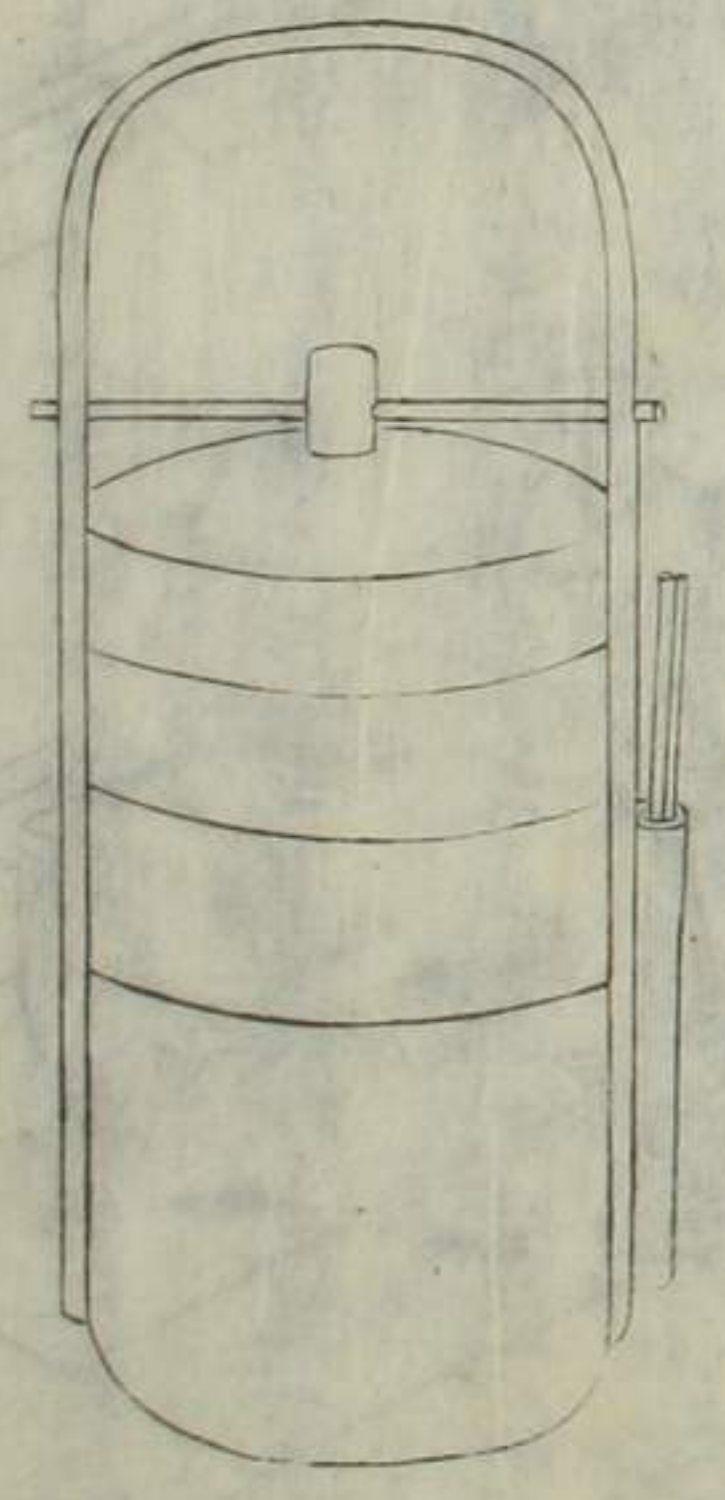
書成帶温復習... 年長の書... 整衣歛容... 某書未通敢請先生... 午時み至... 間學

吃中飯一又此に學館小来る二町三町も隔るたる書生は許りて登版
 を送る次第のみ及び午飯過く習字は八點時候の先生講書一
 學館の書生位成して拜聴す先生講し其れハ學業進たる書生當
 日先生の講し多分所を論議以て又當日授りたる書成熟漢字九羽字の
 工拙を拘りて専ら字畫嚴整みして歌斜差落等の病を以てに月等あて
 筆臺硯の取扱ひをを静か一戲を硯に面以書言する等此事はやうり
 戒しむる習字に初め々上大人孔乙己化三千七十一小生八九子佳作仁可
 知礼也といふ字をおもひ是定法多先生書中書與其の書面生書中慎
 寫は筆に右指の中指中指人指みく筆管の中成とを握り多分これら
 空みあら成言と成足を把筆とふ成成指を運みあふぬやうに順に右指は
 足を磨墨とふ清書の法と同一字成二字あるひハ四字書事ありたる人ば

塊頭字

上	孔
大	乙
人	己

錫盃



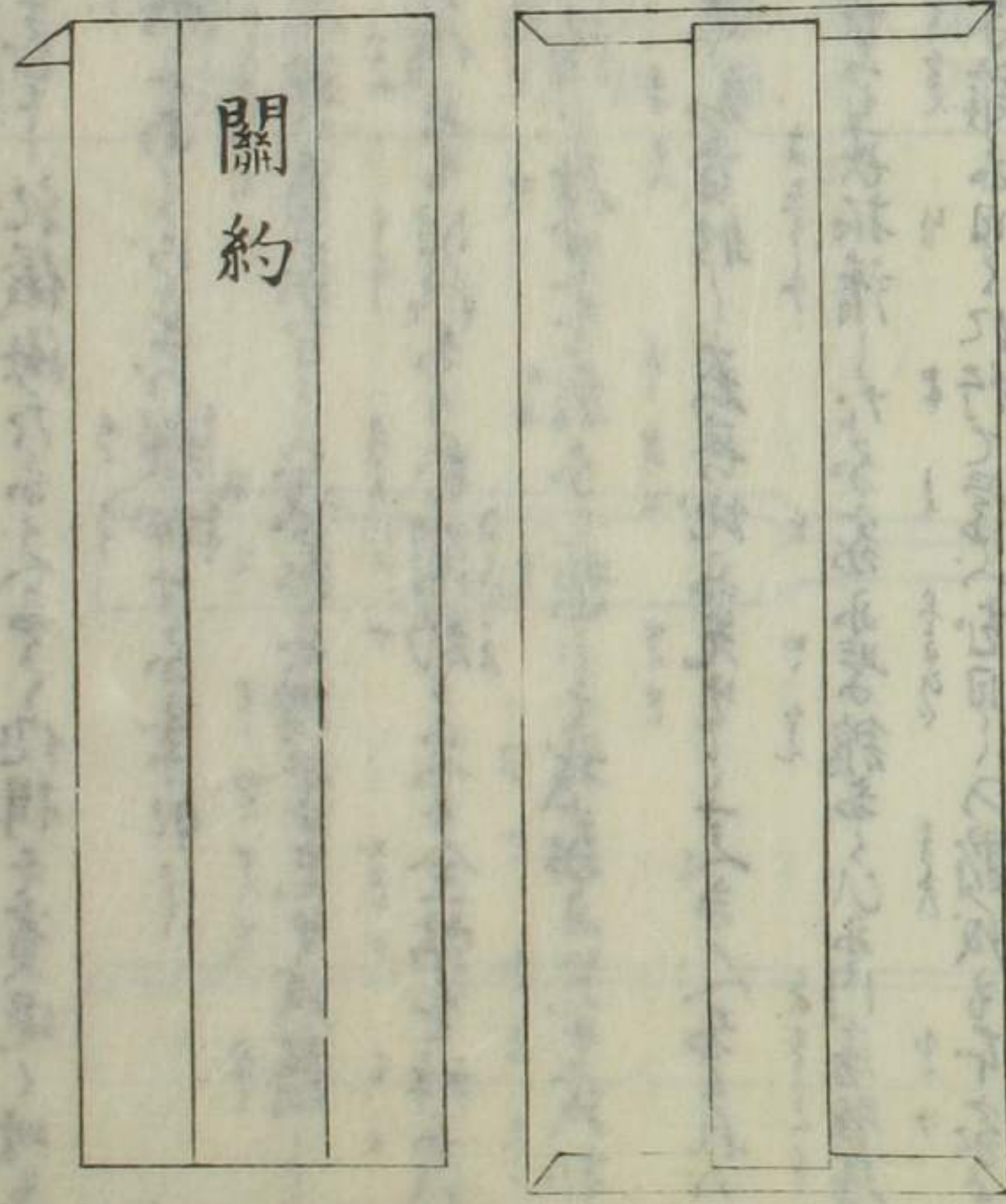
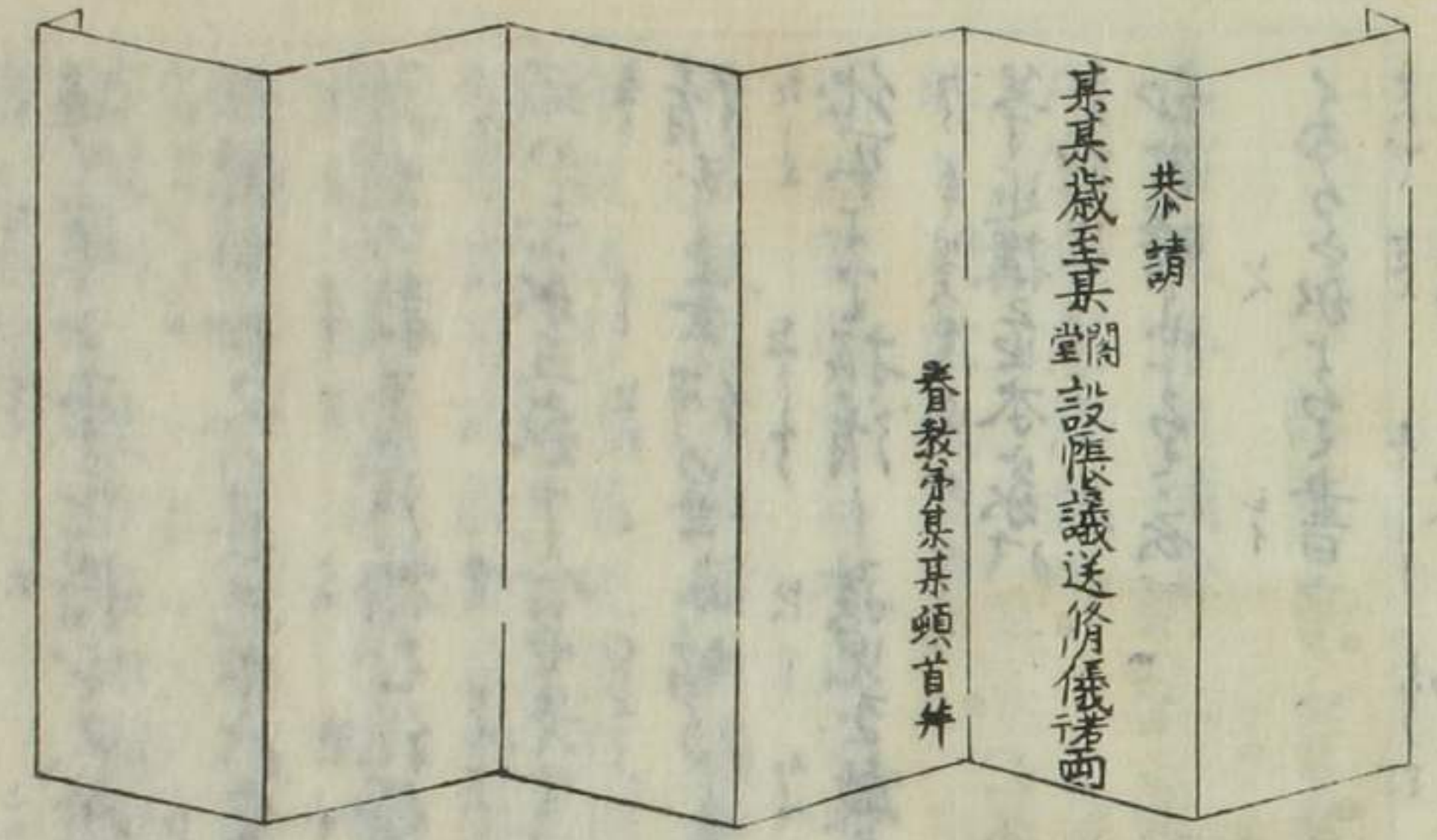
問學

學館諸生列位之圖



上の字を二字書とて初の一字は填寫一紙に二字は自方其書是法書の
 法ありかのおとくある毎日法書一請改一其未千字文まゝの古筆法帖を
 習ふは法帖成習ふ時と油紙を巻ひて一字毎に習ふ黄昏に及ぶは書生を
 家母婦も又一月年月も浮屠をふかむを毎日家母婦も書生に及ぶ以下
 舟と路濁とつかり奴僕時刻を考へ近きものなり午飯を送りぬる湯の
 差物も入来たり目入門の日も書生に教へらる先家母婦も神
 一礼一泣も父母兄弟姉妹も礼儀一進退周旋の礼節懈怠ありは
 二ひび(ら)事なり(○)詩法成教ふかひ先書を作らむは法を二字
 三字に古人の句成書はみ對を作らむは追々五字七字法を教へ點削を
 加ふ其後五言七言の絶句成作らむは習ふ時と其人の好みと韻書類書等成
 用ふとも何の書成用ふとも不定なり又其間も唐詩三百首行背誦せ

此の事常なる文章を属する法の天然気味の幼童の十二三歳たるも
 左傳史記漢書に類をよしく熟讀せし義理體裁等をも遊く教へ
 又と先生此講すの書或輪流に講しあるに義理遠く行かば
 早くと逐一先生の所へおのれりかのごとく去る向意文法或略する
 消るるより先生類を出して文法はくらくめく文法無窮等を以て事
 學館に供奉する所儀の左右に文昌帝君魁星像を安置する事あり
 此二神の都く文明をばくくすか神也讀書を人多く礼敬する事
 考へ所もよるとはくくぬ事あり ○先生賓客と應對の事お止し書生
 次は法に序立し先生賓と礼儀早も成待諸生賓も向し奉揖以賓退
 時も奉揖し送る賓と先生と諸生も命して門を出る事あり止とあ止は
 浴く位も凝立し先生賓代送る席も坐成命されんえれましく坐も賓も



問學

十一

諸生中相見を欲す時先生と孔儀海たる人多く他揖之賓退く時
 遠く送ふ事を得む又此類ありしは親押す事れ
 知縣同知又の其已下此官人或の富家なり我が家も博學先生成請
 孩児の教育成頼む孔儀の何とも同類ありを關約とする全帖を拜
 或の三家五家令世先生成清し孩児を教ふ之想して我家も先生成招
 請を至何の世始りし也初者好し其甚此先生とすき人あらは
 他不より招請し孩児を教ふなり其招請したる家も學館ありは内房膳房
 等近構は本家此孩児右の學館毎日に行て學ぶを日々の賜成も本家
 分月時おとる衣服おと送る事あり是先生ははひの者なり時招請
 する家より書童管童五人まゝ三人付添伏侍せむ十二月おと先
 生學館成收拾し郷里お帰る五月十日以後より来る學館お入る

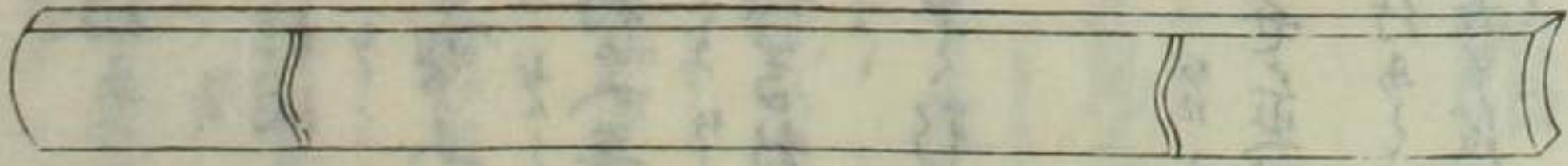
功課單

夫書生毎日清晨上學宜整頓
 几案令潔淨端正平心意氣將
 昨日所教之生書讀熟背誦仍
 理溫讀過書每本正文十張然
 後方教生書再讀計遍數成誦
 午飯後習字筆硯墨錠須頓放
 有常處不可散亂未時講書又
 熟讀舊時讀過之書務要讀得
 字字響亮不可錯誤夜間在家
 亦讀到二更凡在本館受業者
 慎之毋忽

戒方



竹引



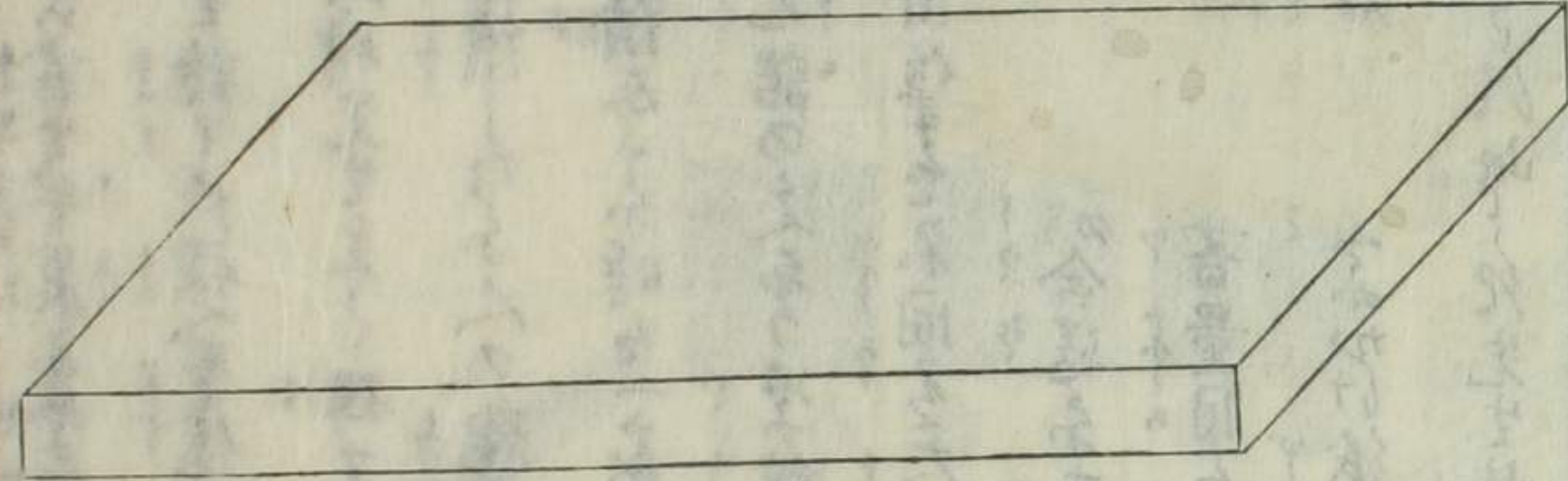
女子學問の法を男子に異ならずありて女先生とて寡婦又ハ人の妻
 學才あふりの諸家の女子を教ふる事ありて女子は家におりて教授は初め女訓
 孝経を教へ後めら千字文百家姓四書等成讀志む事男子に同し執
 儀束脩の禮も同様あり習字も初め女先生に教めり上大人を習ふ後
 ら男女の限らず紙書の先生成りて習ふ且豪家女子の詩文章成
 教ふるはつり小家めりも志厚けりゆふ其父兄の好む詩作を教ふる
 此外女先生女子を教ふる事あり婉婉聽從等れ事ハ女子の母常く行む
 あり折々の女先生を教ふる事あり

○ 學館の壁書成功課單とて先を學び後變り常め書生に見せ並て提
 を此月兎偷懶作怪あらまのら止む戒方一名戒尺と云 竹片竹片は
 ありて打手心又おろし懲らめら打屁股すかり

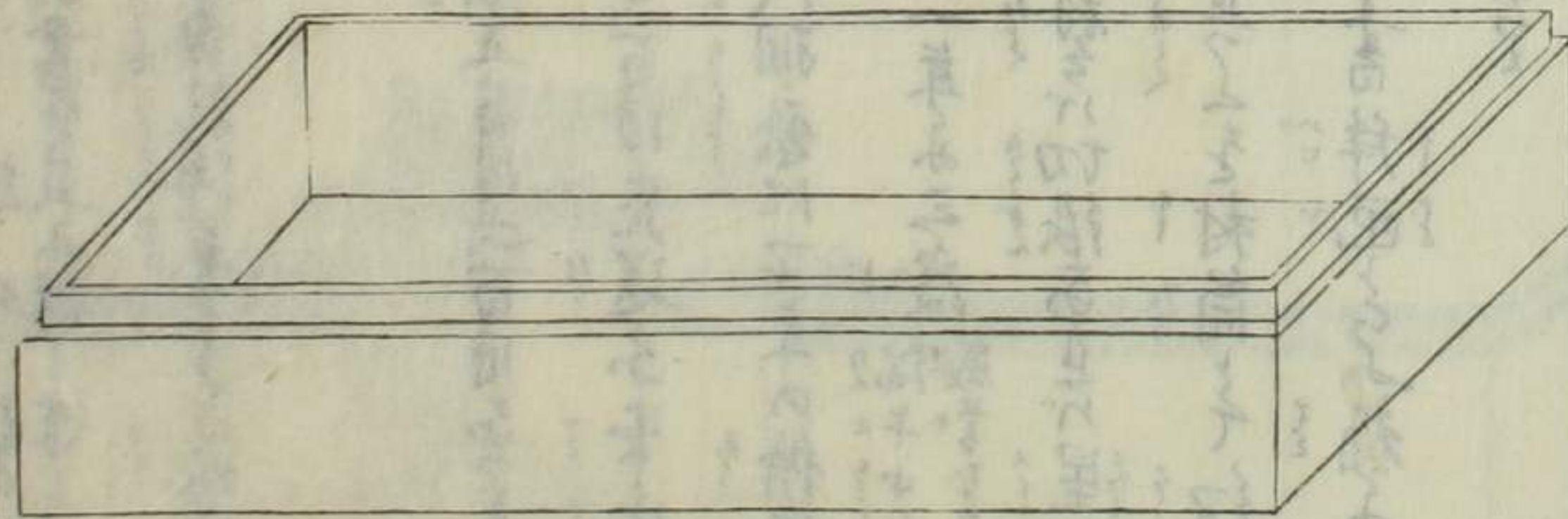
開館票
 本月某日開館

○ 毎年放學の定日ハ三月清明五月朔日を五月まで七月中元八月中秋九月重陽十月冬
 至十二月止日及び正月十日前後まで放學とて是年中放學は定日ありて不
 日毎年端午中秋の日を放學とす其日食月食國喪あるを節
 放學せし平生のおと教授せらるる先生毎年十二月十日以後は舊古成止り郷里に
 取戻り十日前後より清持此學館に入ら當月何日とて初日を設けり
 此代極細紅唐紙に書門に張る日限を見り書生上學以此時讀初等の
 式あり初學入門ありて聖像に香燭供物等以て禮洋事奉事奉常行ふ式
 のごとく右の外年中放學は日あり先生又ハ書生の内子故障ある附ハ放學

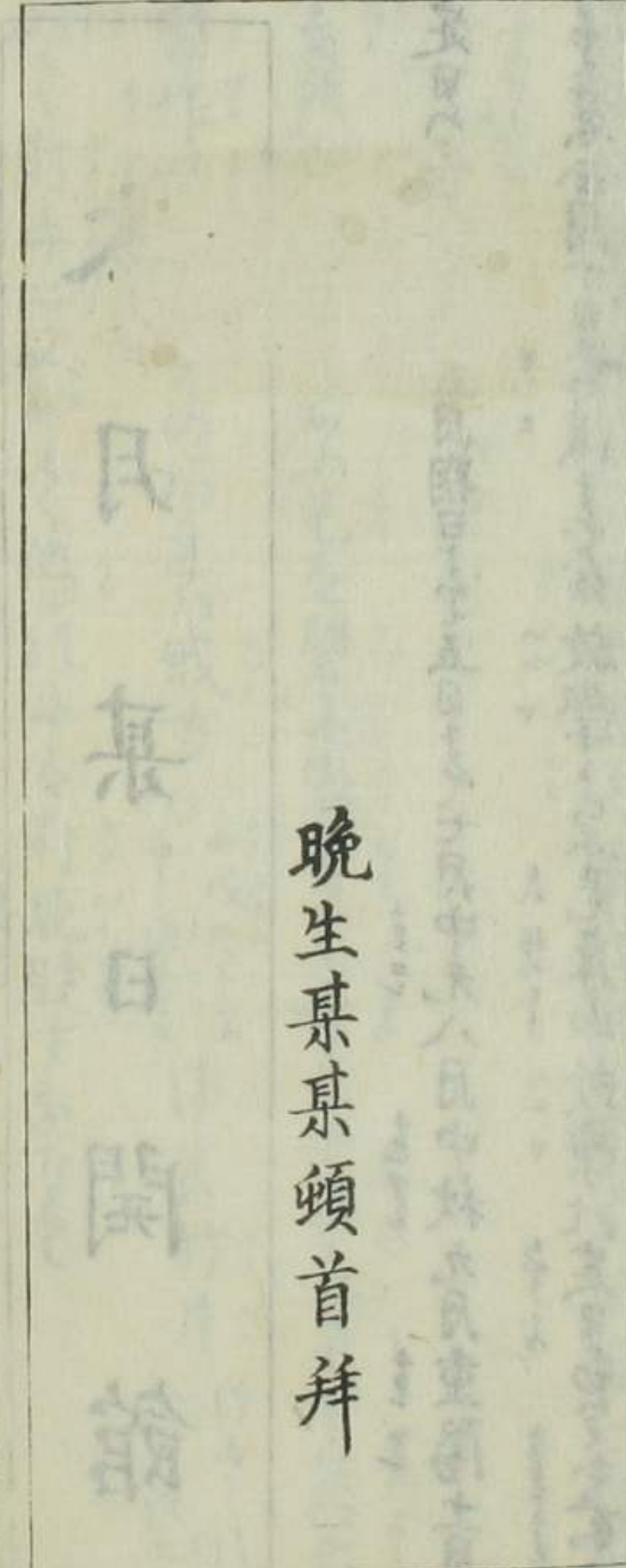
拜匣蓋 まゐりのあて



同身 おなみ



帖單 ちゆうたん



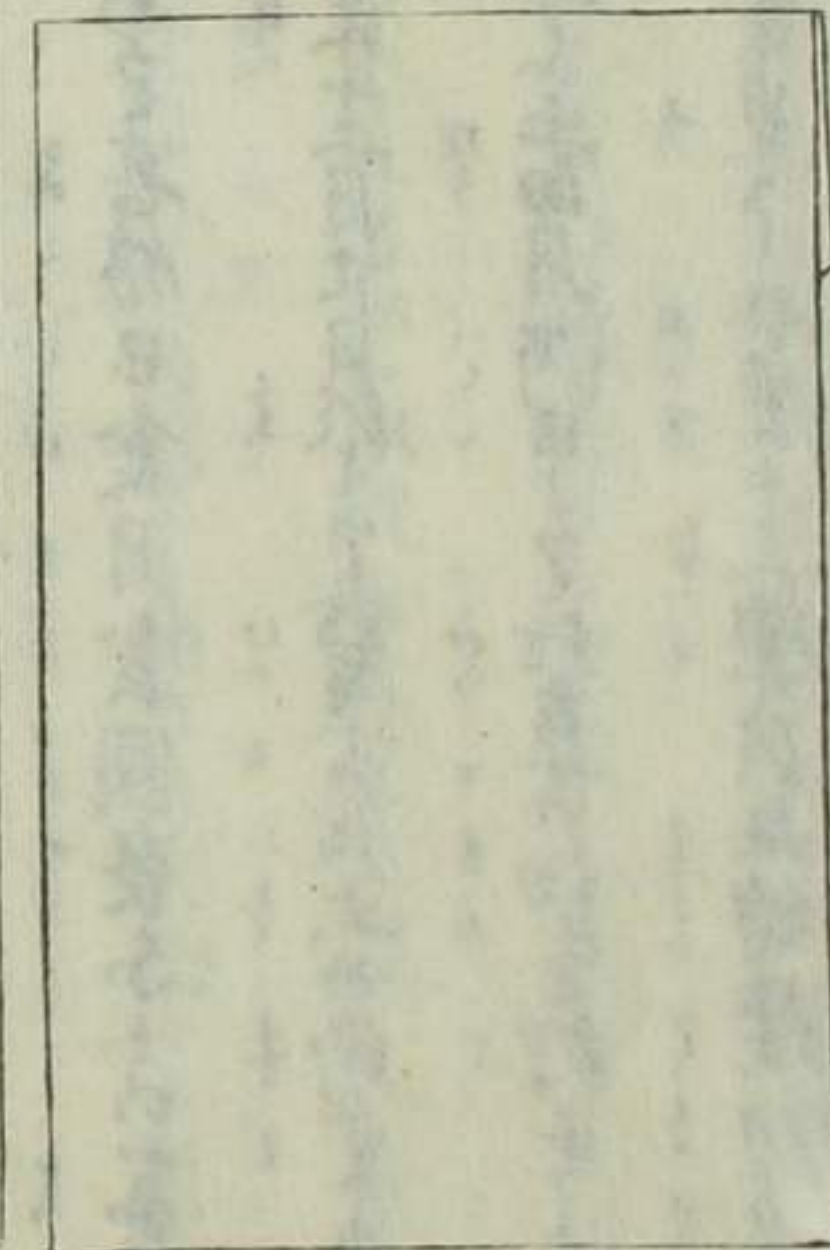
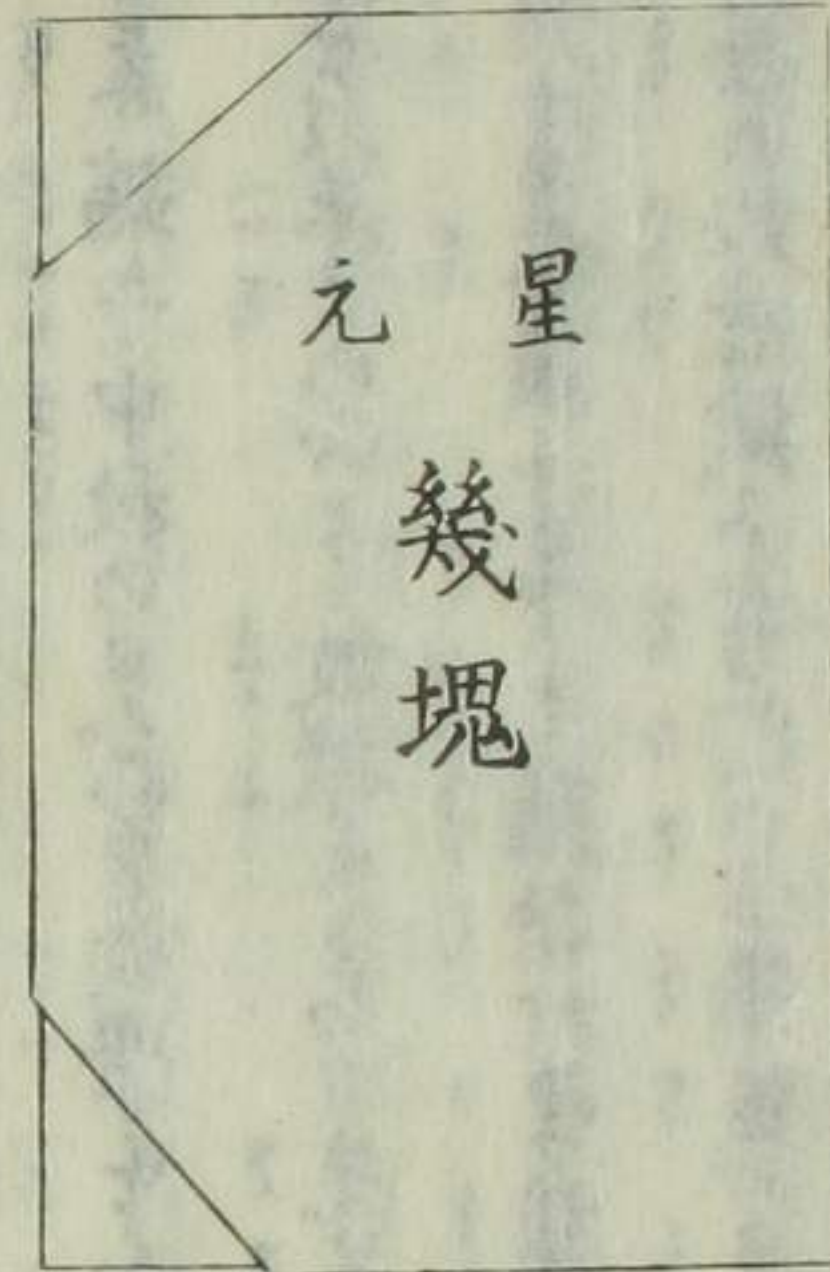
晚生某某頓首拜

面

元星

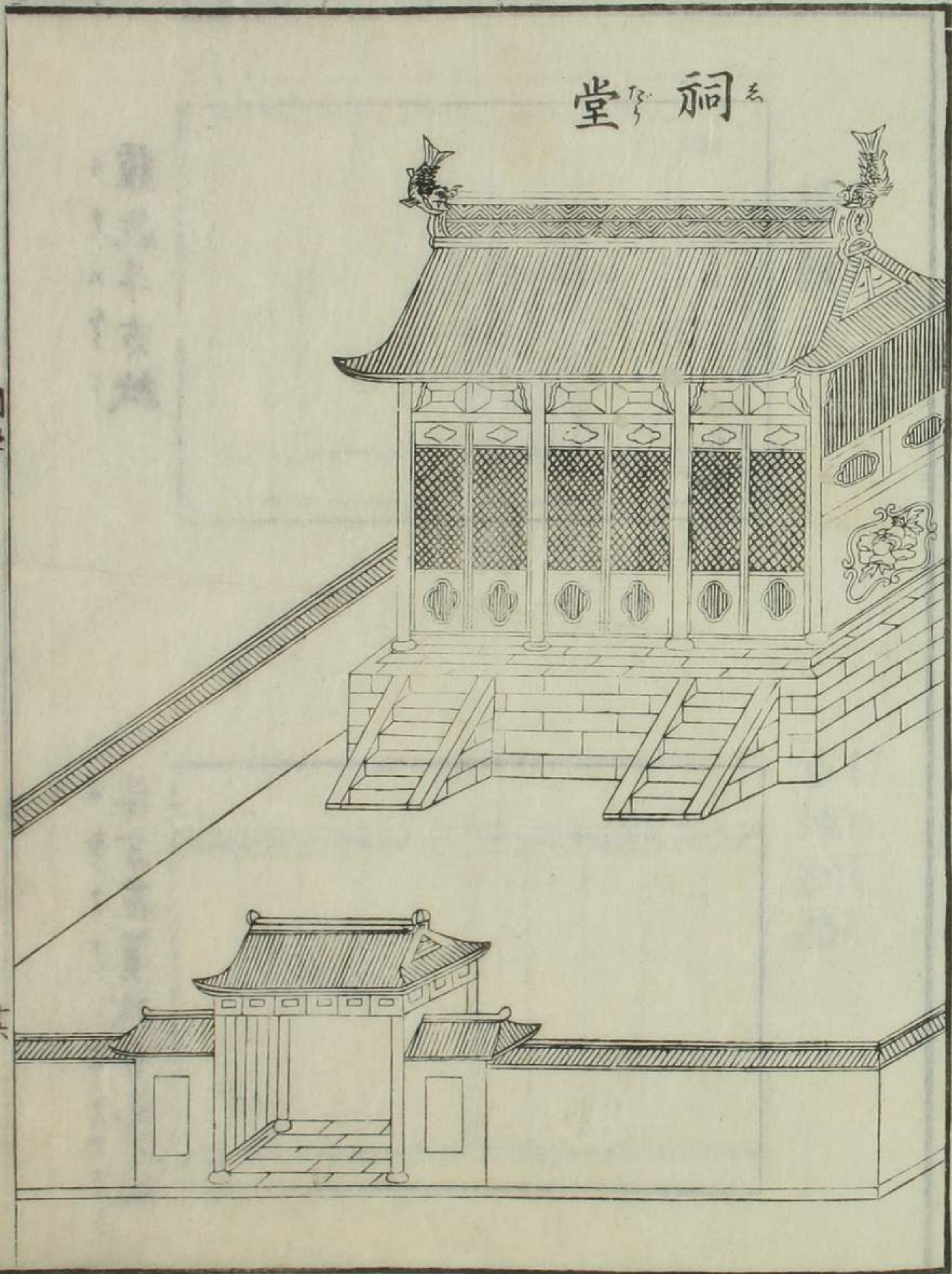
幾塊

背



贄儀束脩包法

すふちをまゐり書生の故障あふるに其者むらりて



○毎月朔日十五日の書生早辰母学館へ奉り先後の書生互に揖し皆く搦ひた

ふり此年長の書生諸生成徒へを儀れ若小至り焚香孔添年々直子先生

みゆひに再洋此時先生之と揖すあなり

○先生成家肉も拓清したふ人の謝儀と一年元銀五百目六百目あり二は秋

家中合せく拓清とふ時と一は秋と一年百目二百目宛送ふ事元初

護あて先生も允諾の之あり学館の諸生も身代相應に一年の脩儀銀

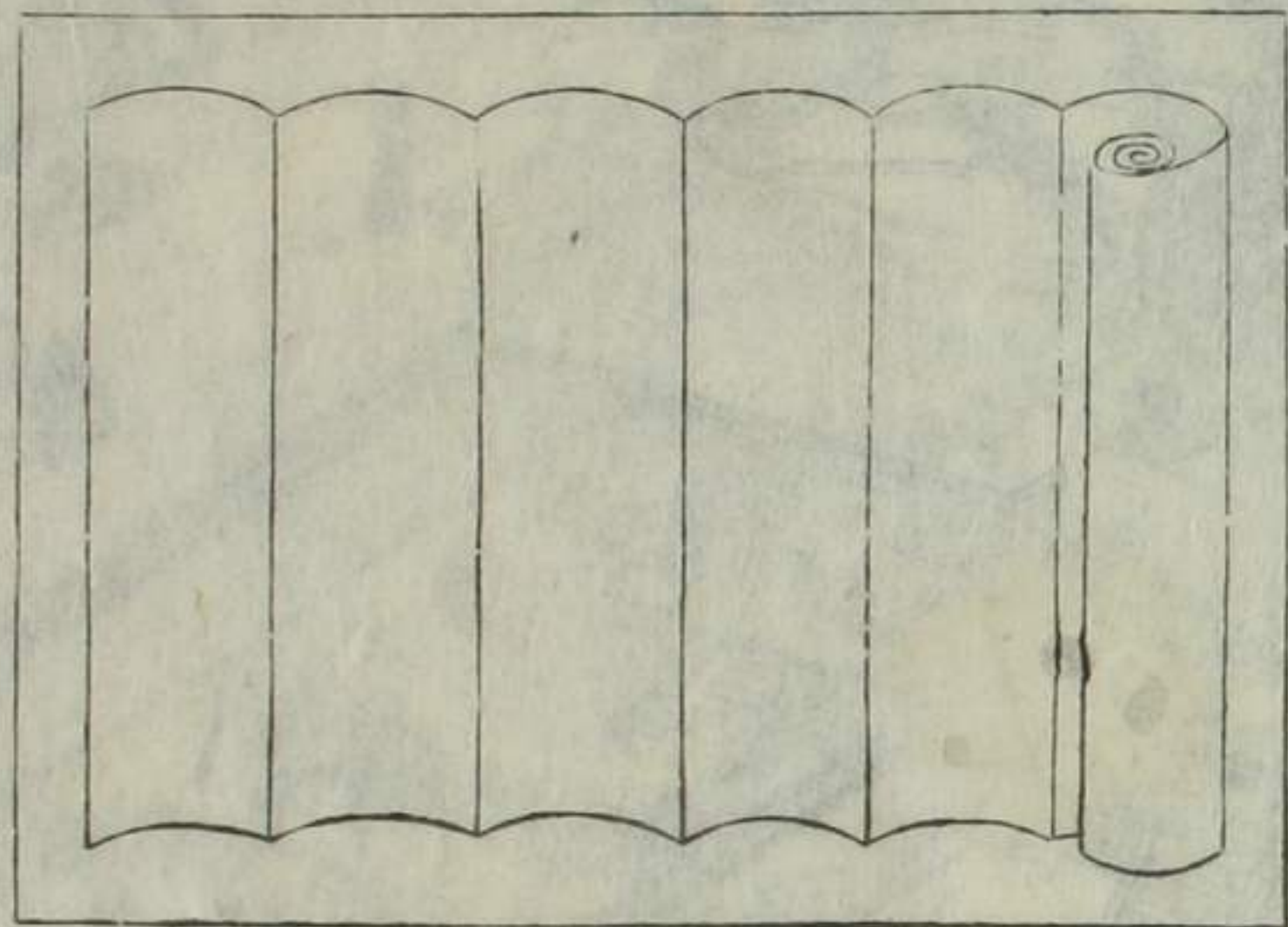
五十目位とる百目位まで不同る大家少家とも一年か三後

五後立夏端午中秋 小別合送ふ事之銀の包や研ぎ切銀あるは星幾塊

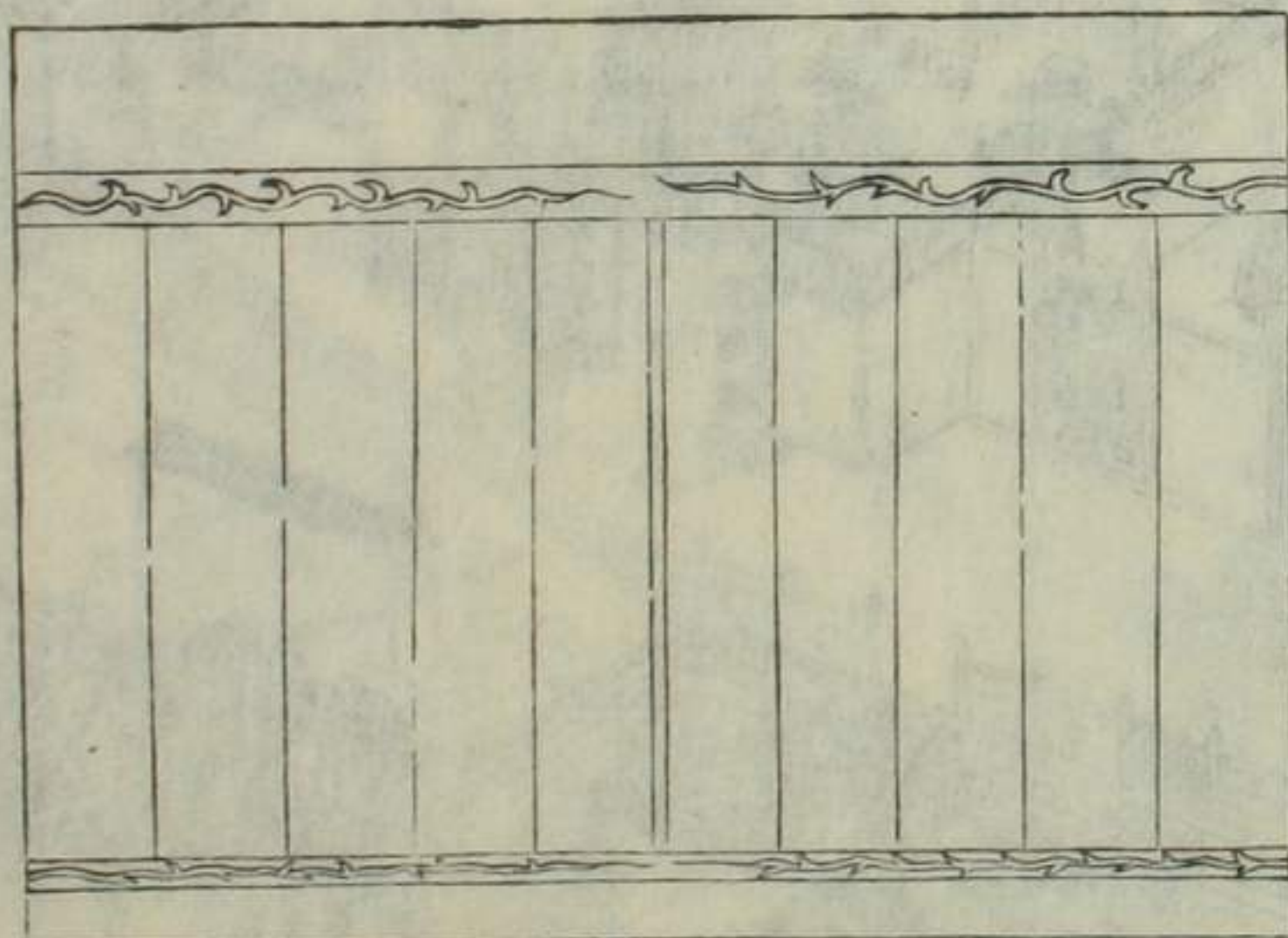
と書全き銀を玩幾塊と書量目々書載ぬかると其つを封筒とて紅唐紙

小く袋を包む能封しよみかけ紙をうて脩儀と書拜画とらふ箱小ひて

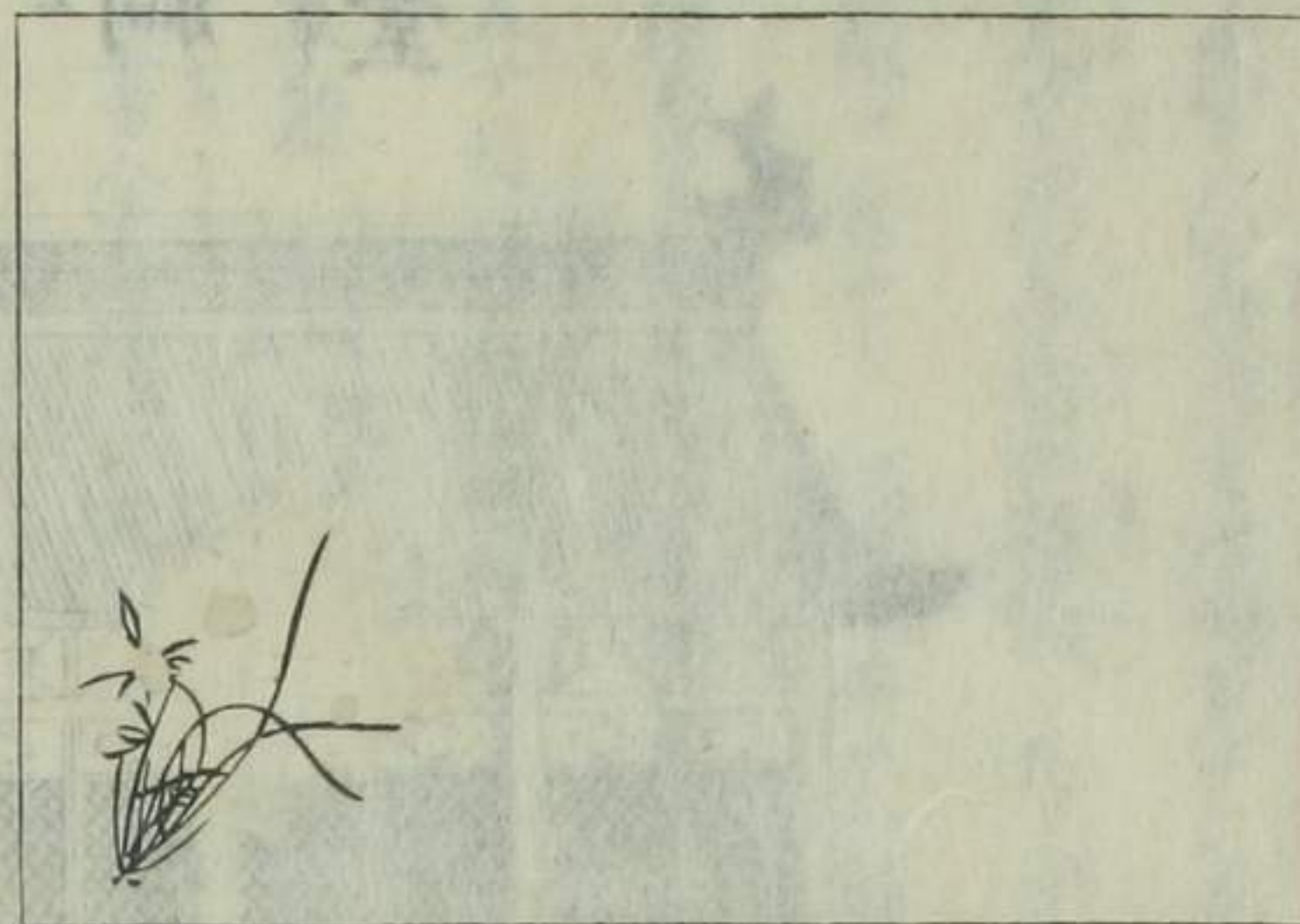
奴僕も持せしつて此れ先生請取の謝帖あり



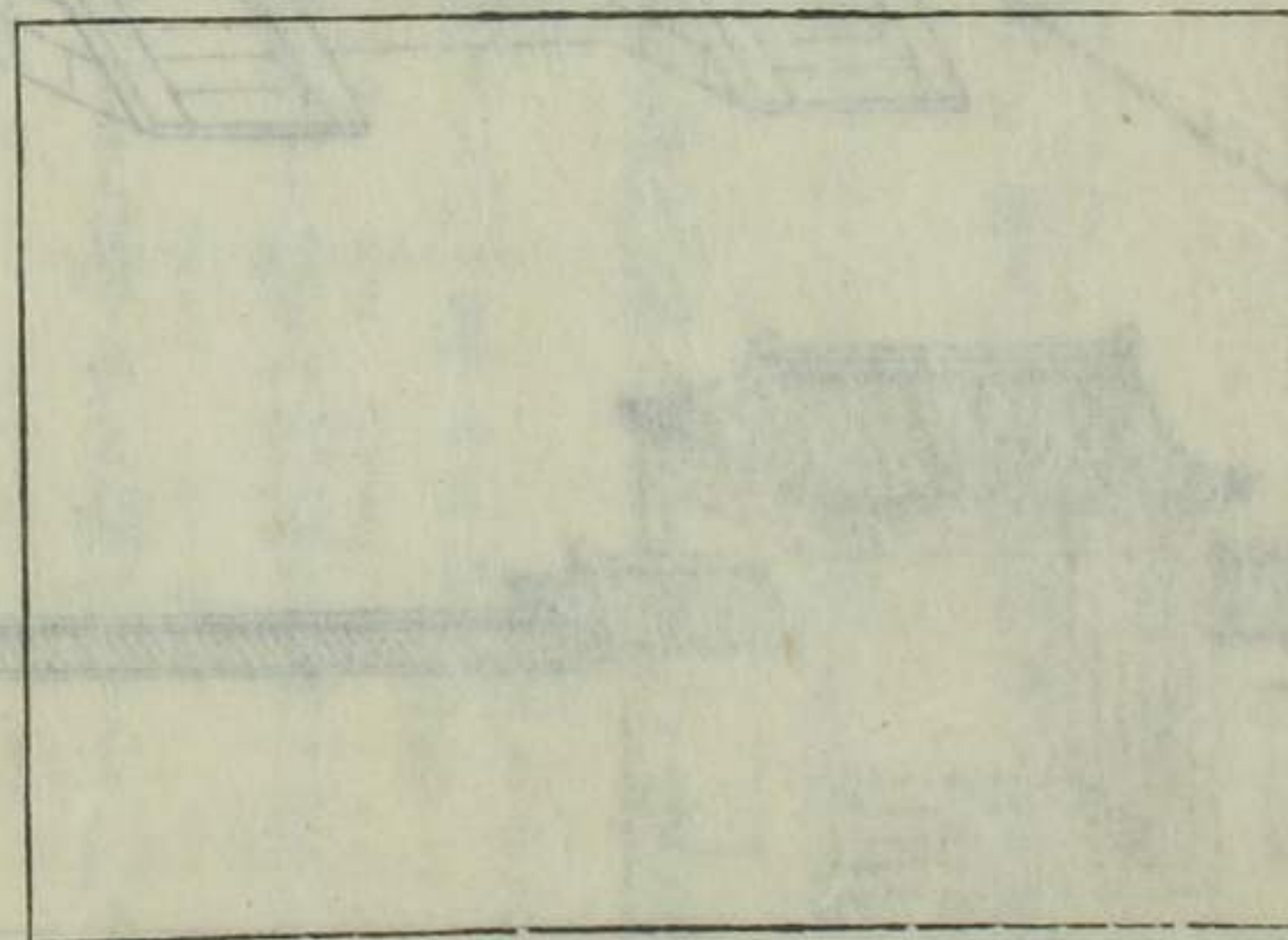
格紙



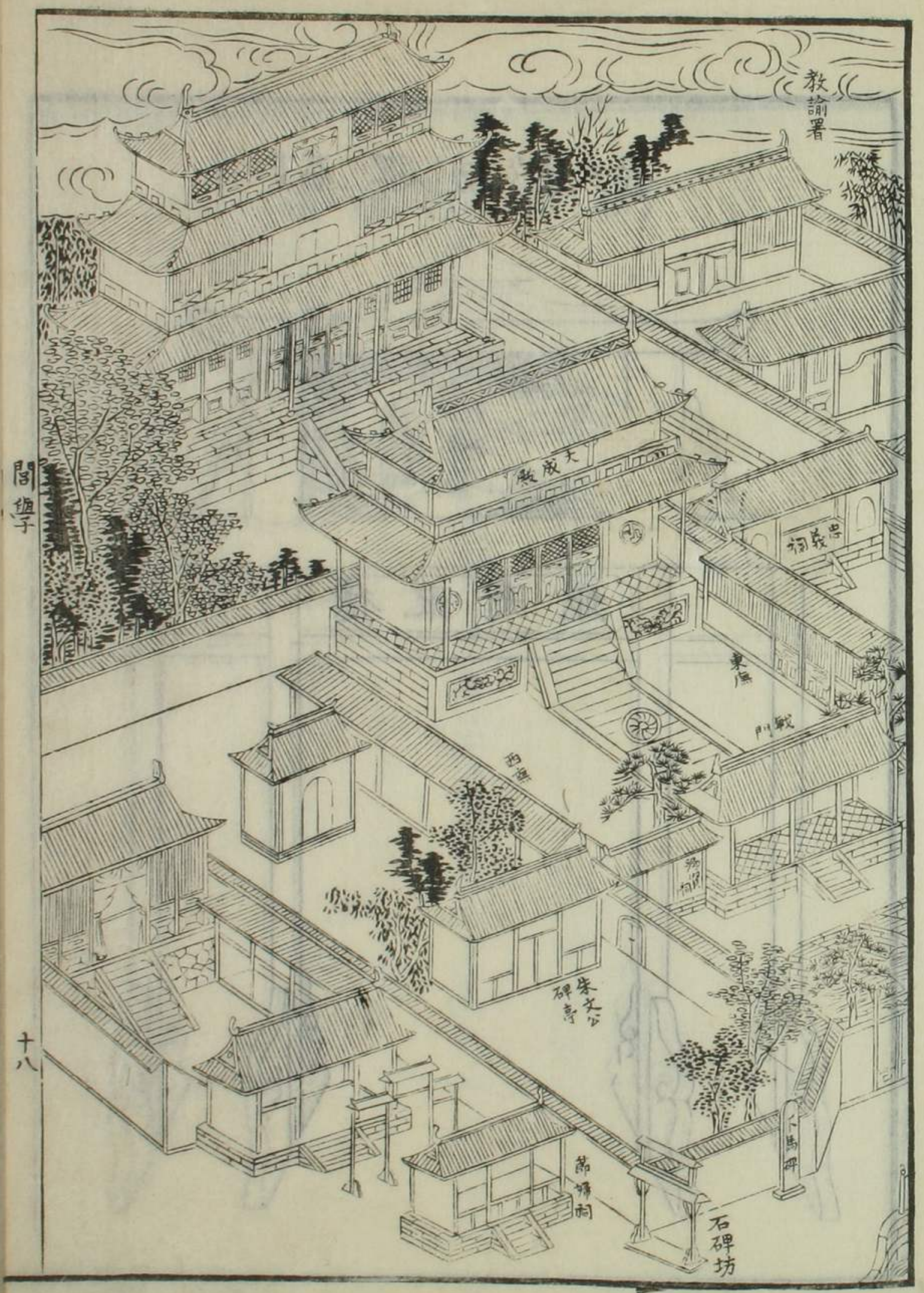
白地紅格



羅紋斗方紙

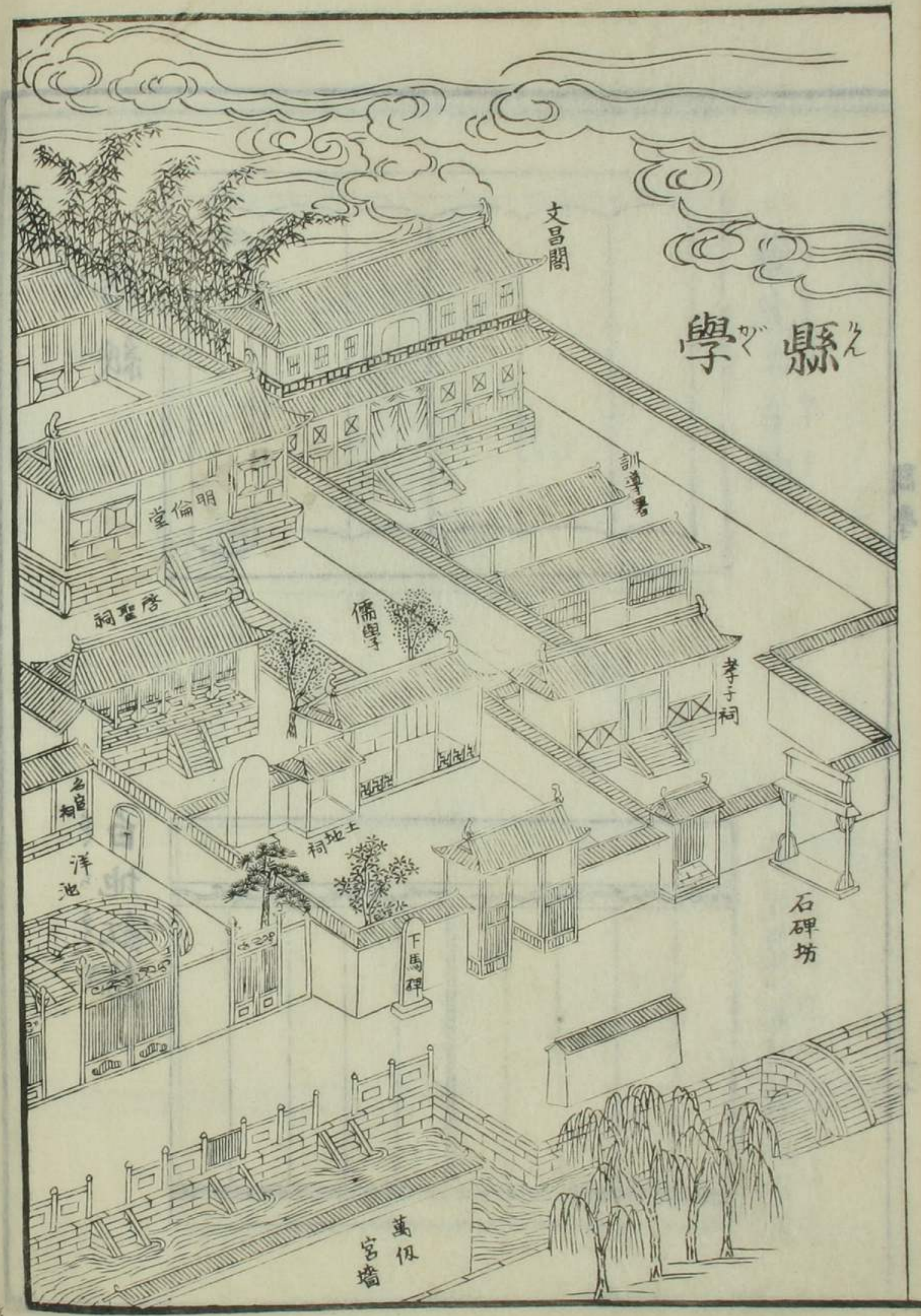


斗方花箋紙各色不同

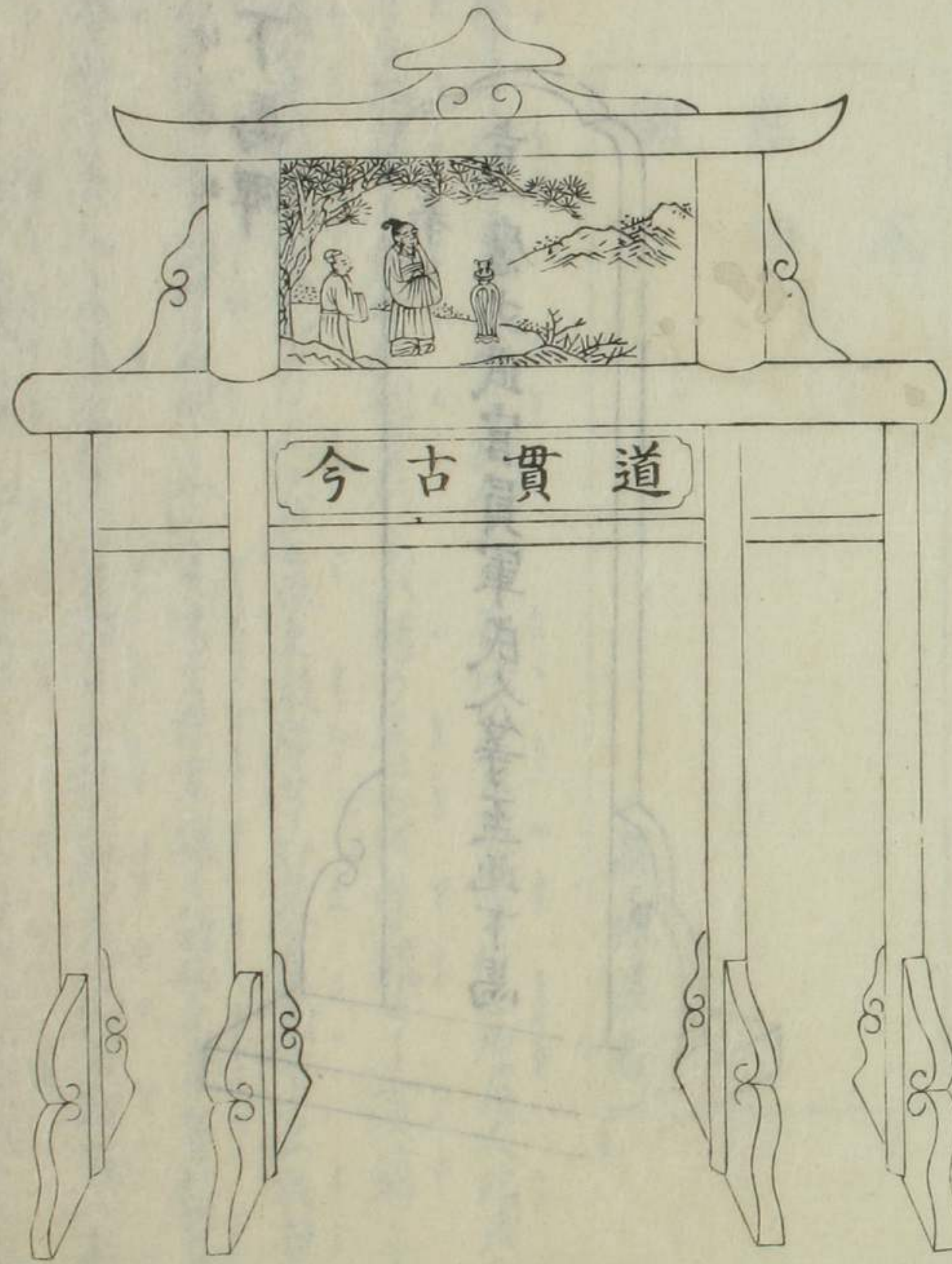


問撫子

十八



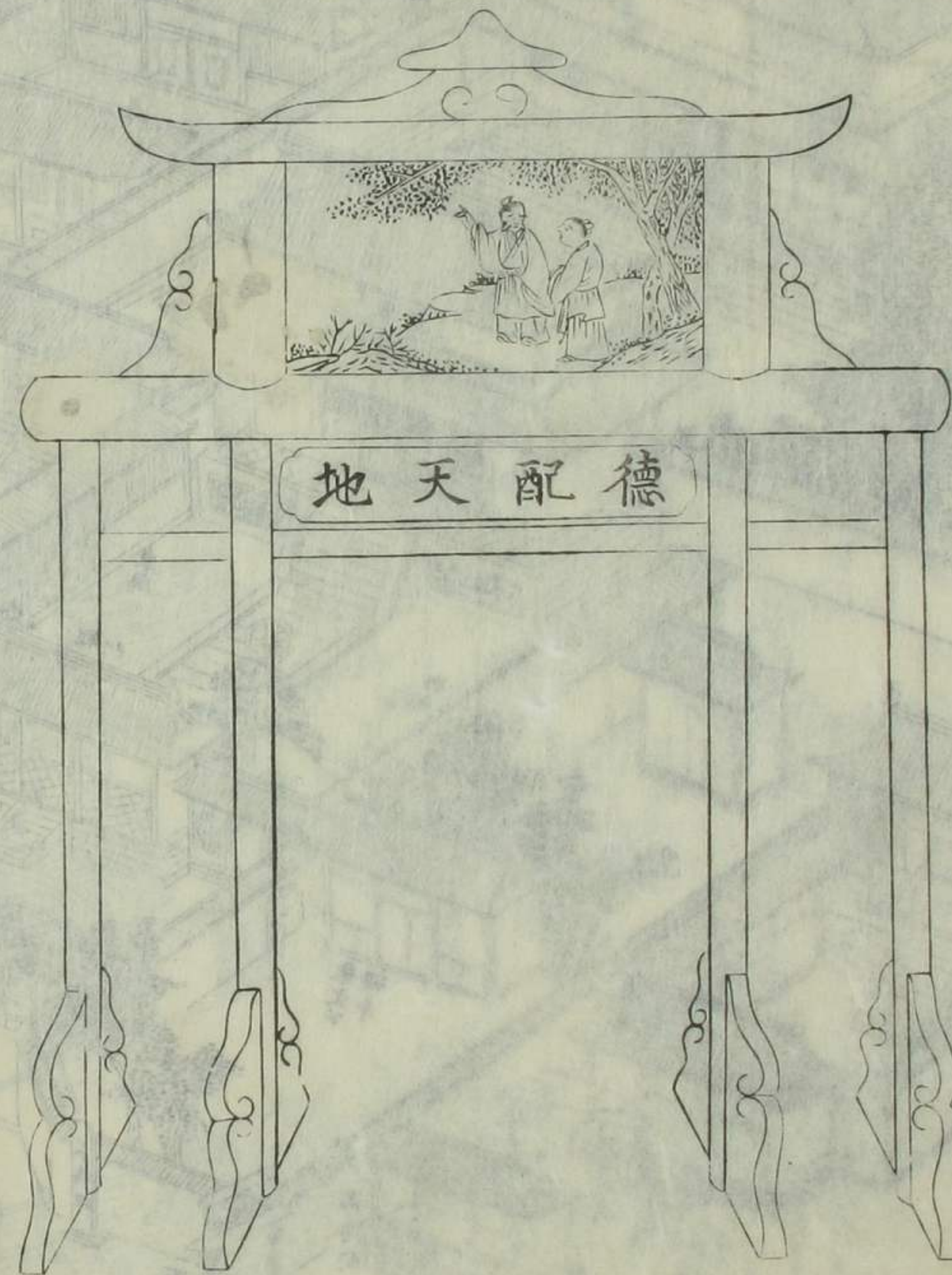
石の碑坊の西の位



閩學

十九

石の碑坊の東の位



下馬碑 げむい

奉

旨一應文武官員軍民人等至此下馬



謝帖 しやくてう

承領惠謝

某姓某名

○義學とて所々あり大官人又々其地の豪家等此志厚人なり
 先生を招請し郷中此祠堂なり成借り其成成學館なり貧窮あり
 東脩等此禮終ひかた人々成集先教導せしむ是を義學とて教授の法
 其外の他法等同學も同一 ○九書生學業進々詩仙文章等此稽古大
 概塾習す人々の意思に上る良師をみ随ひて其儀を討論し其後
 郷試とて一郷中の試みゆく選り成註額なり是も志ある者ばりあり

問學

二十

其郷試を司る官成主考官と云ふ是も原るを考試を經く當時翰林院
 うゆふ詹事科道六部九卿等の内勤らるる人を欽差すなり且
 郷試の分一場中四書本文を題せし文章二篇五律詩一首成なり
 二場中五經代題し經おとれ文章一篇あり且論一篇成なり
 場中策五道表一通を依くし是成郷試と云ふ此より進く縣府を
 試み出く及第中事なり

清俗紀聞卷之五

